

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)		商店街（代表者）	・区域内の夏のイベントは全て中止となっているが、新型コロナウイルス感染者が急増したり、当地において感染者が発生しない限り、徐々に来街者が増加することになり、ある程度の景気回復を望める。また、道内他都市から当地への移動も増加することが見込まれるため、景気はやや良くなる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染者の動向にもよるが、景気は緩やかに回復すると期待している。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルス感染拡大前の水準まで景気が回復するには、まだまだ時間を要するが、少しずつ回復に向かうことになる。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスへの対策やワクチンの開発などが進展することで、景気はやや良くなると期待している。
		コンビニ（店長）	・6月後半から徐々に夜間の来客数が回復してきていることから、今後の景気はやや良くなる。
		家電量販店（経営者）	・特別定額給付金による10万円の給付や今後のプレミアム付商品券事業などにより、今後の景気はやや良くなる。
		家電量販店（店員）	・3～4月よりは来客数が増えてくることになる。
		乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスが終息に向かうことで、徐々に景気も回復すると期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・2～3か月後は9月の決算時期となり、決算に向けて最大限盛り上げていくことになるため、景気は今よりも若干良くなる。
		自動車備品販売店（店長）	・新型コロナウイルスの状況にもよるが、今後については、経済が少しずつ良くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・今後についてはやや良くなる。現時点における政府の施策だけでは、飲食店のV字回復は見込めないが、どうみん割やGOTOキャンペーン事業などにより、消費者の旅行気分が高揚することになるため、その効果を期待している。
		観光型ホテル（経営者）	・自治体や国の観光振興キャンペーンが開始されることで、今後、徐々に来客数が増加することになる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・各種助成金などにより旅行需要が回復することを期待している。
		旅行代理店（従業員）	・北海道における緊急事態宣言の解除以降、人の動きが出てきている。航空利用者はビジネス需要から回復傾向となっており、今後は観光需要回復策のどうみん割やGOTOキャンペーン事業などの効果に期待したい。密にならない北海道の自然観光をアピールできることもプラスである。
		旅行代理店（従業員）	・北海道事業のどうみん割、政府のGOTOキャンペーン事業の効果で、今後、個人旅行の需要が少しずつ回復することになる。ただし、当社主力の組織団体旅行については、主催者側の警戒心が強いことから、今年度中の回復は困難なことが見込まれる。また、万が一、新型コロナウイルス感染の第2波が拡大してしまった場合に、再度移動が制限されてしまうことが気掛かりである。
	旅行代理店（従業員）	・これまで取扱休止していた当社独自の商材について、7月から受付を再開する。どうみん割に加えて、8月からの実施が予定されているGOTOキャンペーン事業の効果もあり、今後は客が増える見込みである。	
	旅行代理店（従業員）	・国や都道府県による施策の効果に加えて、国内の新型コロナウイルスに対する空気感が変わることが見込まれるため、サービス業の景気は上向くことになる。現在よりも景気が悪くなることは考えにくい。	
	タクシー運転手	・これまでの外出自粛の反動で、外出意欲が旺盛になることが見込まれる。さらに、GOTOキャンペーン事業により、観光意欲が刺激されることも見込める。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（企画担当）	・これから発売予定の通信機器が、人との接触を減らすためのツールとして活用されると期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
		観光名所（従業員）	・6月1日から営業休止を解除している。例年であれば3000～4000人の利用があるところ、100人と極めて少ない利用者からのスタートであったが、1日で5人増え、1週間では50人増えと、ほんの少しずつではあるが、利用客が間違いなく増えてきている。このため、3か月先も例年並みの水準とはいかないだろうが、利用客が回復することを期待できる。
		美容室（経営者）	・現在よりは売上が増加することになる。ただし、新型コロナウイルスが終息しない限り、当分は距離の確保や消毒作業によって、従来のような仕事の動きができない環境にあるため、従来と同様の売上には到達しにくいとみられる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・国や自治体の各種施策により、輸送量の増加が期待できる。
		商店街（代表者） 一般小売店〔土産〕（経営者）	・先行きが全く見通せない。 ・県外移動が可能になったとはいえ、今後3か月では北海道の感染もまだまだ収まらないと見込まれるため、ビジネス以外で北海道を訪れようという客はそう多くないとみられる。さらに、今後、クラスターの発生などにより、新型コロナウイルスの感染者が増えることになれば、そういう傾向が一層強まるのではないかと危惧している。やはり観光で遊びに行くというムードが出てくるまで、売上が前年並みに回復するのは厳しい状況にある。
		百貨店（役員）	・正確には、景気が変わらないというよりも、どうなるか分からない。今は若干回復の勢いがみられるが、先行きの見通しについてはなかなか確信を持っていない状況であり、秋口からの動きを注視しているところである。
		スーパー（店長）	・学校行事や社会行事、夏祭り、花火大会、ライブなどの各種イベントなどに左右されるカテゴリが多いため、これらが通常の状態に戻らない限り、これ以上の業績は望めない。
		スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルスの影響がまだまだ後を引くことになる。
		スーパー（役員）	・景気の良い業態もみられるが、病院や銀行なども景況感が悪化していること、新型コロナウイルスの感染者数の動向がやや悪い方向に変化していることがマイナスとなる。今後の感染者数の推移や行政の動きにもよるが、これから数か月で景気が良くなることは絶対でない。
		乗用車販売店（経営者）	・移動の制限緩和などにより、景気は徐々に回復傾向となるが、本格的な回復は秋以降になる。
		乗用車販売店（従業員）	・旅行やショッピングに関心のある客は多いが、まだ先行きの不透明な状況にあることから、しばらくは自動車などの高額商材の購入にはつながらない。
		乗用車販売店（従業員）	・外出自粛などの解除により、経済が動き始めた一方で、新型コロナウイルスの感染者数が増えてきている兆しもみられる。マイナス要素とプラス要素があるため、全体では景気は余り変わらない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・まだまだ予断を許さない状況にあることから、景気は変わらない。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの影響はまだまだ続く。昼夜の出入が回復するまで相当な時間が掛かることになるだろうし、インバウンドなどの観光客が回復するまで1年以上は掛かるとみられる。これから第3～4波が生じることになれば、現在よりもますますひどい状況となり、倒産するタクシー会社が続出するのではないかと心配している。そうなると、地域の公共交通が維持できなくなるため、国、自治体などの早急な支援が必要である。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの影響は段々と薄まりつつあるが、国民のライフスタイルの変化により、タクシー事業の市場縮小は避けられない。
		観光名所（職員）	・新型コロナウイルスの影響で来場者が激減しており、先の見えない状況にある。今後、インバウンドの回復には相当の時間を要するため、国内の観光回復施策の早急な実施が望まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・今後の情勢次第だとみられるが、先の見えない観が拭えない。
		商店街（代表者）	・全ての業種に影響が出ており、今後、第2波が起きれば、一層厳しい状況になる。感染者数ばかり報道して不安をあおるのではなく、新型コロナウイルスに関する正確な特徴や情報を政府が発信するなどして、感染対策のより具体的な情報を示すことが求められる。
		商店街（代表者）	・客の買物の様子を見ると、商材に対する評価が段々と厳しくなっていることから、今後の景気はやや悪くなる。
		百貨店（営業販促担当）	・今後、特別定額給付金やキャッシュレス・消費者還元事業の効果が落ち着くことで、客の支出は慎重になる。一方、仕入先の衣料品メーカーなどが秋以降の生産量を抑える予定であるため、売上に影響が出てくるのが懸念される。
		スーパー（店長）	・今後、新型コロナウイルスの影響が収束するとともに、デフレ傾向が強まることが見込まれる。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響により、今後の景気はやや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・観光業の見通しがまだ立たず、先行きが不透明なことから、今後の景気はやや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・お祭りなど、中止になっているイベントが多いことに加えて、今年に入りホテルの閉館なども生じていることから、今後の景気はやや悪くなる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・新型コロナウイルスの動きが安定しているが、落ち込んだ景気が以前と同様の水準まで回復していないため、夏から秋にかけて客の購買が低迷することになる。
		タクシー運転手	・タクシー利用について、法人からの問合せや予約が徐々に入ってきているが、観光関係やイベント関係での利用はまだまだ戻ってきていないことから、今後の景気はやや悪くなる。
		タクシー運転手	・いまだに新型コロナウイルスの感染者が生じており、今後、第2～3回目の緊急事態宣言が出される可能性もあるため、楽観視できない状況にある。毎年恒例の地域イベントも中止となっており、人の動きは例年よりも少なくなる。
	×	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの影響に加えて、キャッシュレス・消費者還元事業が終了したことで、今後の消費の冷え込みが懸念される。シーズンオフに向かう時期となることもマイナスである。
	×	商店街（代表者）	・繁華街は怖いという印象が強く、避けられている状況にある。ヒアリングしたところ、家庭で夫が妻から、なぜ危ないところに行くのか、飲みに行くのは禁止といったことを言われ、全く外出できないようである。景気回復には家庭の妻がキーマンとなっており、その雪解けなくして繁華街の活性化はあり得ない。そういう意味では、家庭を巻き込んだ外出刺激策が必要であり、それこそが早期の経済界回復につながることになる。
	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	・当地では、観光地の土産品店で倒産が目立つようになってきた。従業員への休業補償と併せて、会社を守っていかねれば、新型コロナウイルスが終息しても勤める会社がなくなってしまう。中小事業者向けの持続化給付金では最大200万円の給付が行われるが、その金額ではどうにもならないのが現実である。
	×	百貨店（売場主任）	・当地や東京において、新型コロナウイルス感染者の発生が続く限り、今後も厳しい状況が続く。
	×	スーパー（企画担当）	・緊急事態宣言が解除され、世の中が新しい日常へ向かいつつあるものの、ウィズコロナの状況下、ほぼ全ての産業が先行き不透明な状況となっており、今後、雇用所得環境が大きく悪化する懸念が払拭できない。先行きについては、不安材料しかない。
	×	スーパー（役員）	・緊急事態宣言が解除されたが、観光施設や飲食店への入出はそれほど増えておらず、我慢の限界を超えつつある。閉店する店などが増えていることから、今後の景気は悪化する。
	×	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐことを目的に、イベントなどが過剰に削減されているため、地域経済に影響を与えることになる。さらに、観光客の減少により、夏場の需要が大幅に減少することも見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	コンビニ（エリア担当）	・6月末でキャッシュレス・消費者還元事業が終了することがマイナスとなる。また、新型コロナウイルスの影響が薄れることで、客が大型店に出掛けるようになれば、近所のコンビニなどで買物を済ませる機会が減るため、客単価が低下することになる。
	×	衣料品専門店（店長）	・外出する機会が減り、金を使わない生活となっていることから、身なりに関することに投資するようになるのはまだまだ先となる。どこかに出掛ける用事が増えるまで、この業界はどん底といえる。
	×	その他専門店〔造花〕（店長）	・新型コロナウイルス収束後の出口戦略が見付からないため、今後の景気は悪くなる。
	×	高級レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で客足が戻ってこない。これから先の見通しも立たないことから、景気が上向いてくるとはいえない。ワクチンなどが開発されない限り、消費者の金の使い方は変わらない。
	×	高級レストラン（スタッフ）	・今は国や自治体からの補助や一時金などがあるが、いつまでも続くことはないため、今後の景気は厳しくなる。
	×	スナック（経営者）	・これからはしばらくは新型コロナウイルスの状況が良くなりないとみられるため、今後の景気は悪くなる。
	×	旅行代理店（従業員）	・先行きの見通しが立たないため、一時的に需要が増えたとしても、長期的な回復を見込めない状況にある。
	×	タクシー運転手	・現状、この先の見通しが全く立たない状況にある。タクシー業界は、地元客や観光客などの需要で仕事が成り立っているが、新型コロナウイルスが収束しない限り、観光客の入込が見込めず、イベントなども開催できない状況が続くことになり、景気は悪くなる。
	×	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチンが開発されたり、中小企業への補償が行われない限り、今後の景気回復は見込めない。
	×	住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスの先行きが見通せないため、住宅産業のような大きな金額の買物やローンは控えられることになる。一方、値段の張らない日用雑貨などは引き続き堅調に推移することになる。
	×	住宅販売会社（経営者）	・景気は外出自粛などの期間中よりは上向くことになるが、新型コロナウイルス感染拡大前の状態に戻ることはない。今後は、企業や個人のレベルでコスト削減が進むことになり、デフレが生じやすくなる。それを防ぐためにも大規模な経済対策が期待される。
企業 動向 関連 (北海道)		-	-
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・新型コロナウイルス対策での緊急事態宣言が解除されたことで、建設現場が本格的に動き出していることから、今後の景気はやや良くなる。
		食料品製造業（従業員）	・今のところ、まだ数か月は同様の状況が続くと見込まれる。
		食料品製造業（従業員）	・新型コロナウイルスの影響がいつまで続くか不明なため、今後も景気は変わらない。
		家具製造業（経営者）	・経済活動が活発になるにつれ、新型コロナウイルスの感染者も増加すると想定されることから、右肩上がりに景気が回復するとは考えにくい。そのため、当分は景気も一進一退の状況が続くことになる。
		金属製品製造業（従業員）	・新型コロナウイルスの影響がいつまで続くのか分からない。景気回復の兆しも見えてこない。公共事業費も、来年度以降の新型コロナウイルス対策費がかさむことで、予算が絞られることが見込まれる。
		建設業（経営者）	・公共工事については、土木、建築共に例年と同様のペースで発注が進んでいる。ただ、新型コロナウイルスの影響で、飲食、ホテル、小売、交通関係などの中小企業が大きな打撃を受けていることから、住宅を含めた民間建築工事は、しばらく引き合いが低調なまま推移する。
		建設業（役員）	・公共土木工事を始めとした今年度の工事量は年度計画分をほぼ確保できているが、新型コロナウイルスの影響で次年度以降の受注案件を見通せない状況が当面続く。特に民間発注工事の先行きは不透明であり、今後の受注活動が懸念される。
		輸送業（支店長）	・観光業や個人消費の落ち込みがみられる現状であるが、都市圏を中心に、建築物件にまつわる物流の引き合いが増えてきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（営業担当）	・業界としては、リモート、オンライン関係の設備投資を中心に需要が回復傾向にあり、今後も変化のないまま推移する。
		金融業（従業員）	・緊急事態宣言が解除され、経済活動が再開されたが、新しい生活様式への対応など、経済活動への制約があることから、持ち直しペースは緩慢なものとなる。また、今後、売上減少による倒産や雇用情勢の悪化が見込まれるため、道内景気は底ばいのまま変わらない。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・新型コロナウイルスの影響は計り知れないが、当業界においては影響が余り出ていない。今後、民間設備投資の抑制などが生じるとみられるが、景気対策としての公共設備投資、災害対策工事などがある程度出てくると見込まれるため、全体的な景気は変わらない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・再度の自粛要請がないことが大前提だが、受注量が増加している取引先が多いことから、今後も景気は変わらないまま推移する。
		建設業（従業員）	・新型コロナウイルスの影響によるものなのだが、公共工事において、これまでになかったような工期遅延が始まっている。本来であれば、これからが工事の最盛期となるが、民間工事の減少もあり、今後の動向が怪しい状況になっている。
		司法書士	・現在の社会情勢から、景気が上向きに転じる時期がいつになるか判断できない。
		司法書士	・経済活動が再開しているが、新しい生活様式の実践により、人との接触には十分注意を払うことになるため、営業活動などが活発に行われないことが懸念される。そのため、景気回復は遅れるとみられる。
		コピーサービス業（従業員）	・新型コロナウイルスの影響はしばらく続くとみられるため、業種によっては今後も景況感が変わらないまま推移することになる。
	×	出版・印刷・同関連産業（従業員）	・新型コロナウイルスの影響が大きいことから、今後も景気は変わらない。
	×	司法書士	・新型コロナウイルスの影響で、稼働が低下している工場があり、それに伴って建物の増改築などが様子見の状態となっていることから、今後の景気は悪化する。
	×	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で新規案件の受注に向けて全く動けていないため、今後の景気は悪くなる。これから少しずつ営業を始めても、受注までは時間が掛かることになる。
雇用 関連 (北海道)		-	-
		求人情報誌製作会社（編集者）	・道内の観光需要の高まりが見込まれるため、今後、観光産業が多少は活気付くことになる。空港における人の往来も多少は増えることになり、土産店など、窮地に立たされている事業所で動きが出てくることになる。
		職業安定所（職員）	・更新を含めた新規求人数の減少に伴い、有効求人倍率が低下しているが、経済活動の再開に併せて求人数も徐々に回復することになる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・外出の自粛などは解除されたものの、新型コロナウイルスに対する警戒感や地方ゆえの閉鎖的防衛本能も働いていることで根強い。人出が平常時に近い状態まで回復するにはしばらく時間が掛かりそうなことから、景気は変わらないまま推移する。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・当地で毎年秋に実施されていた野菜やそばなどの収穫イベントが軒並み中止になることが決まっている。今年は観楓会（かんぷうかい）を実施しない企業や団体も多い。そのため、金があっても使う場所がないとみられる。観光業は、どうみん割の効果で若干の好影響が生じるとみられるが、新型コロナウイルスの感染状況次第の面がある。万が一、再度の感染拡大が起これば、再び景気が落ち込むことになる。
		人材派遣会社（社員）	・5月の企業業績の落ち込みは異常なものと認識しているが、緊急事態宣言解除後の6～7月の業績結果をみて、会社の存続を考える中小企業が多いとみられる。持続化給付金が支給されてから店を畳むといったような話も耳に入ってきている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・各種の季節イベントが中止になっていること、感染症対策に伴う費用負担の増加、消費マインドが上向いてこない状況などが重なることで、この先の景況感はじわじわと悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
x		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が2か月連続で前年を下回り、多くの業種で新型コロナウイルスの影響が生じていることから、今後の景気はやや悪くなる。
		職業安定所（職員）	・景気が上向いてくるまで、まだまだ時間が掛かる。夏の観光シーズンに景気が完全に回復することは考えられない状況にあり、しばらくは景気の良くない状態が続く。最悪の場合、体力がなくなり、雇用の維持が難しくなってしまう企業が出てくることも考えられるため、先々について楽観できない状態にある。
		学校〔大学〕（就職担当）	・企業の採用担当者と来春新卒学生の双方の動きをみる限り、新型コロナウイルスの終息を日本全体で感じられるまで、景気が上向きとなることは全く想像できない。新型コロナウイルスの第2～3波を企業だけでなく、学生側も心配している。就職が決まって安どしている学生は、機会の少ないインターンシップでマッチングが成功した学生だけにとどまっている。

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)		競艇場（職員）	・現在、営業再開して1か月ほどである。なじみ客の来場がまだ少ないので、これから売上が増えていくと予想される。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染が一時的に収束するのではないかと予想している。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・仕立ての注文が来るようになり、少し商品の回転が出てきているため動くと考えている。
		百貨店（経営者）	・取引先の生産縮小のため、店頭における商品量は不安だが、まだ行きわたっていない特別定額付金や地方自治体での商店街活性化施策、Go To Travelキャンペーン施策なども予定されているため、消費マインドが継続的に活発になることに期待している。
		スーパー（経営者）	・首都圏での新型コロナウイルス感染拡大次第だが、県をまたぐ往来も解除され、お盆の頃には帰省客もある程度は期待できる。
		コンビニ（経営者）	・朝、昼の客足は戻ってきているが、夜間の客足はまだ戻っていないのが現状である。移動の緩和によりビジネス客の出張等で近隣のホテル利用客が増加すれば、次第に夜も回復に向かうとみているが、土日のイベントの休止が解かれるまでは、完全に元の状況に戻るまでには至らない。
		コンビニ（経営者）	・コンビニ本部の施策が、客にどれだけ響くかが問題ではあるが、少しずつでも客が戻ってきている様子が見えるので期待している。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスによる行動自粛が徐々に弱まってきている。
		コンビニ（エリア担当）	・盛夏に向けて来客数増の期待が持てる。
		衣料品専門店（店長）	・3～5月と需要がなかったが、仕事の再開により少しずつ衣料も動いてくる。今後は、今は全くない婚礼のニーズなども増え、そこも動いてくれると期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・来店客の滞在時間が伸びてきており、商談もしやすくなってきている。製造工場の休止の影響もまだまだあり長納期を避けられない車種もあるが、徐々に改善されつつある。サービス客の入庫はさほど影響がないので、若干良くなることが予想される。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・このまま新型コロナウイルス感染者が小康状態ならばやや良くなるが、飽くまでも今月と比べてである。夏のイベントも全て中止となり、秋に延期された市内の人口が倍になるような大型イベントも中止が決定した。年内はこういった状態が続くとみられる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新型コロナウイルス感染拡大の懸念はあるものの、人の動きが活発化してくれば、それなりに景気は上向きになってくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（経営者）	・ 2～3か月先というとお盆くらいになるが、その頃には新型コロナウイルスの第2波、第3波があったとしても、それが日常になり、全く悪いということにはならないのではないかと。前年や2年前の水準に戻るのには難しいが、今はその程度でもよしとするしかない。
		観光型ホテル（経営者）	・ 新型コロナウイルスの影響で4月上旬から6月までほぼ休業をしていた。7月からは通常営業の予定であるが、予約状況は前年比の3割程度で、休業を余儀なくされる日が何日か発生するとみている。これから先しばらくは、団体旅行の需要は見込めず個人旅行が主流になってくるので経営的には厳しい時期が続く。
		観光型旅館（経営者）	・ 様々な支援策も出てくるので新型コロナウイルスの感染者が大きく増えなければ今よりは良くなる。
		観光型旅館（スタッフ）	・ 政府、観光庁が行うGo Toキャンペーンが8月より始まる。現在、県で行っているキャンペーンも含めると、状況は良くなると見込んでいる。
		旅行代理店（従業員）	・ Go Toキャンペーンが始まり、広域の国内旅行需要が喚起されるとみている。
		旅行代理店（従業員）	・ Go Toキャンペーンが発信されたが、具体的な発動がなされれば少しずつ近隣、国内中心に良くなると考える。しかしインバウンドに関しては新型コロナウイルスが世界的に終息しない限り厳しいと考える。
		通信会社（営業担当）	・ 新型コロナウイルス感染症の流行次第ではあるが、現状の流れのままであれば今より良くなるとみている。
		テーマパーク（職員）	・ 緊急事態宣言が解除され観光地などでも営業再開をしているため、来客が見込まれる。
		美容室（経営者）	・ 新型コロナウイルスは3月から始まり4月が底ということで、そこから段々と良くなっていく。良くなるというよりは、制限がなくなり元に戻り始めているということである。
		商店街（代表者）	・ 景気が浮上するにはまだまだ時間が掛かる。ねぶた祭も中止になったため、夏場の景気が低迷することが予想される。これから夏物需要の季節になるが、動きは鈍くなるのではないかと不安がある。今後の期待も余り望めない状況である。
		商店街（代表者）	・ 今後のことは予想が付かない。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・ 出版物は基本的にベストセラーの影響を受ける可能性が高いが、新型コロナウイルス発生以降、出版件数も抑制されており、将来予測を立てるのが難しい。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・ 6月中旬からは各県からの人の出入りが非常に多くなり、再び新型コロナウイルスが発生するのではないかと心配を皆が持ち始めている。今の悪い状態からは良くなる要素が見いだせない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・ 現在、既存客の来店が前年比で15%ほど落ち込んでいる。それを踏まえれば、しばらくは現在の状態が続くのではないかとみている。ただし、新型コロナウイルス関連商品の動きが顕著なので、一時のほどではないが、しばらくは売上が良い状況が続くとみている。
		百貨店（売場主任）	・ 消費活動が徐々に回復してくるものと予想される一方で、アパレルや服飾関連の取引先の体力が著しく低下、商品の生産背景が急激に悪化しているため、ショップの撤退や商品納入量の削減、派遣いただいているスタッフの減員等の申入れがきており、魅力ある売場の維持が困難になるものと考えられる。
		百貨店（営業担当）	・ 周囲でも、不要な外出や買物を控える動きがまだ見られており、目的のない購買行動に対して慎重であることがうかがえる。
		百貨店（買付担当）	・ 先の見通しが付かない。現在の状況が続く前提で施策等準備を進めるが、新型コロナウイルス感染の収束状況によっては良くも悪くもなると考える。
		スーパー（企画担当）	・ いまだ新型コロナウイルス需要は続いている。内食需要はまだまだあるとみているので、食品スーパーとしては景気が良い状況が続く。
		コンビニ（経営者）	・ 新型コロナウイルスがある程度収まらなければ、客の動きは戻らないとみている。今年一杯は第2波、第3波を警戒しながら、横ばいになればいいかなと思っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・例年であれば気温が高い日が続く売上も上がる時期だが、今年は新型コロナウイルスの影響があるので何ともいえない。第2波、第3波が来ないことを切に願うだけである。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で景気がやや悪いという状況は余り変わらないとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数は回復傾向も、夏祭りや各種イベント中止による消費低迷は続く。またキャッシュレス還元終了も数値に影響を及ぼすと予測する。
		衣料品専門店（経営者）	・祭りやイベントがほとんど中止になり、特に竿燈（かんと）用品の売上がほとんど見込めない。また、土産品の売上も皆無の状態、お中元の出足も鈍い。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症防止のための自粛の後遺症で、旅行もどうしようかと考えてしまう延長上では、洋服を買うという余裕が出るのはまだ先なのではないかと考える。
		衣料品専門店（経営者）	・通常営業に戻した店舗が多くなり少しずつ人の出は多くなってきているが、来客数は思ったほど変化せずペースで増加している状況である。しばらくは現状のままと予測する。
		衣料品専門店（総務担当）	・来客数がなかなか上がらない状況が続くと考えられる。また、夏のボーナス減額等の影響で購買力は上がらないと考えられる。
		乗用車販売店（従業員）	・夏のボーナスが余り出ないという客が増えてきており、今後も販売量は余り伸びないのではないかと予想している。
		乗用車販売店（従業員）	・市場状況、客の来場状況共に3か月前から大きな変化はない。新車を検討しての新規来場は増えていないが、修理等の在庫台数は前年との差がほぼない。
		住関連専門店（経営者）	・新型コロナウイルスはまだまだ終息しないようなので、対面での営業活動ができる見通しが立たない。
		住関連専門店（経営者）	・売上も徐々に回復してきたが、新型コロナウイルスの影響はまだまだ続くとみている。経済活動も活発になってきたが、従来と同様の活動には程遠い。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・先が読めない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響により、落ちた水準のまま推移していくとみている。
		高級レストラン（支配人）	・夜のパーティーは法人系の利用はもはや皆無の状態である。ランチに関しては新しいスタイルでビュッフェを再開し、それが認知されて以前の8割ほど戻ってきている。
		一般レストラン（経営者）	・2～3か月後の予測は全く付かない。新型コロナウイルス次第でもあるし、春のダメージが夏秋に掛けてじわじわと広がっていくことも考えられる。
		一般レストラン（経営者）	・現在、給料日後に少し来客があり良い兆しがみえたのだと考えるが、新型コロナウイルスの影響がなかった頃も月初は余り良くない傾向があったので、これも一過性のものとみている。今後、新型コロナウイルスが終息しない限りは、給料日後に少し良くなるだけで良くない状況が続くと予想している。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルス次第である。海外需要での渡航制限規制解除となった場合でも諸外国や日本国内での新型コロナウイルスに関する水際対策が整備され、安心、安全が保障されない限り、渡航者数回復には相当の時間を要することが想定される。国内需要においては、宿泊、飲食、観光施設など受入れ人数制限により、販売額増加までにはたどり着かない状況が想定される。
		タクシー運転手	・ここ数日、新型コロナウイルスの感染者数が増加している。当初より、秋になれば感染者数が増えるといわれていたことから考えると、現状の余り良くない状況が続くと考えられる。売上は前年比50%以下になるとみている。
		通信会社（営業担当）	・現状から回復するような良い材料に乏しい。
		通信会社（営業担当）	・今後、サービスエリアの拡大が予定されているので、新型コロナウイルス感染の第2波が来なければ、契約訪問や工事対応も順調に進むとみている。自宅のWi-Fi環境整備を希望する客の増加は、しばらく続くことが予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光名所（職員）	・フリー客の動きは少しは出始めているが、観光業においては、やはり団体客が来ないと数字が残せないという苦しさがある。バス会社の、団体を呼び込むときの対応が定まらない限りは、景気が戻ってくるとはいえない。
		遊園地（経営者）	・第2波がどうなるかなど、新型コロナウイルスの状況次第である。また、夏休みが短縮されることなどもあり、見通しを立てるのが難しい。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・夏の祭りやイベントもことごとく中止であり、直接、間接の経済低迷への影響は計り知れない。
		住宅販売会社（経営者）	・戸建て用地の要求が同業他社から増えている。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・新型コロナウイルスの第2波対策としてエアコンの需要は増えることが予想される。
		その他住宅投資の動向を把握できる者（住宅展示場運営会社）	・新型コロナウイルスの感染拡大により、会社員の出勤体制や小中学校の休日体制など、前年度と比較して世の中の動きが大きく異なっているため前年比で約7割の来場を想定しており、今月と大きな変化はないとみている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・ねぶた祭りが中止になったので観光客も少なく、景気が悪くなると予想している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・これからはもっと深刻な状況になっていくのではないかと懸念している。第2波、第3波がいつ来るかも分からない状況の中、経営を続けていくことがしんどい。今までは耐えてこられた多くの企業もこの状況が続けばどんどん窮地に追い込まれる。地方経済はより深刻になっていく。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・経済活動が再開してきているが、新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着かないため、自発的の外出自粛は継続しているようである。4月に比べ影響が軽減してきているとはいえ、今後長期的には廃業、事業縮小が拡大していくと予想している。
		スーパー（経営者）	・7月は都道府県間移動自粛の解除があって経済活動の活性化に期待したが、新型コロナウイルス感染者数の拡大は止まらず、不安が消えない。これまでと同じく食品の消費活動傾向に大きな変化はみられない。各活動は引き続き停滞、低迷し、企業の経営状態の悪化が広がること、また個人の雇用や収入減、所得減少が進み、購買力の低下、消費活動が更に悪化することを強く懸念している。
		スーパー（店長）	・キャッシュレス払いでの還元もなくなり、今以上に客単価の下落が予想される。ボーナス減少とのニュースもあり、売上の減少はまだまだ続くとみられる。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響が落ち着き、飲食店へ流れる客が増えていく傾向は止められないとみている。
		スーパー（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で収入は減少し、無駄な買物はしなくなり、購買意欲も減少、節約志向は強まると予測されるため、今後の景気は厳しくなるとみている。
		スーパー（営業担当）	・県外からの観光客が減少していることから、経済の停滞による需要減少が予測される。
		コンビニ（店長）	・会社も個人も政府の給付金などにより一時的にしのいでも、長い目でみると、会社の売上減少、個人の給料の下落により、これから景気の落ち込みが懸念されるといった状況である。東京での新型コロナウイルス感染者が再び増えてきているといった不安要素が消費者の消費行動に影響を落とすつつある状況で、近い未来は決して明るいものではない。
		衣料品専門店（店長）	・給付金特需が落ち着いた後、以前のような消費に戻ることは考えにくい。
		衣料品専門店（店長）	・自粛解除と特別定額給付金により一時的に客の購買モチベーションが回復したものの、全体的な景気の低迷は変わらないため、再度買い控え傾向が強まることが考えられる。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの影響で消費動向は今後厳しくなる。客の購買意欲が減衰するとみている。
		家電量販店（従業員）	・現在は給付金で買物をする客が多くいるため調子が良いが、2～3か月先はその反動減が出てきてやや悪くなると考えている。
		高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの影響で家に籠っていた客が6月に外出しても、7月以降はまた控えるようになると考えている。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で最低限のものしか売れない。また、新規商談ができない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		遊園地（経営者）	・終息がみえない新型コロナウイルスに対する先行きの不安感がある。
	×	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの影響による4月の最悪の状況から戻ってくるのではないかとみていたが、7月からの予約状況をみてもほとんど入っていない。この先もかなり悪くなるのではないかとみている。
	×	商店街（代表者）	・商店街での夏、秋のイベントも全て中止となっている。自粛ムードはまだまだ続くとみられ、景気は悪化傾向にある。
	×	スーパー（経営者）	・6月末でキャッシュレス・消費者還元事業が終了し、7月からは本来は前年10月からであった消費税増税による収税感が出始める。さらに、収入減少等々があいまって、財布のひもは緩んでいかない。また、新型コロナウイルスの第2波、第3波への備えもある。
	×	スーパー（店長）	・食費、生活費への節約ムードが高まり、安さ優先の買物動向が強くなると予測している。それが競争の激化へとつながり、ややデフレ傾向の兆しが現れると考えている。
	×	コンビニ（経営者）	・平日は7～8割の客が戻ってきているが、土日は5割以下なので、景気はなかなか良くならない。
	×	コンビニ（エリア担当）	・東北では夏場の祭りが最大の商機であるが、全ての祭り、イベント、花火大会等中止により人の動きが数百万人単位で減少するおそれがある。当然売上に直接影響が出ると予測される。
	×	乗用車販売店（本部）	・同調心理からか、近所の目を気にして車両購入を留保するという声も依然多い。まずは消費全体のマインド向上が待たれる。
	×	住関連専門店（経営者）	・新型コロナウイルスによって売上が全くない状況である。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	・地方では新型コロナウイルスの影響で耐えきれずにホテルや飲食店が廃業や規模縮小等をする動きがあり、長期にわたり景況が元に戻ることはないと予想している。世界規模で売り先がない状況ではドラスティックに体制を変え、コストカットをして利益確保を優先するようにせざるを得ないと考えている。
	×	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・地元の飲食店はこの機に廃業ということもあるので全体的な需要は減少する見込みである。業種にかかわらず営業自粛、廃業というところがあるので、好転する兆しはみられない。
	×	一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で先がみえない。
	×	一般レストラン（経営者）	・サービス業の店舗に関しては何かしらの規制を設けなければならない。インバウンドに頼れない今後を想定すれば、エリアの人口密度に応じて業態別に店舗許可を出すべきである。今は助成金があるのでギリギリ踏みとどまっているようだが、インバウンドに対して飽和状態にある会社や店が内需でやっていけるようにならなければ後は負の傾向がずっと続いていく。
	×	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの影響で回復がみえない。
	×	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの第2波が心配される状況になってきたことにより、先が見通せない。
	×	通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス対策として効果的なワクチンが全世界に出回り終息しない限り、今後第2波、第3波も予想されていることから、当面景気回復は望めない。
	×	設計事務所（経営者）	・官公庁発注の案件が6月議会を経て多く発注されたが、新築案件が非常に少ない。また、改修や長期保全などを含む全ての案件で、応札者の3割以上が失格するケースが多発した。これは、原価ぎりぎり又は割った応札であり、今後の受注の激化、低価格が想定されるため、景気は悪化するとみている。
企業 動向 関連 (東北)		-	-
		農林水産業（従業者）	・さくらんぼ直売所への乗客は例年の7～8割の状況であるが、これからは段々と良くなって、例年並みまでには戻らるうという話をパートの人から聞いている。
		食料品製造業（経営者）	・今後、現時点よりは売上も回復するだろうが、夏から秋の観光シーズンが本来の書き入れ時なので、どこまで回復するか分からず心配である。
		建設業（従業員）	・予断を許さない状況だが、遅れていた計画や発注手続が再開する前提で上向きになってくることが想定される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（広報担当）	・県内の大型夏祭りは今年相次いで中止となり、インバウンド需要の回復が見込みづらいななかではあるが、特別定額給付金の効果顕在化も含め、消費動向は改善していくものと考えられる。ただし、新型コロナウイルス禍が当面再来しない前提の話である。
		広告代理店（経営者）	・新型コロナウイルス発生前の状態には戻らないと確信しているが、今後80%程度は戻ってほしい。新たな案件発掘や提案の方法を模索している。
		経営コンサルタント	・新型コロナウイルスの第2波が来ない前提ではあるが、景気は上向くと考えている。
		食料品製造業（経営者）	・秋までは観光やイベントでの集客は望めないため、厳しい状況は続くと思われる。
		食料品製造業（営業担当）	・徐々に売上が回復することを願いたい、良くなる材料がない。厳しい状況は続くと思っており、先行きは暗い。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の第2波の心配もあり、劇的に経済が良くなる気配もない。来年の今頃まで長引くのではないかと。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・新型コロナウイルスの影響でプラス要素とマイナス要素が共存する状況は今後も継続するため、現状から大きな変化はないとみている。しかし、テレワーク用機器及び携帯端末の需要は徐々に拡大するとみられ、業界的には良くなる方向と予想する。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響による自粛規制は緩くなってきたが、景気が回復して上振れするにはまだ時間が必要である。
		通信業（営業担当）	・客の反応を見ながら徐々に対面営業をしていく。
		通信業（営業担当）	・テレワークに関する客からの問合せは多いが、タブレット端末などの入荷が不安定なため、受注に至らないケースが出てきている。
		広告業協会（役員）	・10月以降の大型イベントも中止にする方向であり、広告業界としては、人が集まることをちゅうちょしている世の中での状況ではなかなか復活も見通せない。
		広告代理店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の治療薬、ワクチンの開発など抜本的な解決先が見いだせないため変わらない。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・新型コロナウイルスに対する抜本的な予防法、治療法が確立しない状況下で、外食や宴会の状況が新型コロナウイルス前まで回復するのは難しい。また、東京を中心とした都市部の方が新型コロナウイルスに対する不安感が強いことから、都市部ほど回復は遅れると想定している。県内においては出張者、旅行者の流入が戻らない影響が大きい。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・7月以降の受注残が前年より約30%落ち込んでおり、景気はしばらく良くならないとみている。
		金融業（営業担当）	・まだまだ様子見の状況が続くようである。
		司法書士	・当地の登記所における不動産登記申請の受付件数が前年同月比で8%減となっている。不動産取引自体も減少傾向が続いている。
		公認会計士	・新型コロナウイルスの今後の状況がみえないので、小売、飲食、サービス関係は業績悪化が避けられない。建設関係が現在の景気を維持したとしても全体的には景気の下降が続く、やや悪くなるのではないかとみている。
		コピーサービス業（従業員）	・新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波に備えて働き方改革に取り組もうとしている企業が増えているようだが、具体的な動きはまだみえない状況で、すぐに景気が戻るとは考えられない。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・新しい生活様式、マスク着用、社会的距離、ウィズコロナなど、あふれる新語が知らず知らずのうちに国民に自粛といった行動阻害を促している。行き過ぎた警戒感が心配である。
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・雇用調整助成金の活用が目立ってきた。ますます同業他社との価格競争が激しくなっており、仕事量が減少している。
	×	農林水産業（従業者）	・国内の米の在庫量が多くなっており、令和2年産米の価格下落が予想されている。
	×	窯業・土石製品製造業（役員）	・新型コロナウイルスの感染拡大による国の経済対策で、大幅な財政の圧迫から不要不急の公共工事が中断、延期の可能性もある。民間設備投資も減少傾向にあり、良くなる要素が全くない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	金属製品製造業（経営者）	・客からの情報が極端に少ない状況の中、今後3か月では業績の回復は期待できない。
	×	建設業（企画担当）	・客先の設備投資計画の延期や中止は、受注予定の減少につながり、受注量の減少は競争の激化、更には売上の低下に直結する。また、関連する専門工事業者にもその影響が及ぶと推察される。
	×	輸送業（経営者）	・プラス要因、マイナス要因どちらもあるが、現状だとマイナス要因の方が少し多い。プラス要因としては、7月頃から輸出、輸入関連貨物がやや回復してくるとみている。マイナス要因としては、一昨年から続いている主要製造業取引先の減産が今後更に増える見込みである。
	×	その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・サラリーマンの残業がほとんどなくなり、パートの人たちの出勤が非常に減って手取り収入が減少したという話を周囲から聞いている。内需拡大や購買に結びつく材料も全然見当たらない。大変心配している。
雇用 関連 (東北)		アウトソーシング企業（社員）	・県をまたぐ移動の制限も解除され、これから先、元に戻ってくれることを期待している。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数は前年比同水準を保っており、企業からは求人が出始めている。新規求人数は復調の兆しがみえる。
		人材派遣会社（社員）	・当初、緊急事態宣言の中で最悪の状況を見越していた企業も多かったが、予想よりも仕事がなくなっておらず、今まで人手不足だった企業でも採用活動をそのまま継続しているところが多くなっている。特にメーカー、建設資材、清掃や警備などのサービスといった企業からはそういった話が多く聞かれるので、今までと同じ状況が続くのではないかと考えている。
		人材派遣会社（社員）	・まだ求人数の戻りは緩やかなので、ここから新型コロナウイルスの影響でどのようになってくるかは未知数である。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスのワクチンが開発されるなど、安心して働ける環境になるまでは、なかなか求人数などは上向かないとみている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・県をまたぐ移動の制限も解除になるなど、モノが動き始め、対面しないでの経済活動を模索するなど、地元企業も必死に新しい販路に挑戦している。ただし、景気に反映できるのはずっと先のことで、まずは経費を抑えることが最優先になるため、しばらくは求人回復の見込みはない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・スポーツイベントや地域の祭り、催事の中止が10月頃まで確定していて、反転の起点となりそうな好材料が見当たらない。年末年始景気を見込んでいたが、新型コロナウイルスの特効薬やワクチン開発など終息につながるニュースがない限り、停滞感は続くと思われる。
		職業安定所（職員）	・緊急事態宣言解除後も、先行きの不透明感を訴える企業が多い。
		職業安定所（職員）	・求人数が伸びるといって予測にない。
		職業安定所（職員）	・景気が良くなる材料が見当たらない。
		学校〔専門学校〕	・新型コロナウイルスの影響による自粛ムードが尾を引いている。
		人材派遣会社（社員）	・テレワークを実際に体験したことで、従業員の活用方法や事務所自体の必要性の有無を再認識した企業が出てきそうな感触がある。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの影響が長引き、雇用が悪化すると予測している。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの影響により、毎月の求人数が連続して減少しており、求人倍率についても連続して低下している。また、求人への応募も減少している。
		人材派遣会社（社員）	・減少した派遣需要案件に複数の派遣会社が群がっている構造がみえる。業界を挙げて開拓部署が他の派遣会社の案件をリサーチし、あえて競合に持ち込む消耗戦を以前に増して実行している。
		人材派遣会社（社員）	・外資系企業の派遣スタッフ終了や、大手企業のリモートワーク推進により、北日本で支店を展開する必要がなくなってきたため、第2波が来たら、壊滅的な打撃を受けると推測される。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルス感染拡大の影響はなくなる。ない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
----	----------	-------	----------------

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)		観光型ホテル（経営者）	・Go To Travelキャンペーンが始まっていると思うので、ある程度の効果はあるのではないかと。しかし、それも新型コロナウイルス感染の第2波の状況による。
		都市型ホテル（営業担当）	・5～6月が厳しく底だと思つたので、2～3か月後は、現状と比較すれば良くなる。
		通信会社（営業担当）	・給付金等による消費が増えることで、一定の経済効果が見込める。
		ゴルフ場（総務担当）	・新型コロナウイルス感染の拡大が落ち着いてきているため、良くなる。
		百貨店（営業担当）	・客単価や来客数をみると回復傾向にあることは間違いないが、今後の見通しが難しい。新型コロナウイルスの影響次第になるが、現状が続くならば今よりはやや良くなるのではないかと。
		百貨店（店長）	・新型コロナウイルス感染が収束に向かいつつあるなかで、やや良くなる。
		コンビニ（経営者）	・今後は、県外や市外の客が1～2か月前よりも増えてくるのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・現在、来客数が1日平均40～50人増えてきているが、この先も100人くらいは増えると考えられるので、良くなる。
		家電量販店（店長）	・東京オリンピック需要で、やや良くなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・今の景気のままでは本当に大変である。客は来ない上に、車は売れないので、希望的観測だが、2～3か月先は良くなってもらえないと困る。
		住関連専門店（仕入担当）	・先行きは不透明だが、今後2～3か月は自粛していた反動が一気にというより、少しずつ表れてくるのではないかと。
		その他専門店〔靴小売業〕（経営者）	・良くなるといっても4～5月の状態よりはという話である。学校も始まり、地域観光の補助金は、家に籠もりがちな人の目を外に向けさせるには良いと思う。長期的にはメーカーの動向が、しっかりしていくことが大切である。
		一般レストラン（経営者）	・ワクチンの開発や治療法が確立し、少しずつでも元どおりの生活に戻ってほしい。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・社会情勢が変わりがなく、現状が続けばやや良くなる。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・新型コロナウイルスのワクチンの開発や実用化の見通しが見えてくれば、安心感が一層広がってくる。ただし、新型コロナウイルス収束後の戻りは、以前とは違う面も出てくるとみられ、テイクアウトの仕方など、適合した取組を強化したい。ただし、第2波、第3波の感染拡大等があった場合は、相当に重い影響が出ると懸念される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・県をまたぐ移動制限が解除になり、宿泊稼働は、15%前後から40%台へと少しずつ上がってきている。会議やミーティングの予約も、徐々に上がってきている。宴会、レストランの利用ははまだ回復していない。新型コロナウイルス感染防止対策をしっかりとアピールして、消費者マインドが上向いてきたときに選ばれるホテルとなるよう仕込みを続けたい。
		都市型ホテル（副支配人）	・Jリーグが再開し、Jリーグ関連の予約がかなり見込まれる。これらを起爆剤に今後の売上をある程度まで回復させたい。
		旅行代理店（所長）	・自治体の実施する宿泊補助事業やGo To Travelキャンペーンの成果が現れてくることに期待したい。
		旅行代理店（従業員）	・国の補助金事業等により、少しずつ回復する見込みである。
		通信会社（社員）	・新型コロナウイルスによる自粛生活から、段階的に制限が緩和され、営業活動も徐々に再開している。
	競輪場（職員）	・やっと観客を入れることができるようになったので、販売量も増えるとみている。	
	設計事務所（所長）	・「Withコロナ」が定着してきて、経済が動き出すため、やや良くなる。	
	住宅販売会社（経営者）	・新規分譲も始まり、今後、新型コロナウイルスの第2波が来ない限り、順調に回復に向かうとみている。	
	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・自粛解除になっても、新型コロナウイルスの陽性者がまた増えてきている。まだ、安心して外には出られない。特に、高齢者の動きが悪い。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔家電〕 (経営者)	・職業柄、夏になるのでエアコンは出ると思うが、特別定額給付金で買うという客がいる一方、買い控えしている客も結構いるので、どちらとも言えない。
		一般小売店〔青果〕 (店長)	・このままの状態であれば、売上も少しずつ回復していくと思うが、新型コロナウイルスの感染者がまた増えて以前の状態に戻るとなると、何とも言えない。
		百貨店(営業担当)	・新型コロナウイルス収束のめどが立たない以上、コロナ発生前の水準に戻ることはない。ただし、現在が底であると仮定すると、一定程度の回復は見込まれる。
		百貨店(営業担当) コンビニ(経営者)	・現時点では、2～3か月といえども状況は不透明である。
		コンビニ(店長)	・社会全体のリモート勤務、「新しい生活様式」、また、7月からのレジ袋の有料化等、影響が予想できず、売上の見込みも全く予想できない。世の中の動きが見えないため、前年データも発注の参考にならず、苦労が多い毎日である。夏に多少の希望を持っているが、利益圧縮のなか、11月の時給アップの勤奨などできないと心配している。
		衣料品専門店(統括)	・学校が始まり、来客数は幾分増えるのではないかと。ただし、各種イベントが中止になっているので、入出は現在より余り増えるとは思わない。
		家電量販店(店員)	・今年は新型コロナウイルスの大問題で、全県の祭りが全て中止となっている。例年だと、今ごろから夏祭りの準備に入るが、ほとんどない。新型コロナウイルス対策はまだ続くと思うが、早く収束することを願っている。
		乗用車販売店(経営者)	・変わらず好調に推移する。定額給付金の給付による消費の原資があることと、ステイホームの観点が強く、旅行にはまだ多くの出費をしないとみている。
		乗用車販売店(販売担当)	・当地域は、公共交通のインフラが余り良いとはいえないため、車なしの生活は考えられない。最低でも1人1台保有している感じである。買換え期間は多少延びたりするが、高齢化による免許証返納分を除けば、これ以上の減少はしない。
		自動車備品販売店(経営者)	・2～3か月先は、ホテル、ドライブイン関係のいるような方に話を聞くと、「合宿、一般フリー客の予約は、8～9月まで本当に入っていない状態で、夏の林間学校なども秋口に予定しているが、不透明である」とのことである。新型コロナウイルスの影響が落ち着いた限りは、当店の立地する観光地は、今月と同様に最悪の状態に進む。
		旅行代理店(経営者)	・自粛の反動による行動増加や特別定額給付金の給付で手元現金があることから、多少は購買意欲等がプラスになっていくと思うが、絶対的な自動車稼働率は低下している。今後も下がっていくとなれば、先が読めない状況に陥る。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染の第2波が懸念され、完全に旅行者が戻るとは思えない。
		通信会社(総務担当)	・地方の田舎では、そう簡単に良くなるようには思えない。
		スーパー(商品部担当)	・新型コロナウイルスの感染次第だが、外出制限がかからなければ、例年並みになりそうである。
		スーパー(商品部担当)	・新型コロナウイルスの影響も残るなか、現状では買上点数、単価が通常に戻りつつある。今とこの先3か月を比較すると単価下落分が売上に影響しそうである。また、夏休みの短縮化やGo To Travelキャンペーンの影響が出そうである。
		衣料品専門店(店長)	・新型コロナウイルスの感染次第のため、先は読めないものの、厳しい状態が続くとみている。
		住関連専門店(店長)	・特別定額給付金の特需が終わりに向かい、外出自粛緩和等で遠方への外出が増えることで、自宅DIYやガーデニング需要が減ると想定される。ホームセンターとしては来客数の減少が想定される。
		その他専門店〔燃料〕 (従業員)	・受注が減少しているため、受注残の状況からも、かなり厳しくなってきている。
		通信会社(経営者)	・新型コロナウイルスの影響で、先行きは不透明である。
		美容室(経営者)	・商店会代表者会議前の雑談では、持続化給付金を申請したか否かが挨拶がわりである。個人店主は今を生きるのに必死である。
		その他サービス〔自動車整備業〕(経営者)	・全部門が落ち込んでいるなかで、車体の板金塗装部門の落ち込みは更に進むと予想している。
	x	商店街(代表者)	・新型コロナウイルス感染拡大の抑止が経済の向上に結び付くことが明確である。感染への不安が解消できないため、PCR検査の充実と良薬の早期開発が求められている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスが終息するまでは、どんどん悪くなっていく。
	×	衣料品専門店（販売担当）	・新型コロナウイルスが発生してから、じわじわと人出が悪くなっている。自粛が解除になり、人が街に出るようになって、高齢者は慎重で動きが鈍い。2月後半からずっと、3～6月と徐々に低迷の度合いが厳しくなっている。今後もこの下り坂の傾向は変わらないと考えている。
	×	一般レストラン（経営者）	・近隣の祭りやイベントの中止が決定しており、例年あった打ち上げや大量の弁当、オードブルの注文が全てなくなり、かなり大きな痛手である。
	×	スナック（経営者）	・来客数の増加は見込めず、新型コロナウイルス対策に係る経費がどんどん増加していくので、悪くなる。
	×	都市型ホテル（経営者）	・営業を続けるも地獄、休業するも地獄の状況である。
	×	タクシー（経営者）	・全体的に人の動きが悪いので、この先も悪いと予想する。
	×	タクシー（役員）	・新型コロナウイルスの影響と国の政策が悪過ぎるため、悪くなる。
	×	通信会社（経営者）	・前年同月と比較しても、現状大きな差はない。地方は飲食関係を除けば都市部より新型コロナウイルスの影響は少ない。問題は感染の第2波が発生するかどうかである。いずれにしても、今後数年は新型コロナウイルスの封じ込めは期待できないことを考えると、実体経済の悪化は避けられない。
	×	通信会社（経営者）	・新型コロナウイルス感染の第2波も含め、地方経済は困窮が続き、悪くなる。
	×	テーマパーク（職員）	・県をまたぐ移動の自粛など、感染防止を意識した行動から、まだまだ従来のような観光の動きがない。
	×	設計事務所（所長）	・まだ「新しい生活様式」に対応できる状態ではない企業が多いため、景気回復には相当の時間を要するとみている。
	企業 動向 関連 (北関東)	-	-
		金属製品製造業（経営者）	・調達、資材関係者からの情報では、売上はやや回復するだろうとのことである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・工場の稼働停止により落ち込んだ売上をばん回する動きも出始め、現状よりは上向き見込みである。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・緊急事態宣言の解除により、自動車販売台数が回復基調となっているため、やや良くなる。
		化学工業（経営者）	・先は本当に読みにくい、現状維持が現状よりは良くなるだろうと、希望的観測をしている。
		金属製品製造業（経営者）	・今が一番悪いときで、これから良くなる予定である。今は、希望を持ってやっている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの状況が依然として落ち着いていないため、先々の見極めが難しい。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・新型コロナウイルス発生以来悪く、2～3か月先もこのまま悪い状況である。受注量、販売量、取引先の様子も、2～3か月先では改善する様子はない。10月以降になれば、景気は良くなるのではないかと。
		その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響が、まだしばらくは残ると考える。
		輸送業（営業担当）	・今年は猛暑の予測が出ており、夏物家電、エアコン、冷蔵庫、4Kテレビ等の高額商材について、特別定額給付金の給付で購買力が上がり、輸送量も前月同様、前年の2～3割増が予想されている。今後も大変良い状況が続くそうである。
		不動産業（管理担当）	・休業していた取引先も事業を再開し始めてきているが、今後の新型コロナウイルス感染の状況によって、先がどうなるか読めない。事務所テナントのうち、テレワーク等で規模縮小が可能な事業所は、賃借面積の縮小や撤退を検討する可能性がある。テナントの空室も埋まらない可能性の方が高い。
		広告代理店（営業担当）	・夏の商戦への広告出稿計画が、いまだに入っていない。新型コロナウイルス感染第2波への懸念から、大きな販売促進イベントも実施しにくい。
	経営コンサルタント	・新型コロナウイルスの2次拡大が心配される状況で、その影響は計り知れない。行動自粛が原因の経済的悪影響が広範な業種で依然として残り、観光関連のみならず、生活関連業種自体の先行きも厳しい。また、自主廃業が本格的に増加する可能性は高い。	
	司法書士	・我々、司法書士、行政書士の仕事内容の関係で、余り落ち込まずにいるのかという気がしている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・客に変化は出てきたものの、収益に貢献できるまでには、まだしばらく時間が掛かる。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・緊急事態宣言に伴う自粛で、地域経済は打撃を受けている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・自粛で余りお金が入ってこないの、今後は設備を作るとか住宅のリフォーム等の需要はかなり落ち、更に悪くなるのではないかと。
		建設業（総務担当）	・いつ回復してくるか、正直先が見通せない。
		社会保険労務士	・夏祭りなど毎年恒例のイベントが全て中止になり、広範囲に影響が出そうである。
	x	食料品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの経済活動全体への影響は、これからではないだろうか。
	x	建設業（開発担当）	・現政権誕生後、公共工事は順調である。前政権時のスローガン「コンクリートから人へ」のキャッチフレーズでは大変迷惑を被った。現在は新型コロナウイルス禍で企業は大変厳しい状況で、対策のため、個人も企業も耐える時期である。
雇用 関連 (北関東)		-	-
		人材派遣会社（経営者）	・夏休みを迎えて、海や山などの観光地や娯楽施設等に期待をしているようだが、新型コロナウイルスの心配はまだ拭い去ることはできないため、経済活動はわずかだとみている。観光地等の土産品、食品加工品等の増加は期待できるのではないかと。
		人材派遣会社（社員）	・国、県の旅行等の補助で、これから出るものもあるが、申込みの1宿泊当たり幾らという対策を採っていることもあって、このまま感染の第2波が来なければ、宿泊施設関係の客の戻りは比較的早いと感じている。各施設の予約申込みが他所よりも比較的早いスピードで戻っているという話である。
		人材派遣会社（経営者）	・新型コロナウイルスで、会社がどうなるか少し心配である。この先がどういふふうになるか分からない。
		人材派遣会社（社員）	・秋頃から新型コロナウイルス感染者の増加が予想されており、医療体制や収入面の不安が解消されない限り、現状から大きく改善するとは考えられない。
		人材派遣会社（管理担当）	・自動車関連業への派遣請負は、秋より生産数を上げる計画のため、今後2～3か月は現状維持である。コンビニ向けの麺類製造の生産計画は良いものの、他業種が悪いため、売上は低空飛行のままである。
		職業安定所（職員）	・緊急事態宣言は解除されたが、飲食業や小売業からは「客が戻らない」、製造業からは「仕事量が減少しているので、ラインを減らして作業している」、「納期が延長されている」等の声が寄せられているため、現状が続くとみている。
		職業安定所（職員）	・飲食やサービス関連の事業所では、新型コロナウイルス第2波の感染拡大を警戒して、事業拡大にちゅうちょしているようである。
		*	*
	x	学校〔専門学校〕（副校長）	・新型コロナウイルス感染への心配がすぐには消えない上に、第2波への懸念もある。

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染第2波、第3波次第だが、皆が基本的なことを守りつつ、今の状態をキープすることができれば、間違いなく3か月後は物販を中心に数字は上向く。ただし、世の中の規律が緩み過ぎて、第2波、第3波が早く来るようであれば、マインドは地の底に落ちるので、景気は一気に悪くなる可能性がある（東京都）。
		旅行代理店（販売促進担当）	・Go To Travelキャンペーンが8月から始まることになり、また、春先の修学旅行が9月に延期になっているので、国内旅行は活発になる（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・今月も景気は悪かったので、2～3か月後の景気も、例年に比べれば悪いかもしれないが、今月よりは明らかに回復する。新規客の来場も通常に戻りつつあるので、商談も増えてきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・新型コロナウイルスの影響で売上は萎縮していたが、今後はその反動で売れるようになる。家電に限っては買う物を決めて買っているが、その他の必需品は何かがあるか探して買っている。
		一般小売店〔家電〕 (経営者)	・新型コロナウイルスの影響が落ち着いてくる(東京都)。
		一般小売店〔傘〕(店長)	・ソーシャルディスタンスや熱中症予防に日傘が目立っており、今よりも需要がある。
		一般小売店〔生花〕 (店員)	・6月は、父の日はあったが、母の日と比べるとそれほどでもないし、新型コロナウイルスの影響で駄目だった。9月にはお彼岸があるので期待している(東京都)。
		百貨店(売場主任)	・新型コロナウイルスの収束状況が非常に重要になってくる。この状況下でも食料品は生鮮関係を中心に全般的に好調である。ギフトも思いのほか好調で、現状では前年比マイナス5ポイントとなっている。更に良くなることを期待している(東京都)。
		百貨店(売場主任)	・クリアランスがスタートし、宣伝せずとも集客が上がる時期である。夏の旅行も、海外に行くことができない状況のなか、自家需要での高級食材、ぜいたく品、キッチン用品などの需要もあると見込んでいる(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・消費者の消費に対する慎重な姿勢は継続することが考えられるが、秋以降、特殊要因によるセール体制の継続を予定している。
		百貨店(営業担当)	・人との接触回避のための短時間滞在や目的商品のみ購入等、回復には時間が掛かると想定しているが、悪化には歯止めが掛かっている(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・外出自粛の反動で、売上は前年比で大幅に伸びている現況から、新型コロナウイルス感染の第2波がないという前提の上ではあるが、消費者の購買意欲は継続する。ただし、お金の使い方の変化は確実にある(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・緊急事態宣言の解除後、客はいまだに外出を控える傾向にあるものの、来客数は回復しつつあり、今後も緩やかに伸びることで、今よりは景気も良くなる。ただし、「新しい生活様式」に向けた集客、販促方法や、催事、イベントの開催方法が必要であったり、取引先の受けた影響も大きいことから、従前と同様までに回復するには時間が掛かる。
		百貨店(販売促進担当)	・新型コロナウイルス感染の第2波への懸念は高いが、現状よりは少しずつ回復していくとみている。ただし、インバウンド消費の回復はめどが立たず、微増にとどまる(東京都)。
		百貨店(店長)	・第2波の影響も懸念されるため先行きは不透明だが、客足は少しずつ回復する(東京都)。
		百貨店(企画宣伝担当)	・学校の夏休みが短縮され、新型コロナウイルスの影響で長期の旅行は控えることを想定すると、例年より来客数が増加する見込みであり、売上規模も拡大すると予想している。
		スーパー(販売促進担当)	・まとめ買いの傾向は食品を中心に続く。在宅時間が長くなり、菓子、飲料、冷凍食品の売上増への期待が大きい。
		コンビニ(商品開発担当)	・新型コロナウイルス感染第2波が来ないこと、暑い夏であること、これらに期待を込めている(東京都)。
		家電量販店(店長)	・猛暑による夏物商材の好調が見込まれる。さらに、テレワーク特需関連商材、調理家電、日用品は期待できる。インバウンド需要は期待できないため、その構成比の大きい店舗は国内需要に商品構成を変更し、これまでの概念を変える必要がある(東京都)。
		家電量販店(経営企画担当)	・新型コロナウイルス感染の第2波の心配はあるものの、3か月前の経験はいさるはずであり、リスクもミニマム化されると期待している。楽観視はしていない(東京都)。
		乗用車販売店(経営者)	・新型コロナウイルス感染対策をしっかりととして、来客数が増え、新車の販売が伸びてくれば、景気も回復していく。
		乗用車販売店(店長)	・販売量や来客数が戻ってきている。
		乗用車販売店(総務担当)	・新車投入、サービスの新型コロナウイルス感染対策を売りに客の動きを活性化させ、収益改善を図る。
		乗用車販売店(渉外担当)	・販売量が回復する。
		乗用車販売店(店長代行)	・緊急事態宣言解除後、来客数も徐々に戻りつつあるので、今後は販売台数増加が期待できるのではないかと(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔雑貨〕 (営業担当)	・足元は依然として厳しい状況だが、Go To キャンペーンなどの施策が予定どおりスタートすれば、客足も少しずつ戻ってくるものとみている(東京都)。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(団体役員)	・県をまたぐ移動自粛も解除され、夏の需要シーズンにGo To Travelキャンペーンの開始期待、加えて新型コロナウイルス対策からの自動車移動の増加も予想される(東京都)。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	・新型コロナウイルスの感染第2波がどうなるかで大きく違ってくる。このまま平行線なら、やや回復に向かうものと考える。
		一般レストラン(経営者)	・先々の予約状況を見ると、宴会の予約が何件か入っているので、今までの外出自粛の期間に比べれば、店も街も潤ってくる(東京都)。
		一般レストラン(経営者)	・国内、海外共に人の動きが活発になり、経済も回復の流れになる。国内においては、当社の場合、夏場が書き入れ時だが、3か月後の9月は例年売上が減少に入る時期である。ただし、夏場に海水浴場の閉鎖、夏祭りなどの各種イベントが中止となるため、飲食がレクリエーションの受皿となる可能性がある。9月上旬までの売上は回復が見込めるのではない。
		その他飲食〔給食・レストラン〕(役員)	・6月に入り、徐々に稼働し始めた社員食堂が増えてきており、売上も徐々に戻ってきている。戻りのテンポは緩慢であるものの、4～5月の最悪期は脱したものと判断している。ただし、新型コロナウイルスの第2波が来たら、また最悪の状態に戻る可能性がある(東京都)。
		都市型ホテル(スタッフ)	・今のままでいけば利用客数は若干増えてくるが、更に新型コロナウイルスの感染者が増えたとすると、影響でまた悪化する。
		都市型ホテル(スタッフ)	・見通しは良好とは言えないが、このまま新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いていけば、少なからず良くなっていく。
		旅行代理店(従業員)	・新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が解除され、人々の動きが活発になってきている(東京都)。
		旅行代理店(従業員)	・Go To Travelキャンペーンにかすかな期待をかけている。今後の新型コロナウイルス感染状況次第なのははっきりしない部分が多いが、客に周知し、利用を喚起していく。
		旅行代理店(従業員)	・Go To Travelキャンペーンによる国内旅行需要の復活に期待している。ただし、海外旅行については、受入れ国側のPCR検査等の条件や、日本帰国時の14日間の自己隔離があるので、今年度の需要は厳しいと想定している(東京都)。
		旅行代理店(営業担当)	・Go To Travelキャンペーンに期待している(東京都)。
		旅行代理店(営業担当)	・他県への移動が許可されて、社会が自粛緩和の方向に向かっており、8月には、Go To Travelキャンペーンが始まる。
		旅行代理店(総務担当)	・Go To Travelキャンペーンの実施により、客が国内旅行に行くことを期待している(東京都)。
		タクシー運転手	・少しずつ仕事ができる状態に戻ってきており、一安心である。まだまだ飛まつ感染対策を怠らないよう気を付け、マスク、消毒をしながら仕事をしている。タクシーを利用する客も少しずつ増え、徐々に元に戻りつつある。この状況が長く続くことを願っている。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの影響で経済が止まっているが、これはずっと続くわけではなく、人の流れも出てきてはいる。昔と同じには戻らないが、今よりは多少良くなる(東京都)。
		通信会社(経営者)	・今後、新型コロナウイルスの感染拡大がなければ、景気は良くなる(東京都)。
		通信会社(管理担当)	・巣籠り消費が浸透して、インターネットテレビの便利さを若者以外も感じている。携帯で見られるメリットより、インターネットコンテンツをテレビで見る時代に突入するとみている。
		通信会社(局長)	・しばらくは解約増の精神的ダメージがあるものの、現在よりは通常モードに戻るので、景気は底を突いた感がある(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光名所（職員）	・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため自粛をしていたが、県外への移動が解除されたため、観光地としては今月よりは若干良くなると期待している（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・このままwithコロナに慣れて、夏休みに突入することで感染は横ばいになりつつも、通常の生活に近づけようとする人類、日本人のたくましさを感じる。
		パチンコ店（経営者）	・新型コロナウイルス感染の勢いが収まりつつあり、人の動きが徐々に回復してくることが予想される。
		競輪場（職員）	・人は戻ってきているので、新型コロナウイルスに対するワクチン等の開発により、必ず景気は良くなると信じている。
		その他レジャー施設 【ボウリング場】（支配人）	・緊急事態宣言解除に合わせて営業を再開し1か月がたち、徐々にではあるが来場者が戻ってきている。今後、新型コロナウイルスの感染第2波が来なければ、来場者数も伸びてくる（東京都）。
		その他レジャー施設 【総合】（広報担当）	・イベントを開催できるようになると、状況は大分良くなるが、新型コロナウイルス感染第2波、第3波の発生はとても心配である（東京都）。
		その他レジャー施設 【ボウリング場】（営業担当）	・6月19日に県をまたぐ移動も解禁され、近場へ外出する人もそれまでより多くなったように感じる。だが、団体や法人のイベントやレクリエーション、懇親会には慎重なところがほとんどであるため、少人数や個人利用の客で若干良くなると見込んでいる（東京都）。
		その他サービス【立体駐車場】（経営者）	・客が戻ってくる。
		設計事務所（経営者）	・官庁の入札案件数が増えてきたので、例年どおりの落札ができれば希望が持てる。ただし、運次第の側面があるので、楽観できる状況ではない。
		設計事務所（所長）	・緊急事態宣言が解除され、仕事の話が多少入ってきている。今後、新型コロナウイルスがどうなるかによっては、多少良くなる（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・契約に向けて具体的な打合せをする客が増えてきている。
		商店街（代表者）	・現状で新型コロナウイルスがまだ収束していない、また、東京辺りはまた少し拡大傾向にあるということからすると、先行きの景気については何とも言えない。このままでは小売業、飲食業は皆駄目になってしまうので、今は解決策を模索しながらやっているという状況である。国の手厚い補助金をもらいながら、先行きが少しでも良くなるように、今後も何とかやっつけていかなければならない。
		一般小売店【和菓子】（経営者）	・新型コロナウイルスの収束がまだまだ見えていないので、影響がこれからも出るのではないかと。
		一般小売店【家電】（経理担当）	・キャッシュレス決済の5%還元は終わるが、エアコンシーズンとなる。ただし、商品の供給が心配される。
		一般小売店【祭用品】（経営者）	・完全に新型コロナウイルスが終息し、行事が再開されるまで良くならない。
		一般小売店【茶】（営業担当）	・ホテルなどから少しは注文が入ることを期待しているが、まだまだ以前の状態には戻らないのではないかと。しばらくは我慢である（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・通常の営業状態に近づきつつあるが、新型コロナウイルスの影響も含め、先行きは依然として不透明であり、楽観的な見通しは全く持てない（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・国内経済は少しずつ動き出しているが、新型コロナウイルス感染第2波への不安もあり、しばらく個人消費は大きく伸びない（東京都）。
		百貨店（広報担当）	・現在と比較して大きく状況が改善する材料がないことに加え、これから夏休みにかけて人の移動が活発になり、新型コロナウイルス感染第2波をにらみながらの消費活動になることは避けられない（東京都）。
		百貨店（広報担当）	・新型コロナウイルスのワクチンができるまでトレンドは変わらない。収束したら、安心安全な環境になって、ようやく外出する人も出てくるだろう。そのときにはインバウンド需要も回復し、景気が良くなるのは間違いない（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・3密回避により、自分で使う消費中心の動きで、ギフトや手土産需要が厳しい状況は継続するとみている。セールも前倒しで実施しているため、売上先食いの不安もある（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売促進担当）	・東京の新型コロナウイルス感染者数は2けたが続き、いまだ収束が見えず、なかなか先を見通せない（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・消費者が新しい日常に順応し、来客数が戻りつつあるが、秋物商戦に向けたメーカーの新作投入が不透明な状況にあり、期待できない（東京都）。
		百貨店（計画管理担当）	・緊急事態宣言による休業で売上が大幅に減少したものの、解除後は郊外店ということもあるのか、都心店よりも回復スピードは早いように感じる。しかしながら、取引先の退店や廃業、大型催事の中止等、思うような販売促進策を実施できていないことから、まだまだ先行きは厳しい（東京都）。
		百貨店（店長）	・旅行やキャンプなど、密にならない場所へのニーズは高まる可能性があるが、必需品ではないファッションや雑貨などは前年の物でも良く、密を避ける方が優先という心理が働くため、現状が年内一杯は続くのではないかと（東京都）。
		スーパー（販売担当）	・食料品関係の売上は前年並みを達成しているが、衣料品などについては客が控えているようで、1人当たりの買上額がなかなか前年を上回らない（東京都）。
		スーパー（店長）	・経済の先行きが不透明ななか、消費者には節約志向が依然として根付いているので、当面は同様の状態が続いていく（東京都）。
		スーパー（店員）	・環境与件により内食需要はまだ伸びる傾向にあるため、生鮮食品を中心に売上が増える可能性がある。
		スーパー（営業担当）	・緊急事態宣言が解除になったとはいえ、内食化傾向はまだ当分続く。したがって、販売数量は前年よりも増えると予測している（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・近くにスーパーができたため多少落ちてはいるが、新型コロナウイルスの影響で少し上向いている。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染第2波が来るかどうか分からないが、今の状況ではどちらに振れるかよく分からない。感染状況次第で、景気も不特定要因があるのではないかと考えている。
		コンビニ（エリア担当）	・在宅勤務の継続などで、主食系の販売が戻りきらない状態が続く。また、例年のように行楽での需要が見込めないのではないかと（東京都）。
		衣料品専門店（経営者）	・変わらないと回答したが、良い意味ではなく、ずっと悪い状態が続くだろうということである。新型コロナウイルスの影響があり、業種によっては若干上向いているところもあるかもしれないが、この地域では今年一杯イベント等が中止になっており、関連商材等を扱っている本店としては、まだしばらく不況が続くのではないかと考えている。
		衣料品専門店（営業担当）	・先行きが全く見通せない。「新しい生活様式」では小規模事業者はやっていけない。
		衣料品専門店（役員）	・イベントの中止や旅行の自粛等により、外出用の高額品の売上が見込めない。現状、販売の中心は日常使いの低価格品である。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの感染第2波の可能性が出てきているので、先々はまだ不透明である。
		家電量販店（店長）	・特別定額給付金の影響での売上増が続く。一方で、新型コロナウイルスの影響による夏のボーナス減が予想されるため、前年並みか前年より少し高めに推移するのではないかと。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車整備は順調に入っているが、販売が余り芳しくない。新型コロナウイルスの関係で今年一杯は駄目なのではないかと。
		乗用車販売店（営業担当）	・秋口にまた新型コロナウイルス感染第2波が来ると、客足が減るのではないかと。
		乗用車販売店（販売担当）	・新型コロナウイルス感染症がもっと早く収束するのではないかとという期待があっても今まで回答していたが、長引くのであれば、景気は現状維持がやっとで、変わらない。経済には人の移動が大きく影響するので、今の状況だと、先行きの景気はなかなか良くならないのではないかと。ディーラーも含めていろいろ客も同じような判断をしている（東京都）。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	・新型コロナウイルスにより通常の販促を打ちにくく、試行錯誤中である。今後の第2波の行方等も考えると、販促をしにくい面があり、売上にも影響する。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	・当店は薬局なので、消毒液など新型コロナウイルスに関連する商材が入荷してくれば、大分回復するのではないかと。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・新型コロナウイルスの影響が続いているため、先行きが不透明な状況が続いている。6月から営業を再開したことで売上は回復傾向にあるが、今後景気が良くなるとも悪くなるとも判断し難い（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新型コロナウイルスの感染リスクが払拭されれば、制約のない経済活動も飛躍的に安定化するようと思われるが、それまでは先が読めない不安定な状況である（東京都）。
		高級レストラン（経営者）	・客席数を減らしている。団体客が見込めない。
		高級レストラン（営業担当）	・外出自粛明けに比べると、徐々にではあるが個人需要は少人数ながらも予約が増えつつある。一方、法人予約に関しては、特に大型宴会を中心に自粛が継続されている向きがある（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	・新型コロナウイルスが落ち着くまでには、まだかなりの時間が掛かる。法人利用が復活するまでは、今の厳しい状況が続く（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・今まで売上の4割をケータリングが占めていたが、それが全くない。恐らく、今年一杯はないと思うので、景気が良くなることはあり得ない。今は店内の売上のみで細々とやっている状態である。そのため、3か月後は悪くなるか、変わらないかのいずれかである。
		一般レストラン（経営者）	・夜8時を過ぎると人通りがない。早い時間の来客も、長い滞在はしない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言が解除されてから、少しだけ客が戻りつつあるが、大変厳しい状況には変わらない。取りあえず、追加の新型コロナウイルス関連の融資を受けられそうなので、しばらくは大丈夫だと思うが、借りたお金は返済しなければならない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの影響は大きくなるかもしれない。油断できない（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	・近隣の大型コンベンション施設で東京オリンピックの競技が開催される予定だったが、延期になってしまったので、9月までは全くイベントがない。それをカバーできるような物件、案件がないため、少しは回復すると思うが、今と同じような状況がこの夏一杯続いていくのではないかとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスに対するワクチン、あるいは特效薬が開発されない限り、今の悪い状況は余り変わらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会や婚礼については、3か月先の予約まではほぼ延期やキャンセルになっている。また、宿泊も学会やイベントなどの開催が中止となり、先々の予約がない。全館休業をしていた関係で、予約がほとんどない状態からの再スタートとなり、現在が底なのだが、良くなる要素が全くなく、状況は変わらない。
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、客はずっと足止めを食っているため、現状と余り変わらない。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの影響が続く（東京都）。
		タクシー（経営者）	・新型コロナウイルス感染第2波、第3波への警戒感から、今の状況がしばらく続く。
		通信会社（社員）	・客は今様子見の状態である。仕事の仕組みを変えないといけないという意識は感じられる。当社の事情では、国の補助事業の採択を受けて何とか息がつけたところである（東京都）。
		通信会社（社員）	・新型コロナウイルスの再流行により、再度量販店や小売業が営業自粛となればマイナスになる。9月発売と思われる話題のスマホの状況によっては、機種変更からの5G移行が進み、プラスとなる（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス感染への危機感がまだ底流にあるので、大幅に消費行動が改善されるとは思えない。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスと付き合っていく「新しい生活様式」が浸透してきており、通信に対する一定の需要は継続していくものとみている。ただし、需要は今回の在宅勤務等で一巡しており、大きく上振れすることはない。
		通信会社（営業担当）	・良くなると思える材料がない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（管理担当）	・新型コロナウイルス感染の第2波が心配されるなかでは、個人消費も伸び悩む状況にある。また、企業向けのソリューションシステムも、働き方改革に絡む商材は伸びるものの、景気回復までには時間が掛かるものとみている（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・政府等が大きな政策を打たない限り、当面は今の状況に変化はない（東京都）。
		通信会社（経理担当）	・在宅勤務がある程度残り続けると考えているため、インターネット接続の需要があると想定している。
		ゴルフ場（経理担当）	・新型コロナウイルス感染症が発生する以前は、高齢層の旺盛なプレー意欲に下支えされ収益を確保できたが、緊急事態宣言が解除されても新型コロナウイルスへの感染リスクを忌避する動きがあり、業績回復の大きな阻害要因となっていると考えられる。
		その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	・自家用車に関しては受注が非常に冷え込んでいる。今後警戒が緩むにつれて、ある程度関心は高まると思うが、その分非常に経営が苦しくなっている経営者が多いために、良くなるか悪くなるか、傾向は余り分からない（東京都）。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・今のまま推移していく。ある程度市場が熟成され、落ち着いており、新型コロナウイルスの影響が続くなかでも余り影響を受けず、販売量も減少しない。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・新規の問合せなどは確実に減っているため、良くはならない。
		設計事務所（経営者）	・現在、新しい案件は入っておらず、今の状態がしばらく続きそうである。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの感染拡大や第2波などがなければ、投資用アパート物件はこのまま変わらず推移していくと予想している。ホステルの方はまだ先が読めず、いつ客が戻るかも不明である。訪日外国人は厳しいと思うので、国内需要で何とかせざるを得ない。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・建材関連で一定の仕事量があるユーザーもみられるが、落ち込んだままのところはまだ多い。一気に回復に向かうとは考えられない（東京都）。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・テレワークなど仕事の仕方が変わってきたこともあり、法人の事務用品の購入については今後も減少傾向になると思われる。また、近隣飲食店は通常どおりの営業時間に戻ってきてはいるものの客足が戻ってきたわけではなく、当店については会計伝票を始めとする飲食店向け商材の販売数量も低いままである（東京都）。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルスに関連した巣籠り需要がなくなってきて、皆外に出てき始めているので、通常の形に戻ってきている。また、キャッシュレス決済の5%還元が終わるので、6月後半はやや良いが、7月に入ったら少し落ち込むのではないかと気がしている。
		スーパー（総務担当）	・新型コロナウイルスの影響で、ボーナスや賃金が減り、可処分所得が下がっていることにより、客の買い方が変わってくることを心配している。今後、新型コロナウイルスの感染者数が増えてくると、萎縮ムードが続き、買い方が慎重になってくるのではないかと。
		スーパー（総務担当）	・新型コロナウイルスの影響がまだ続く。
		スーパー（ネット宅配担当）	・可処分所得の減少、家庭内食費の増加などから節約志向は強くなると考えられ、競合環境が悪化する。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスやその他の要因が多いので、よく分からない。
		コンビニ（経営者）	・娯楽施設の休業、県営プールの中止が決定しているため、7～8月は厳しくなる。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が急激に収まるということは考えにくい。また、コンビニでも袋が有料になるなどの影響が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・今月良くなっているのは特別な要素が重なったことであり、また元に戻る。
		衣料品専門店（統括）	・現状の来客数増加は一過性のものであり、長期的に伸びる可能性は今のところ見えてこない。
		家電量販店（店長）	・特別定額給付金の効果が長続きするとは思えない。新型コロナウイルス感染症の第2波がいつ来るか分からないという不安もある（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（営業担当）	・6月の乗客数増は一時的なもので、ニュースで見る限りボーナスや給料が少なくなっているため、来月以降は前年に比べて下がる（東京都）。
		住関連専門店（統括）	・現在でもまだまだ外出自粛の影響があり、これから何か月かは売上も販売件数も伸び悩むと予想している。
		一般レストラン（経営者）	・当店はフリーの客の売上が4割、宴会が6割近くを占めている。フリーの客は7割くらい回復してきているが、宴会需要が全く復活していないので、今後しばらくは現状若しくは若干マイナスで推移する（東京都）。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・今の新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くまでは、明るい兆しは見えない（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・国としてGo To Travelキャンペーンで補正予算1兆7000億円が用意されていると思うので、観光業界は、3～5月より7～9月は上向きになると期待している（東京都）。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの影響で金銭的にもいろいろな面で迷いがあり、非常に困っている。新型コロナウイルスが収束しないと、今のところ先が読めない。
		タクシー運転手	・客の利用シーンがどう変わってくるかで、タクシー業界は大きく変化する。仕事での移動に乗ってもらえるのか、また、高齢者が病院や買物等に使ってくれるのか。まだ全体的に客が少なく、タクシーが過剰の状態、少しの客を法人、個人で奪い合っている状態である（東京都）。
		通信会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大は落ち着いたように見えるが、東京エリアではまだ一定数の感染があり、予断を許さない状況である。感染防止に気を配りながら、今後こちらからのアクション営業も少しずつ開始予定だが、訪問時間の短縮による営業力低下や、高齢者が訪問を避けているという声もあり、業績は低下傾向と予測している（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・更なる案件終了に加えて、新規案件の減少が見込まれる（東京都）。
		通信会社（総務担当）	・新型コロナウイルス感染予防対策の影響が大きく、消費活動全般が落ち込みから回復していない（東京都）。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、学校以外には通いたくないという生徒が何人か出てきている。まだリモートでは物足りない部分もあり、何名かは退塾しているため、余り人数的には増えそうにない。
		設計事務所（職員）	・相対的に悪くなる傾向と思うが、何ともいえない（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルス感染症のまん延が人々の将来に対する不安を増加させており、住宅のような高額な買物をしようとする動きはますます収縮していくことが見込まれる。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（経営者）	・客と対面できない状況なので、相談ができない。仕事の成約ができず、先行きは更に厳しくなる。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・特別定額給付金が入るので商品を購入したいという個人客はいるが、大きい取引をしている企業からの注文等は減っている。新型コロナウイルスがもう少し落ち着いてこないとうまく稼働していかないのでないか（東京都）。
	×	一般小売店〔家具〕（経営者）	・特別定額給付金が給付されてはいるものの、その影響は出てこないような気がするので、これからも良くならない（東京都）。
	×	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・密の状態でないかと商売にならない。
	×	一般小売店〔印章〕（経営者）	・新型コロナウイルスの収束はまずないだろう。1人1人がもっと自覚をもって感染防止に努めるべきである。収束はまだ先の話になるのではないかと。それまで耐え忍ぶしかないような気がする。非常に残念だが、現状は商売になっていない。
	×	一般小売店〔米穀〕（経営者）	・今までの状況からはかなり変化する。不安があり、良くなるような想定はなかなかできない（東京都）。
	×	一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・外商部の客、民間の客で、今まで決まっていた大口の案件、例えば机や椅子、エアコンの入替えなどが全てストップしてしまった。先行きの景気、また業績が良くないことが予想されるので、設備投資に関しては少し待ってほしいということである。先行きが不安で仕方ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般小売店〔茶〕（営業担当）	・夏のイベントが中止になっているため、売上が落ちる。売上を見込んで仕入れたお茶に付随する菓子等の賞味期限が迫っており、苦慮している。
	×	スーパー（経営者）	・年間を通じて、売上の底である夏に入るため、悪くなる。
	×	スーパー（経営者）	・キャッシュレス決済の5%還元が終了する。新型コロナウイルスによる世の中全体の落ち込み、スーパーのコロナ特需の終わりなどを考慮すると、かなり厳しい。
	×	スーパー（店長）	・食品スーパーだが、3か月後は新型コロナウイルスの影響が薄れて、通常的生活様式に変わる。そうすると、まとめ買いといった対応が客自身もいらなくなってくる。本当に必要で、安価な物だけを購入する形になっていくと思うので、今よりは相当厳しい状況になる（東京都）。
	×	スーパー（仕入担当）	・キャッシュレス決済の5%還元も6月末で終了となり、財布のひもが固くなる。企業の業績も悪くなり、収入が減り、消費も落ち込む。
	×	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの影響がまだ出てくる（東京都）。
	×	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの影響がどこまで続くのか不明だが、夜間の売上が元に戻らないと、厳しい状況が続き、好転は望めない。
	×	衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの影響が一旦収まりつつある。ただし、秋～冬にかけて第2波が予想されていること、再度の自粛要請による収入減が懸念されていることから、財布のひもは固くなる。
	×	衣料品専門店（店長）	・式典等のイベントが通常どおりにならない限り、厳しい状況が見込まれる。打開するには、新たなビジネス展開が求められる（東京都）。
	×	住関連専門店（営業担当）	・世界的に新型コロナウイルス感染拡大の収束が見えず、景気の後退は避けられない（東京都）。
	×	その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・あと1年は駄目だと思うが、新型コロナウイルス感染症が収束するまでに倒産しそうである（東京都）。
	×	一般レストラン（経営者）	・今のままでいくと、夜団体で飲食をしている人たちが悪いかのように思えるのが現状である。これを改善してくれないと、飲食業はこの後残っていくのがなかなか難しい。
	×	都市型ホテル（支配人）	・新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた「新しい生活様式」や企業活動の変化で、宿泊、飲食にかかわる事業は先行きが見えない。事業存続に危機感を感じる。
	×	タクシー運転手	・世界中で、新型コロナウイルスによる感染者が1000万人を超え、死者も50万人を超えた。各国で経済活動の再開から感染の拡大が続いているなどのニュースが流れている。日本も数多くの人にPCR検査が実施されれば、感染者が増え、経済も行き届かなくなり、景気はもっと悪くなる（東京都）。
	×	通信会社（管理担当）	・まだまだ回復基調には程遠い。
	×	ゴルフ場（従業員）	・新型コロナウイルス感染症は、多くの法人、個人に影響を与えている。緊急事態宣言の解除により人が外出し、一時的に経済が多少上向くかもしれないが、実際はそれぞれ深刻であり、今後更に景気への影響が出てくる。
	×	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスが早く収束してほしい。
	×	その他サービス〔フィットネスクラブ〕（マネージャー）	・新型コロナウイルスの影響がある（東京都）。
	×	設計事務所（経営者）	・3～6月末まで、新しい仕事の話を進められていない。今まであった仕事も再開することができなくなっているのが現状である。当社の場合は、行政の入札案件が多少あるので、そちらの営業は頑張っていきたいが、これからますます悪くなるのではないかと。
	×	設計事務所（所長）	・得意先の仕事量がかなり減ってきているため、仕事がなかなか回ってこない。全体的に仕事がないので、これからますます悪くなる。
	×	住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が早く収まらないと景気が戻らない。このようなときこそ、経済波及効果の大きい住宅が売れるような対策をとってもらえると大変有り難い。
企業動向関連		食料品製造業（経営者）	・休業していた店の多くが営業を再開しているので、徐々に良くなっている（東京都）。
(南関東)		出版・印刷・同関連産業（所長）	・少しずつイベント等が動き出し、それに向けた引き合いも来ているので、来月以降は期待したい。
		金属製品製造業（経営者）	・実際に仕事の引き合いなどはないが、大手が稼働し始めたことなど周りの空気から、やや良くなるのではないかと。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注量が徐々に増え始めている（東京都）。
		通信業（広報担当）	・新型コロナウイルスと共存する流れのなかで、徐々に正常に戻っていく（東京都）。
		不動産業（従業員）	・県をまたぐ移動などの制限解除によるホテル需要の回復が見込まれる（東京都）。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染防止対策で、検温や入場時の検査の仕事を受注している。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・緊急事態宣言が解除され、仕事も回り始めたが、また感染者数が増加してきている。劇的な改善は見込めないが、徐々に市場動向が活性化してきている。
		食料品製造業（経営者）	・季節的にも売れる時期ではなく、今のところ景気が良くなるというプラス要因は見当たらない。夏祭りなどのイベントもなくなり、大変なことになっている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・材料であるビニールプラスチックの値上げを5月から要求されている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・例年8月は受注量が少ないので、景気は悪いままで変わらない（東京都）。
		化学工業（従業員）	・現状は販売量は横ばいで、先行きの受注量も増減はないが、キャンセルの可能性もあり、予測ができない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、経済全体のパイが小さくなってしまっている。今後すぐに戻ることはないと思うので、しばらく悪い状態が続く。
		金属製品製造業（経営者）	・世界的に新型コロナウイルス感染症が収束するまでは今の状態が続くとみている。特に精密加工部品の営業に力を入れて頑張っていく。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今月2週間工場の稼働を止めた取引先もある。自動車メーカーのラインが止まっている以上、部品はいらないということのようである。良くなる見通しは全く立っていない。
		建設業（従業員）	・新型コロナウイルスの影響で、先が読めない。
		輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷量は低迷が続き、輸出に関しては全くない。今後も現状が続く予想である。
		金融業（総務担当）	・新型コロナウイルス感染者が増えている状況では、消費者はまだ外出や外食を控える。今後、企業も家賃の安い物件に移ったり、縮小する傾向は続くようなので、賃貸不動産業は厳しくなる。新卒採用を控える動きもある。新型コロナウイルスの影響は当分続く（東京都）。
		金融業（役員）	・観光業では大型観光バスでの利用が全くなく、苦慮している。また、本年12月まで市内の大規模イベントが中止になっており、来客による消費増加の見込みがほとんどなく、商業施設の業況はほぼ変わらない。
		不動産業（総務担当）	・新型コロナウイルスの収束時期が見えない限り、今の悪い状況は今後も続くだろう。体力のない店舗系テナントの中には、店じまいするところや営業を再開できない店も出てきている（東京都）。
		税理士	・米国の景気が良くなってきたと思っていたら、新型コロナウイルスや黒人差別問題の影響で荒れており、どうなるか分からない。中国も再び新型コロナウイルスの感染者が増えているようである。景気は日本だけの問題ではなく、第2波、第3波が来たときは大変なことになるので、今と変わらない（東京都）。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
		経営コンサルタント	・支出、消費への厳しさは続く。消費税減税などの直接的なメリットがないと、回復は難しい。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・東京ではいまだに新型コロナウイルスの感染者が増えており、第2波、第3波も考えられる。政府の助成も今後にわたって期待できるかどうか分からないため、景気が急に良くなるとは思えない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・新型コロナウイルス感染対策で広まったテレワークの影響を受けて、印鑑不要という会社が出てきており、印鑑業界としてはやや悪い方向に向かっている。また、名刺やショップカードの印刷もしているが、テレワークで客と会う機会が減り、ビジネスの世界でも名刺を使わなくなってきている。飲食店も客が少なくなっているため、ショップカード自体が使われなくなってきて、今まで1か月に1回注文があったのが2か月に1回ペースになっている。新型コロナウイルスが収束すればよいが、長引くということになると、やはり悪くなると考えざるを得ない（東京都）。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で激減した化粧品容器の受注に回復見込みが立たず、困惑している。それに代わる他の業種に営業をかけても、まとまった話は一切ない。
		金属製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチンや治療薬ができるまでは良くならない。国内の感染が収まっても、海外が収まらなければ経済は循環しない。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・今の段階では新型コロナウイルスの収束状況次第で方向が変わってくる。全国的に景気が良くならなければ、当社も同じ状況になる。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・4～5月は緊急事態宣言に伴う営業自粛によりサロンの稼働率が低かったが、6月から営業を再開し、来客数が増えている（東京都）。
		不動産業（経営者）	・賃貸、売買共に前年に比べて減少しており、どう乗り切っていくかがこれからの課題である（東京都）。
		税理士	・持続化給付金の申請をした事業者へは給付金が支払われているが、半減に至らない売上減の事業者は、苦しいままの状態が続いている。自衛手段として経費の節減、人件費の削減をせざるを得ず、景気が好調になる兆しはない。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・相変わらずの人手不足で募集単価が高騰し、利益を圧迫している。新型コロナウイルスの影響もあり、既存契約の値上げ交渉も止まったままになっている（東京都）。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・情報処理の会社だが、データ入力などが延期になり、数字がマイナスになってきており、今後も影響が出てくる。
	×	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・クライアントより、今後新型コロナウイルスが収束しても、委員会やセミナー、講演会のWeb開催は続くとの連絡があり、今後も受注量の減少は避けられない（東京都）。
	×	化学工業（総務担当）	・本来期待していた東京オリンピック、パラリンピック需要はなく、インバウンド需要回復も全く期待できない。経済活動が再開され、受注回復を期待したいが、厳しい状況が続くのではないかと。景気回復に向けて大胆な政策を実施してほしい。
	×	精密機械器具製造業（経営者）	・当社は製造業であり、商工会議所の役員でもあるが、自動車、航空機などを行っているところは、70%以上の売上ダウンと聞いている。ほとんどが週4日程度の稼働で、従業員が20～50人以下では自主廃業などを考えているところが多いようである。借金をすると、10年間返し続けなくてはならないからである。また、赤字国債を発行しているため、国民に付けが回ってくる。
	×	建設業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で先が見通せないため、経済的な不安定が今後も続く。
	×	建設業（経営者）	・新型コロナウイルスや消費税増税の影響がある。
	×	建設業（経営者）	・仕事を予定していた取引先も5～6月までは先に受注していた案件があるが、7月以降は薄くなっているため、夏から悪化するだろうとのことである。
	×	輸送業（経営者）	・8月は、東京オリンピック開催に伴う臨時輸送体制が新型コロナウイルス発生前から既に組まれているが、稼働日が20日を割り込み、かなりの売上減を予想している。東京オリンピックは延期となったものの、輸送体制に変更はないため、新型コロナウイルスの拡散が追い打ちをかけ、更なる経営の悪化が予想される（東京都）。
	×	輸送業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響がある（東京都）。
	×	金融業（従業員）	・プロスポーツの再開など、少しずつ平時の雰囲気に戻る兆しも見えてきているが、取引先の小売業者等からは、まだまだ地域住民の自粛ムードが根強く、客足が戻るまでは当分時間が掛かりそうだと声が多く聞かれる（東京都）。
	×	金融業（支店長）	・比較的影響の少なかった製造業にも影響が出始めている。厳しい状況は続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	広告代理店（従業員）	・当社のかわる9月までのイベントは全て中止となっており、それ以降も新型コロナウイルス感染第2波を警戒しているため、前向きの話はない。
	x	広告代理店（営業担当）	・緊急事態宣言は解除されたものの、新型コロナウイルスが世界的に拡大し、リアルイベントなどの開催を各社が見合わせていること、また秋以降の新型コロナウイルスの再まん延の懸念などもあり、先行きが不透明である。当社も如実にありを食って、赤字に転落している（東京都）。
	x	経営コンサルタント	・食品関係はストレートに業績が減少しているが、製造業においてもこれからじわじわと影響が出てきて、当分続きそうである（東京都）。
	x	その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・取引先工場等の稼働率が上昇するめどが立っておらず、売上減の状態が続くものと予想される。
	x	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・取引先の予算が削られて、新規案件を探しているが見つからず、要員のシフトを組まなくてはならない。また、新人教育を終了して配属は決めたが仕事をスタートできず、いつからスタートできるかのめども立っていない（東京都）。
雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社（営業担当）	・下期以降は前期比60～70%程度となる見込みである（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・予断を許さない状況ではあるが、6月に入り受注数が徐々に増加してきていることから、回復すると見込んでいる（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・前月に比べ派遣オーダー数は増加傾向にある。しかし、前年比ではまだ少ない。求人件数は徐々に増加傾向にはあるが、飲食業の求人には回復の兆しがなく、不景気が長引く（東京都）。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・介護、配送、警備など、限られた職種だけが、人手不足ということである。3か月先の予約ももらっているが、ごくごく微量である。
		職業安定所（職員）	・外出自粛が解除されたことで、徐々にではあるが経済活動が再開されている（東京都）。
		民間職業紹介機関（経営者）	・アフターコロナへの対応行動がルール化され、落ち着きを見せている。企業活動を本格化するに当たって人の手配に経営者の視点が向き始めている（東京都）。
		学校〔大学〕（就職担当）	・新型コロナウイルス感染が落ち着いてくれば、経済に動きが出てくる（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの影響により業務量の減少が続き、設備投資や採用を控える企業が今後も増えてくることが予想される。
		人材派遣会社（支店長）	・新型コロナウイルスの収束の見通しが立たないため、派遣や人材紹介での採用は引き続き低迷する（東京都）。
		求人情報製作会社（営業）	・これから2～3年は今の状態が続く見込みである（東京都）。
		求人情報誌制作会社（営業）	・新型コロナウイルスの影響は大きく、数か月で事態が好転するとは思えない。長い期間をかけて少しずつ回復していくことを期待している。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの影響がある。
		民間職業紹介機関（経営者）	・消費者の購買意欲低下が長引いており、経済的にも、企業面でも良い状況にはなかなかならないと感じる（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・人材派遣の契約満了時期、また請負についての変更、解約の申入れがほぼ3か月前となっていることから、今後のマイナス影響は更に厳しくなると推察される。求職者は増加傾向にあるものの、一定の給与水準を満たす求人が少なく、需給バランスが崩れているためにマッチングができず、売上増の期待は薄いのが現状である（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの影響が続き、景気の回復が遅れる（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・緊急事態宣言が解除され、少しずつ求人数が回復基調になっているが、前年並みにまでは戻らない見込みである。
	求人情報誌制作会社（広報担当）	・新型コロナウイルスの感染はまだまだ広がっていくと感じるので、大規模なイベント等はしばらくできなくなり、なかなか業績が上向かない（東京都）。	
	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス感染症の影響により、求人を控える事業所も多くなっており、求人数が前年比で減少となっている。	
	x	人材派遣会社（営業担当）	・全世界的な新型コロナウイルスの影響により、国内製造業の開発スピードも明らかに落ちてきている（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	求人情報誌製作会社（所長）	・新型コロナウイルス感染第2波を警戒しているクライアントが多い。
	×	民間職業紹介機関（経営者）	・来期の採用活動にシフトしつつあるが、採用PR活動の自粛が続いている（東京都）。

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (甲信越)		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・最近では少人数でお寺から僧侶を呼ばない自由葬が増えている。葬儀の在り方や考え方も変化がみられる。
		商店街（代表者）	・このまま新型コロナウイルスが収まれば、学校も通常授業ができるようになり、クラブ活動も盛んになっていく。いろいろなスポーツ大会も始まると期待している。
		百貨店（店長）	・新型コロナウイルス感染拡大防止のための自粛解除もあり、入出が戻りつつある。感染拡大がないという前提だが、徐々に戻るのではないかと。
		スーパー（経営者）	・政府から1人10万円の給付金の入金があった。あと3回ほど給付金があれば消費が回復していくのではないかと。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス感染第2波の心配もあるものの、感染拡大がなければ、今までが悪かっただけにこのまま少しずつ回復していくのではないかと。
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルス感染の第2波への懸念は残るものの、新型車の発売もあるため、徐々に新車需要は回復してくる。
		その他専門店〔貴金属〕（営業）	・現状が営業できていない状態なので、それよりは良くなる。
		高級レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染拡大の第2波がなければ良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・極端には増えなくても、人の流れは多くなる。地方単位で行われる支援の企画の効果が多少は表れるのではないかと。あくまで今と比べればという話である。
		観光型旅館（経営者）	・県をまたぐ移動自粛が緩和され、また、市や県の観光誘客キャンペーンが始まっている。更に夏からは「Go To Travel」キャンペーンもある予定なので、新型コロナウイルスの状況を見ながらではあるが、徐々に客足が戻ってくると予想される。
		都市型ホテル（支配人）	・現在のビジネス利用客に加えて、今後は不要不急の外出を自粛していた方々の宿泊利用が見込まれる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・緊急事態宣言解除等が大きく影響し、自粛ムードからの反動で、毎週のように個人利用が活発になっており、夏休み等に期待ができる。ただし、キャッシュレス還元事業終了の影響がどの程度あるのか、また、法人利用の動きが鈍い現状から考えると、大幅な改善にはつながらない恐れもある。
		都市型ホテル（スタッフ）	・6月20日過ぎくらいから、若干個人の動きが良くなっている。19日に県をまたぐ移動の自粛制限が解除され、少しずつだが県外からの客が増えてきているので、6月よりも7月に期待が持てる。ただし、法人需要の宴会はいまだに入ってきていない。
		タクシー運転手	・2月は値上げした関係で前年比105%、3月は同75%、4月は同47%、5月は非常に悪く同42%だった。6月は今のところ前年比70%近くまでは戻りそうである。お盆頃になると同80%ぐらいまで回復するような気がしている。
		通信会社（社員）	・ある程度、底は脱した感はあるが、まだ様子見の段階である。新型コロナウイルス禍のなかで、売上を落とさないように、これまでとは違ったアプローチが必要になる。
	観光名所（職員）	・キャンペーン施策の後押しや、夏のハイシーズンを迎えるため、今後徐々に来客数は増えていくと思うが、1日の来訪者数を制限する等、もろもろの対策を施した上での営業となるため、大幅な景気回復には程遠い状況である。	
	商店街（代表者）	・落ち込んだ分は多少戻ったが、新たな需要があるようには思えない。	
	一般小売店〔家電〕（経営者）	・新型コロナウイルスの影響による解雇者が身近にみられたり、飲食業や宿泊業の不安定な様子を垣間見ると、先行きの消費動向が良くなるとは感じられない。消費者の購入意欲を出させるためのイベント等の開催も難しいなかでの商売は厳しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔家電〕 (経営者)	・平常に戻るには時間がまだ掛かる。
		一般小売店〔薬〕(経営者)	・新型コロナウイルス感染の第2波は不可避で、なかなか客足が戻らない。
		百貨店(営業担当)	・依然として新型コロナウイルスの収束の先行きが分からないので、来客数も現在同様、少ない傾向が続く。
		衣料品専門店(経営者)	・期待できない。
		自動車備品販売店(従業員)	・新型コロナウイルスの第2波、第3波を警戒しているためか、来客数は戻りつつあるものの、客単価は伸びていない。消費に慎重な姿勢がみられるため、変わらない。
		一般レストラン(経営者)	・依然として回復基調にならない。変わらないと回答したが見通しは暗い。
		スナック(経営者)	・新型コロナウイルスの影響で、売上は当然激減している。少し収まった感のあった感染者が、また少しずつ増え始めてきており、若干だが戻ってきた客が再び来なくなるのではないかという危機感を抱いている。
		旅行代理店(副支店長)	・Go To Travelキャンペーンの骨子が定かでないこともあるが、新型コロナウイルスの感染状況を見ていると、キャンペーン以外の旅行需要、企業出張等は激減である。また、修学旅行や秋の団体旅行の中止、取消しも多く見られ始めている。
		通信会社(経営者)	・先が全く見通せない現状で、良い材料が見つからない。相変わらず厳しい状態が続くとみている。
		ゴルフ場(経営者)	・今後も新型コロナウイルス感染防止のため、パーティーの中止、昼食の一部カット等、客単価の低下が顕著になっている。
		その他レジャー施設 〔ボウリング場〕(経営者)	・夏休みに入れば、多少客足の動きを期待はするが、それほど大きく動くとは考えられない。自粛が解除され経済活動が再開されるなか感染者は減っておらず、今後感染の第2波の恐れもあり、厳しい状況は依然として続くと考えられる。
		住宅販売会社(経営者)	・県外客相手の当社にとって、新型コロナウイルス渦の影響が大きく、別荘需要の回復には時間を要する見込みである。
		スーパー(経営者)	・ボーナスや残業代の減少、失業等、家計へのマイナス要因が心配である。
		スーパー(経営者)	・6月でキャッシュレス5%還元キャンペーンも終了し、消費者心理が節約志向に移行するため、先行きは不透明である。
		コンビニ(経営者)	・会社関係の出勤日数が減ることにより、来客数が減って、やや厳しい状態が続く。今後はすぐに良くなるとは思っていない。
		コンビニ(経営者)	・当店はコンビニなので、今はそれほど変わりが無いが、周りは新型コロナウイルスで結構打撃を受けている。景気は悪くなる。
		コンビニ(経営者)	・レジ袋有料化やキャッシュレス還元の終了で、客の買い控えが起きそうな気配で、やや悪くなる。
		コンビニ(エリア担当)	・新型コロナウイルス感染の第2波への懸念や東京のり率増加に伴い、外出がシビアになることが予想される。
		家電量販店(店長)	・世界的な景気低迷が報道されているため、収入減により購買意欲が低下する。
		スナック(経営者)	・また少し新型コロナウイルス感染者数が増えてきているので、若干悲観的になっている。何とか治まってほしい。
		設計事務所(経営者)	・しばらく様子を見てから判断しようとする客が多くなるのではないか。
	×	商店街(代表者)	・夏休みの短縮や団体旅行の自粛等、当面の間は元に戻ると思われる要素がない。秋から新型コロナウイルス感染拡大第2波がくることが予想されており、年内の希望が持たない。
	×	スーパー(副店長)	・今後、新型コロナウイルスで大きな影響を受けた経済も、どこまで戻れるかが不透明である。こうした影響も周り回って、いろいろな業種に影響を及ぼすので、景気は悪くなる。
	×	衣料品専門店(経営者)	・新型コロナウイルスの収束がはっきり分からない限り、今の状況のままでは全く売上がない。
	×	その他専門店〔酒〕 (店長)	・新型コロナウイルス感染第2波の前兆の状況にあるのではないか。2~3か月先は、非常に目測が厳しい。まず飲食店のスリム化が今から起きる。我々も非常に厳しいと思うが、できるだけ地域に目を向けながら、営業をしなければいけない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	スナック（経営者）	・前年の台風被害と新型コロナウイルスで、本当にぶつけないところがない状態で、路頭に迷っている。
	×	ゴルフ場（経営者）	・新型コロナウイルス感染の第2波への不安も含めて、長期化するのではないかと。
企業 動向 関連 (甲信越)		-	-
		食料品製造業（製造担当）	・ようやく県をまたぐ移動ができるようになり、店も集客ができるので、今よりは良くなる。
		食料品製造業（営業統括）	・今年19日に文化庁が甲州市のワイナリー数社を日本遺産に認定したのをきっかけに、今後、ワインに関心のある多くの見学者の来場が見込まれる。ただし、今の状況だと急激に戻ることは期待できず、秋に向けて徐々に、ぶどう狩り等で増加するものとみている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・客からの受注が少しずつではあるが回復してきている。ただし、海外で受注低迷が継続している地域はある。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・今月中旬に、県をまたぐ移動の制限も解除となり、人、物、お金が動き始めれば現在よりは良くなっていく。しかし、新型コロナウイルス以前の水準に戻るにはかなりの期間がかかるかと予想している。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・特注品の対応があるため、しばらくの間は良好な見通しである。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・受注、生産ともに、当面は現状維持で推移する。
		建設業（経営者）	・緊急事態宣言が解除されても、景気が元に戻るには考えにくく、現状を踏まえ受注を考える必要がある。
		金融業（調査担当）	・景気は底打ちの動きがみられるものの、戻り方が鈍く、当面は厳しい状況が続く。
		食料品製造業（総務担当）	・夏の暑さは年々ひどくなる。また、新型コロナウイルスの余波で、大事なイベント関係がことごとく中止になること等を考えると、前年より売上は減少する。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響もあり、どんどん悪くなっている。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	・見通しが立つ案件が少ない。
	×	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・小売市場は多少動きが出てきたとはいえ、業況改善には程遠い。金融機関の後押しのお陰で何とか持ちこたえている。海外との往来規制から、中国人バイヤー向けの販売はいまだゼロで、国内でも本格的な展示会開催までには、まだ数か月かかることから、厳しい状況はしばらく続く。
	×	金融業（経営企画担当）	・海外では新型コロナウイルス感染の第2波に対する懸念が大きくなってきている。再び、先進国の中心都市がロックダウン等になった場合には、更なる景気悪化の可能性がある。正常に戻るにはまだ時間がかかる。
雇用 関連 (甲信越)		-	-
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスが完全な終息とはなっていない。感染対策を施した上での営業再開のため、多少は良くなるかもしれないが、以前と同じ業績にすぐ戻せるとは思えない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、先行き不透明となっており、求人については今後しばらく見通しが立たない状況である。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス禍の終息する兆しが、まだみえない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・製造業では、米国、EU、中国等アジア諸国と密接な関係にある企業が多い。受注減が続いており、先の見通せない状況が続いている。
	×	人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルス対策で、在宅ワーク等、社員も含め要員の配置転換を検討し始めた企業もあり、全体的に人員削減傾向で失業者は増えるのではないかと。
	×	職業安定所（職員）	・財源の確保もなく、助成金などをばらまいているため、将来の不安要素が大き過ぎる。増税等、問題を今後先に送りしているため、悪くなる。

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向		商店街（代表者）	・良くなると期待したい。政府の対応が第2波のときも今回と同じであれば、今回以上の不景気になる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (東海)		乗用車販売店（従業員）	・景気が悪いのは原因がはっきりしている。新型コロナウイルスの影響はまだあるが、現在は落ち着いてきているため、これから1～3か月は良い状態が続くと見込まれる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスが終息すると考えるため、景気は少し良くなる。
		商店街（代表者）	・今が最低のときである。10万円の給付で多少は周りも含めて良くなる。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・新型コロナウイルス対策の外出自粛が解除され、多少は良くなると見込んでいる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・期待を込めて良くなる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・緩やかに元に戻っていくのを期待するしかない。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・今月末から少し明るい兆しがみえ始めたため、7月からは少し景気が戻ると見受けられる。
		百貨店（総務担当）	・第2波の発生が非常に気になるころではある。夏季ボーナスの減少も売上に影響を及ぼす可能性が高いが、海外旅行等海外で消費されていた金が国内に振り向けられることになり、消費需要も高まるのではないかと推察している。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解除され、週を追うごとに来客数、売上は上がってきている。今後も再度の流行などがなければ、一定のレベルまで売上の戻りは期待できるが、インバウンドは、当分の間戻ってこないと思われる。
		百貨店（経理担当）	・徐々に回復に向かうと見込む。
		百貨店（営業担当）	・少しずつイベント、宣伝等が再開したら、もう少し客の動きが戻るように感じる。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの影響の緩和で、徐々に戻ると期待している。
		百貨店（業績管理担当）	・入場制限や買物時間制限といった3密対策を実施し、徐々に集客催事の開催を検討している。春夏商材の在庫が多く、バーゲンセールでの売上増加が見込める。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルス感染の第2波が来ないことを願いつつ、現状維持できれば多少良くなると期待している。
		スーパー（総務）	・新型コロナウイルスの影響により売上が落ち込んでいたが、衣料品の売上が前年並みに戻りつつあり、食料品の売上も非常に良いため景気が戻ってきた。
		スーパー（販売担当）	・いろいろな行事があり来客数が増えるため、景気は少し良くなる。
		スーパー（支店長）	・緊急事態宣言時と比較すれば、少しは客の動向も良くなり期待はできるが、また第2波などとマスク等で騒がれると、一気に需要が再び縮小するのではないかと考える。早く終息に至り、ニューノーマルでよいので活気のある生活をしたい。
		コンビニ（企画担当）	・このまま新型コロナウイルスの影響が収まっていくようであれば緩やかに改善していくと考えられるが、状況の変化によっては悪化する可能性もある。
		コンビニ（エリア担当）	・人の往来が増えて来客数があと少し回復すれば、客単価は高止まりしているため、景気の回復が見込める。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルス感染拡大時と比較して、人の動きも少し活発にはなったが、感染拡大前の売上と比較してマイナス3%の状況である。今後については、エンターテインメントキャンペーンを継続して実施することで来客数の改善と季節商材、エリア商品の強化を図る。
	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの影響による直近のどん底状態から脱し、少しずつ来客数も増え始めている。夏頃には現状より人の動きも活発化することが予想されるため、来客数が今より増えて、飲料等の夏物商材を中心とした売上の回復も考えられる。	
	コンビニ（本部管理担当）	・景気に関しては、今後回復傾向が続くと見込む。理由は、新型コロナウイルスによるマイナスの影響を受けている世帯もあれば、新型コロナウイルスの影響で外食、外出を自粛し金を使わなかったため金が貯まった世帯もあり、後者の世帯はこの夏に財布のひもが緩むと考える。実際に周りでもそのような話をよく耳にする。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（商品企画担当）	・今後、東京オリンピックが延期となった関係やこれまでの新型コロナウイルス禍での自粛疲れなどにより、7月の連休や8月のお盆には、ある程度の人々の移動が発生すると想定する。ただし、新型コロナウイルスの第2波の発生などがあれば、確実に景気は悪化する。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	・家電業界は、新型コロナウイルスの影響も軽微で巣籠り消費にも支えられているため、消費マインドが戻れば景気も良くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルス発生以前のように当然いれないが、このままの感染状況が続けば、少しずつ戻ってくるように見受けられる。
		乗用車販売店（従業員）	・前年比では大幅に落ち込んでいるが、新型コロナウイルス感染拡大の時期からは徐々に新車の販売台数は回復しつつある。この数か月の新車販売台数が落ち込みすぎて、今よりは良くなるという意味合いもある。
		乗用車販売店（従業員）	・問合せ件数も多く、自粛期間が長かったため、新型コロナウイルス対策の移動手段として自動車は良いと考え、総合して自動車業界はこの先明るいと思える。
		乗用車販売店（営業担当）	・滞っていた新商品の発売が判明し、来月からは商品の入荷も徐々に見込めるので、元どおりには時間が掛かるだろうが、期待している。
		乗用車販売店（営業担当）	・緊急事態宣言の解除以降、来客数は戻りつつある。メーカー側の客への購入支援もあるため、回復を見込む。
		その他専門店〔貴金属〕（経営者）	・10万円給付金の使用が見込める。夏のボーナス支給状況によっては購買意欲の向上が見込める。
		高級レストラン（経営企画）	・ウィズコロナとして各企業、消費者が動き始めている。政府の政策により自粛対応企業の支援策が実行される。テイクアウトの定着と、新型コロナウイルス感染症対策を各店舗で実施することにより、イートインの来客数の戻りを期待する。
		観光型ホテル（経営者）	・Go To Travelキャンペーンの客の動きがあり、少しずつ景気は回復すると考えるが、まだまだ弱い回復基調が続くと考える。
		観光型ホテル（支配人）	・県や市の地元観光誘客キャンペーンをきっかけに利用客が動き出してくれるとは思いますが、遠方からの来客はまだ見込むことができない。夏の期間、地域や自館の催しも全て自粛し中止となっており、売上前年比50%の壁すらもまだまだはるか先のことである。今月よりは良いにしても、絶対的に売上が低すぎる。
		都市型ホテル（営業担当）	・希望的観測であるが、プロ野球開幕や都道府県の移動もできることになってマインドが少し変わってきている気がする。今後、新型コロナウイルスの影響が現状並みで推移すれば、少し変わってくるかもしれない。
		旅行代理店（経営者）	・Go To Travelキャンペーンによる需要喚起が期待される。
		旅行代理店（経営者）	・Go To Travelキャンペーンが少しずつ浸透して、景気が良くなると見込んでいる。
		通信会社（営業担当）	・今後も、通信速度向上に向けて販売量の増加が見込める。
		テーマパーク（職員）	・屋外施設を出掛ける先に選んでいる傾向がある。
		テーマパーク職員（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染が拡大してこなければ、多少回復していくと思われる。
		観光名所（案内係）	・人出が段々と増えているため、現状のまま進めば期待できると見込む。
		美顔美容室（経営者）	・8月からキャンペーンが始まるため、販売量が増加すると見込まれる。
		美容室（経営者）	・夏になると新型コロナウイルスが落ち着き、暑くなるとパーマやカットに来店する客が増えることを期待する。
		設計事務所（職員）	・夏まで新型コロナウイルスは流行しないと考える。9～10月に第2波が来ると考えるため、それまでは景気は上向きだと考える。
		住宅販売会社（従業員）	・来場者数が徐々に増えてきている。7月からは会場イベントが再開される予定である。回復に向かっていくと考えている。
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・受注までは至っていないが、企業の改装工事引き合いが数件きている。
		商店街（代表者）	・相変わらず来客数は伸びず、客単価が極端に低くなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・自粛中のダメージが大きく消費の回復が遅れているところで、新型コロナウイルスの第2波が来るのではないかと、楽観的には考えることができない状況である。
		商店街（代表者）	・自粛ムードが完全になくならない限り、家電の消費は買換え需要しか考えられない。
		商店街（代表者）	・第2波の懸念があるため、変化はしないように感じる。
		一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	・新型コロナウイルスによる今後の影響は、まだ見通しが立たない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で2～3か月先も飲食店の回復は期待できない。今月のように前年比7～8割減が続くと考える。回復の見込みは、全国的に終息するという兆しが見えてこないと感じる。
		一般小売店〔果物〕（店員）	・2～3か月ほどで景気は変わらない。
		一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・新型コロナウイルスの影響でまだまだ先行きは不透明であり、不安が拭えない。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・現状からは、3か月先は分からない。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	・徐々に客側での制限が解除されているが、秋までは現状が続くと見込まれる。
		百貨店（売場主任）	・休業中は取引先も同様であったため生産量が少なく、現在ある商品でクリアランスセールを乗り切る予定だが、サイズがない商品が多く、売上は余り伸びないと思う。
		百貨店（経理担当）	・渡航制限は段階的な解除が進むと考えるが、新型コロナウイルスの第2波のリスクや、可処分所得の減少から需要は盛り上がることはないと思う。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響により、経済活動が以前のように戻っていかない。
		百貨店（販売担当）	・客は外出に前向きになっているため、新型コロナウイルスの危機感はあるが、現状よりは少し良くなるのではないかと。
		百貨店（計画担当）	・来客数や売上が回復傾向にあるが、まだ100%回復したとはいえない状況にあり、その状況がしばらく続くと思われる。
		スーパー（店長）	・金を使う時期には使うはずである。まだまだ外出先も制限されているので、食費に回すことも多いと見込む。
		スーパー（店員）	・新型コロナウイルスの状況によって、売上の推移は変わると思うが、イベントの自粛に伴う菓子や飲料類の減少、気温の上昇による買い控えがあると見込む。
		スーパー（ブロック長）	・新しい生活様式が継続され、在宅勤務、夏休みの短縮、外食店でのソーシャルディスタンスなど、内食需要の追い風が続くと思われる。
		スーパー（商品開発担当）	・今年は新型コロナウイルスの影響で、夏休みやお盆の状況がどうなるか分からないため、予想が難しい。現状の売上をみると前年とさほど大きな変化はないため、景気は変わらないのではないかと見込む。
		スーパー（販売担当）	・競合店が閉店している11月までは良い状態が続くと見込む。業績は良いが、懸念としては新型コロナウイルス発生前には数人いた閉店時刻の23時頃の客がほぼゼロである。その分日中の来客数が増えているとみられる。
		コンビニ（店長）	・夜の来客数の落ち込みはまだ続いており、回復に時間が掛かりそうである。
		コンビニ（商品開発担当）	・自粛明けから回復を期待させる話は聞こえてくるが不透明である。安心はできない状況が続くと考える。
		コンビニ（店員）	・子供の夏休みも短縮されて、客の動向が読めない。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスが終息したとしても、景気がすぐに戻るとは考えられない。
		家電量販店（店員）	・足元の傾向は、少しの間は継続するのではないかとと思われる。現状まだ給付金が給付されていない地域を考えると、家電量販店としてはこの傾向が続くように見受けられる。ただし、我が国全体として、まだまだ産業界全体では戻っていない状況と耳にすることが多いため、3か月程度ではこの状況は変わらないのではないかとと思われる。
		乗用車販売店（営業担当）	・外出自粛明けで消費は回復してくるとみられるが、新型コロナウイルスの第2波の心配もあり、先行きが読めない。
		乗用車販売店（経営者）	・徐々に新型コロナウイルスの影響は小さくなってきているが、まだ見通しがつかない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・今後も新型コロナウイルス禍での一進一退の状況は続くものと予想される。将来への不安もまだ払拭されていない。
		乗用車販売店（従業員）	・移動自粛が解かれ、自動車で遠出する機会が増えてくれば、販売台数、工場への在庫台数も回復してくると見込む。ただし、現状の客の様子、販売台数、在庫台数では良くなると思えず、しばらくはこの状況が続くと考え。
		乗用車販売店（従業員）	・新たな販売体制のもと新型車両も発売され何かと話題性はあるが、まだ客の動きが悪い。残業時間やボーナスが減少し、客は大きな買物への抵抗感がまだ拭い去れずにいる。市場全体の購買意欲が盛り上がるのは、まだまだ先のように見受けられる。
		乗用車販売店（販売担当）	・新型コロナウイルスの影響がどこまで続くのかが不安である。
		その他専門店〔書籍〕（店員）	・新型コロナウイルスの影響で夏休みも短く、旅行や遠出等も敬遠されると考えるため、来客数、客単価共に伸びると見込んでいる。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・緊急事態宣言解除から約1か月で、特別定額給付金の影響もあり、消費マインドは以前より良くなったように感じるが、これ以上良くなる要素が見当たらない。第2波の心配もあり様子見の感がある。
		一般レストラン（経営者）	・宴会需要が望めない。
		一般レストラン（従業員）	・新型コロナウイルスのワクチンが開発されないと皆が外出することはないため、テイクアウトに力を入れることを検討している。
		一般レストラン（従業員）	・政府のGo To Travelキャンペーンが始まれば、業種によって良くなることもある。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・恐らく今の状態が続くが、なくなるものがあれば新しいものも出てくる過渡期かもしれない。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・政府による10万円の特別定額給付金は、消費に回らないかと思っていたが、消費者の心理を明るくする効果があったと消費者の様子から感じられる。
		都市型ホテル（従業員）	・現在の予約数から、景気は変わらない。
		都市型ホテル（経営者）	・景気対策と新型コロナウイルスの影響次第である。
		都市型ホテル（総支配人）	・今後の新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、忘年会の受注が本来ならピークの時期であるものの、全く受注できない。いつまでこの状況で雇用を守って会社を維持できるか、見通しは立たない。
		旅行代理店（経営者）	・海外旅行は、3か月以上はゼロベースが続くと予想する。国内旅行も、年内に50%回復するか否かという見通しである。
		旅行代理店（経営者）	・にぎわいが戻りつつあるが、タクシーの稼働台数が増えるなかで利用者の取り合いも始まり、外国人客が当面の間戻らない状況で今の伸びでは以前の水準にまでは届かない。ターミナル駅前のデパートのレストラン街では、既に閉店して1か月以上次の店が決まっていない店舗や休業の貼り紙のままの店もある。別の大規模ビルでは、8月末に4階にわたって専門店街を運営する大型店の撤退が決まっているだけではなく、同じビル内にある住宅関連の店舗群が2フロア閉店の予定となっている。リニア中央新幹線の開業も2年遅れになると発表され再開に水を差し、少なからず新常态の影響が出始める。
		旅行代理店（経営者）	・海外レジャーが難しい状況でGo To Travelキャンペーンが、個人旅行会社にも救いの手を差し伸べてくれるかで変わってくる。Web予約を行っていない小規模店では、即割引商品の販売は不可能で大手旅行社の企画商品を受託販売するので、旅行終了後に領収書をGo To Travelキャンペーン窓口へ送付して口座にキャッシュバックする方式が望ましい。ここ数日も、給付金10万円が4名分あるからそれを利用して北海道、沖縄のふだん泊まれないリゾートホテルへ泊まりたいという問合せがある。台風は必ず来るにしても、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の再発出は避けたい。土産代も立て替えて現地の小さい土産屋も潤うように、絶対にあとからキャッシュバックの方法がよいと考える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（営業担当）	・動きの悪い団体客に対して、Go To Travel キャンペーンを絡めた提案準備を早々にしたいが、販売法の詳細な仕様が分かるまで目標が立てづらく、どれくらいの取扱が見込めるのかが不明である。現場の声を反映した仕様になっていることを期待したい。
		旅行代理店（営業担当）	・8月上旬から中旬に予定しているGo To Travel キャンペーンで、どれだけ団体旅行が復活してくれるか不透明である。夏休みも短く、第2波におびえて、旅行を計画する人もすぐには回復しないとみている。
		タクシー運転手	・繁華街、駅周辺に人が少ない。景気が良くなるめどが立たない。
		タクシー運転手	・良くなる要素がない、生活できない。
		タクシー運転手	・例年であればボーナスシーズンも始まり需要が増えるはずだが、今年はボーナスが出ない会社もあることや新型コロナウイルスの影響もあり、以前のような忙しさになる状況ではない。
		通信会社（営業担当）	・新規件数は落ち着いてきたものの、しばらくはこの状況が続くと思われる。
		レジャーランド（職員）	・個人客の出控えが続いていることと、多くの学校で夏休みが短縮されることにより、例年並みの水準に回復することは難しく、厳しい状態が続くと考えている。
		ゴルフ場（支配人）	・8～9月の入場者予約数は、前年の同日と比べるとまだまだ低い状況である。9月はゴルフシーズンに入ってくるが、今のところ予約数が伸びない。2～3か月先の景気はまだまだ悪いままと見込まれる。
		その他レジャー施設 [鉄道会社]（職員）	・観光列車の予約が始まっているが、担当者の自宅待機が続いており問合せも少ない状況である。まだ客は出控えているように感じる。
		その他サービス[介護サービス]（職員）	・真夏に向けて入浴用具の販促を強化していくため、その需要を確実に拾っていききたい。
		その他住宅[不動産賃貸及び売買]（営業）	・この状況下でどれだけ例年並みに戻せるかを思索している段階であるが、部屋を探す客がどれだけ増加するか、又は新婚世帯がどれだけ増加するかを見通すのが難しい。
		一般小売店[生花]（経営者）	・新型コロナウイルスの第2波の心配もあり、外に出ることを控える傾向はしばらく続く。景気の回復は望めない。
		百貨店（販売担当）	・自粛明けの需要で文房具では好調な物もあるが、結婚式関連が前年の半分程度と厳しい。
		スーパー（店員）	・客の流れ、動きも以前とは違い、今後も厳しいのではないかと見受けられる。
		スーパー（販売担当）	・住居用品では、マスク、アルコール消毒の特需も一服し、それに代わる売上の核となる商品が見いだせない。食品でも品切れ商品がまだ回復しておらず、長期予報で暑い夏に向けての商戦も力強さがみられない。
		コンビニ（店長）	・第2波で一部でも活動自粛になると影響が出る。改正健康増進法もたばこの売上に影響している。
		衣料品専門店（売場担当）	・今の状況は飽くまで一時的なものであり、決して景気回復によるものではないと考えている。
		家電量販店（店員）	・定額給付金で必要な物を買った後は、購買意欲は落ちるのではないかと。
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が拡大しており、第2波への警戒から消費が減少するとと思われる。
		その他小売[ショッピングセンター]（経理担当）	・売上は前年比で28.7%のマイナス、来客数は前年比31.5%のマイナスである。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの不安もあり、客は金を使わない。キャッシュレス決済を導入していないため、不安である。
		一般レストラン（経営者）	・7月からモーニング・ランチを再開しても、以前のように客が来ないと見込む。しかし、持ち帰りは前年に比べ少し売上が上がっている。
		通信会社（企画担当）	・会社関係の新型コロナウイルスの悪影響を多々耳にしており、これが個人にも必ず影響してくるはずである。
		パチンコ店（経営者）	・新型コロナウイルス禍で自粛要請を受け入れた後、まだ客のマインドが完全には戻っていないため、それ以前の状態になるまで時間が掛かりそうである。企業努力よりも、新型コロナウイルスの終息と完全に相関している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	・新型コロナウイルスの影響がもっと出てくる。
		理美容室（経営者）	・外出もせず、消費意欲も余りないように見受けられる。
		美容室（経営者）	・2～3か月では新型コロナウイルスの状況は変わらない。来年、再来年と長引くのではないかと懸念する。
		住宅販売会社（従業員）	・今後、受注量の減少による大きな影響が出てくると思われる。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・今年の夏は花火大会、イベントや祭りも中止で、想定していた受注量が確保できず、先行きが不明瞭である。
	x	スーパー（店長）	・個人所得が減っているなかで必要以上の買物をしないため、1品単価は下落し買上点数は減っていくと思われる。
	x	コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの影響が残るなか、繁華街、ビジネス街に人が戻ってきている感じはしない。この不安が拭えない限り、現在の状況は続き回復は難しい。
	x	衣料品専門店（販売企画担当）	・まだまだ新型コロナウイルスの影響から回復の兆しはみえない。
	x	住関連専門店（営業担当）	・建築業界の営業においては、3密を守っていると仕事、受注にならない。マスク等対策をしながら営業はしているものの、その影響で年末～来年にかけて更に悪くなると懸念する。
	x	テーマパーク（職員）	・新型コロナウイルスの第2波が心配で、人が動かない。
	x	理容室（経営者）	・当分の間は仕事が少なくとみられる。
	x	設計事務所（経営者）	・全く分らない。少なくとも良くなる材料は1つもない。
	x	住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスが終息しなければ、社会全体の景気は良くならない。
x	住宅販売会社（従業員）	・多少仕事が減ったことよりも、中堅の地元ビルダーが倒産したりすると更に住宅への投資が減るとわれ、とても不安である。	
企業 動向 関連 (東海)		電気機械器具製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響も2～3か月後には良くなると見込んでおり、全体の景気としても良くなるのではないかと考える。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・社会の要請もあり、ネットワークの大容量化に向けて設備投資は堅調であるとみられる。これらの関連事業は、しばらくは安定した展開ができると見込む。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・自動車メーカーの生産量が増加すると考えており、受注量も増加する。
		建設業（役員）	・この2か月は新型コロナウイルスの影響で広告の自粛やマンションギャラリーを閉めていたが、販促活動ができるようになり客も動き出している。来場者数は少しずつ回復してくると思われる。
		輸送業（従業員）	・7月になれば少しずつ荷動きが回復しそうだという話を数社から聞いている。具体的な依頼も数社からきているが、それが7月だけの話なのか今後は上向きになるのかは、当面様子見といったところである。
		輸送業（エリア担当）	・宅配便は安定的に増え、新型コロナウイルスで自粛していた会社が動き出し、商業貨物も動き出す。
		通信業（総務担当）	・感染対策ができてきているため、少しずつ行動が戻ってくると期待する。ただし、東京の夜の街の報道は、全国の活動再開の機運にブレーキを掛けすぎている。該当する場所ではもっと自粛するべきである。
		不動産業（経営者）	・7月は例年同様に晴天の日が多くなるとの予報であるが、今後も新型コロナウイルスの影響が少なからず続くともみている。公共交通機関の利用者が減少している間の売上は厳しい状況が継続するが、少しずつ改善傾向になっていくともみている。
		公認会計士	・新型コロナウイルス禍による操業度の底は6月と思われるため、景気は上向くと考える。ただし、第2波があった場合は、再度、操業度の底がくる可能性があり、その場合は景気が再度悪化する可能性がある。
		会計事務所（職員）	・持続化給付金の申請が今月も多かった。しかし、対象月をみると3～5月に集中していて、今月は少し持ち直してきているように見受けられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・新型コロナウイルスの影響は短期間と考えていたが、1年は続くと考えることが正しいかもしれない。時間はあるため、やれることは精一杯やっておこうと考える。新製品は特許出願の段階に入った。
		化学工業（営業担当）	・外出自粛が緩和し、業務用洗剤等外食産業での需要は回復するかもしれないが、3か月で需要に伴う発注が増えるかは読めない。
		化学工業（総務秘書）	・やや悪い状態が続く。自粛疲れの反動で買物や飲食を楽しむ人で一定のにぎわいが続くと思うが、客足が戻らない飲食店は廃業する。飲食チェーン店や高級クラブなどが厳しいと思う。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・自動車関連が良くないことは間違いないが、ほかでは増産や設備増強の話が出たりしており、現状のまま推移しそうである。
		金属製品製造業（経営者）	・市場の縮小傾向に新型コロナウイルスの影響が加わり、販売量の少ない状況が続くと考える。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・自動車の販売状況が好転しないと設備投資も増えない。設備投資が増えるまでには、もう少し時間が掛かりそうである。
		一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売見込みより判断する。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・しばらく同じ状況が続くと思われる。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・現在の景気が下がり切っているため、これ以上は下がらない。
		建設業（営業担当）	・今年度の仕事に対しては予算が決まっているが、今後に関しては、現在の社会情勢が延長した場合の寄附金や補助金との兼ね合いで、発注になるか延期になるのかがはっきりしていない。
		輸送業（エリア担当）	・国際物流量はしばらく低迷すると見込む。
		輸送業（エリア担当）	・景気対策の特別定額給付金は、政府の思わく反して新たな消費を拡大することはなく、マイナスを補填するための給付金になっている。給付金によってプラスマイナスゼロになっただけで、消費者の購買意欲はプラスには転じておらず、景気はこの先もまだ低迷していく。
		不動産業（経営者）	・より一層購買意欲は降下するが、資産としての不動産の見直しが進む。
		広告代理店（制作担当）	・新型コロナウイルスがもっと収束してくれば、経済的にも少しずつ戻ると思う。あとは企業側の行動次第で景気も変わってくると思われる。
		会計事務所（職員）	・取引先の様子をみていると、売上は徐々に増えてきてはいるが元どおりには程遠い状況である。また、新型コロナウイルスもいまだ完全には終息しておらず、自粛ムードはまだ残っている状況であるため、景気が好転するにはまだ期間が必要そうである。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・営業活動に期待はしているものの、取引先自体が案件の拡大、再開にはまだ時間が必要なので、派遣契約の停滞が続くと思われる。
		食料品製造業（経営企画担当）	・新型コロナウイルスの影響は更に長期化することが予測され、先行きは極めて不透明である。
		金属製品製造業（従業員）	・これだけ経済情勢が悪化しているなかで、これからは投資関係も減っていくので、建築投資が夏以降、例年どおり出てくるか非常に心配しており、悲観的な見方にならざるを得ない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・業種によっては少し仕事量が増えたが、メインとなる工作機械、自動車関係については、週休3日等まだ先がみえない状況が続いており、しばらく売上は減少傾向となる。
		通信業（法人営業担当）	・新型コロナウイルスへの不安は消えていない。個人消費や企業投資が活性化しなければ、国がどれだけ税金を投入しても、景気は回復しないと考える。
		通信業（法人営業担当）	・大企業を中心に正常勤務に戻りつつあるが、個人企業や個人経営の飲食店の現実はかなり厳しい。身近な飲食店の話でも、集客、売上が新型コロナウイルス発生以前に戻るのはまだまだ厳しいとのことである。政策的にも、下層にもっと焦点を当てないと厳しい現実是不変ならないようである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（従業員）	・最悪の状況からは少し良くなってきたものの、いろいろな業種が例年に比べると低迷している。新型コロナウイルスの第2波も予想されたり今後の見通しも立たない状況で、完全復活には時間が掛かる。
		金融業（企画担当）	・客足が戻っていない企業が多く、新型コロナウイルス発生前の状況に戻るにはまだまだ時間が掛かる。企業体力がどこまで持つかに懸かっている。時間が掛かる分、更なる景気悪化が見込まれる。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・生活必需品などのチラシは一定数入ると思うが、大勢の集客が伴うイベントなどを告知する広告は、引き続き期待できない。
		行政書士	・新型コロナウイルスの影響が続いており、設備投資やガソリンスタンド設置を延期する話が出ている。
	×	食料品製造業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響もあり、業界自体の落ち込みが激しい状況である。回復できる要因が見当たらず、このままずるずるとひどくなっていくことを懸念する。
	×	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・新型コロナウイルスの第2波が心配されるなかで、取引先の生産量減少、休日の増加、資金繰りの悪化や雇用確保の問題で景気悪化が当分続くものと見受けられる。
	×	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響が本格的になり、失業者や会社を畳む人等が出てくると考える。
	×	鉄鋼業（経営者）	・製造業への影響は6月から本格化し、今年度予算が各企業で立てられない状況である。今後の仕事が減るとの見込みが予定として内示されている。
	×	輸送用機械器具製造業（経営者）	・各所でクラスターが発生し、低迷した状態が続くのではないかと。
	×	輸送用機械器具製造業（管理担当）	・まだまだ新型コロナウイルスの影響が続く。
	×	建設業（経営者）	・日本の政治家は緊張感がなく、他人事のように感じる。
	×	輸送業（経営者）	・住宅建材、工作機械など注文残がなく、これから一層物流量が減るものと見込まれる。
	雇用 関連 (東海)		-
		人材派遣会社（社員）	・7月から取引先の営業が再開になるので、少しは良くなると思いたい。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・5Gの携帯通信については、この秋以降市場で利用者数が増加し、その影響で5G関連の企業においては、この先2～3年は仕事を確保できる見込みである。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人数をオープンにする企業が少しずつ出てきた。すぐに改善されるとは考えにくいですが、今後2～3か月掛けて向上するのではないかと。
		職業安定所（所長）	・新型コロナウイルス感染拡大の影響等で、新規求人数の落ち込みが大きかったが、6月に入り少し持ち直しがみられる。
		人材派遣会社（経営企画）	・更なる悪化の見込みはないが、明確な回復見込みもなく、不透明な状況である。
		人材派遣業（営業担当）	・各種給付金、補助金が行き渡り、大幅な悪化は考えにくいですが回復までには及ばず現状の継続となりそうである。
		人材派遣会社（企画統括）	・新型コロナウイルスの2次感染拡大の不安は残っており、景気動向は不透明な状況が続くと思われる。
		人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で各社は人材採用を新規に検討する余地がなく、特に派遣については契約満了で終了するケースが目立つ。自動車関連や機械関連の企業では顕著に現れている。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・外食産業や製造業の非正規労働者の募集がしばらくは見込めない。数か月前の人手不足がうそのように感じられる。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの影響が続く限り、この状況は変わらない。
		職業安定所（職員）	・社会経済活動が動き始め、求人数が増加している業種もあり、新型コロナウイルス禍から立ち直り始めているとみられる一方、今後の雇用調整の情報も多く聞かれる。
		職業安定所（次長）	・派遣労働者等の雇止めは多くなってきているが、正規労働者の解雇等の件数は、少なくともとどまっている。
	民間職業紹介機関（支社長）	・サービス業、小売業の大手の求人はまだ戻ってきていない。製造業も同様である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（営業担当）	・案件を終了する企業は2～3か月前と比べて減少しており、継続して採用したい企業は要件を変えながらではあるが面接・内定等も出ている状況から、今後は事業存続において必要な人材採用を考えている企業の採用が増える見込みである。
		民間職業紹介機関（窓口担当）	・まだまだ新型コロナウイルスの第2波の懸念があるなかで、求人を見合わせる企業が多い一方、現時点ではオフィスワーク系の就労者にはそこまで影響がないため、流れが滞っている状況である。
		職業安定所（職員）	・飲食店では再開しないでそのまま閉店してしまうところもあり、失業者が増加する。
		職業安定所（次長）	・新型コロナウイルスの今後の感染状況による。現時点より少しでも拡大した場合は、経済活動再開にブレーキが掛かるが、現状を維持できれば、変わらないと考える。
		職業安定所（次長）	・企業の採用活動の動きが感じられるようになってきたものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響等で、新規求人数の減少傾向が続いている。現在の雇用を維持しようとする事業所からの、雇用調整助成金の支給申請の増加が続いている一方で、僅かではあるが人員整理を検討しているという声も聞かれ、先行きへの不安感は拭えない。
	×	人材派遣会社（営業担当）	・主要客の自動車メーカーとの受託取引では、10月から予算削減が始まる。それに伴って業務終了者も何名か発生する見込みで、エンジニアの稼働率も低下する。
	×	人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルス終息のめどが立たず、世界経済が非常に不透明な印象である。
	×	人材派遣会社（営業担当）	・契約終了者数は、現状では前年比で10%程度の増加にとどまっているが、9月末の契約終了が増加する見通しである。新規求人数は、人材派遣、人材紹介共に大幅に減少している。

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北陸)		コンビニ（店舗管理）	・新型コロナウイルスの影響による新しい生活習慣も徐々に薄れ、以前のように戻っていくはずである。
		一般レストラン（統括）	・夏休みやお盆期間には帰省などで消費者が動き、海外への渡航ができない分、近隣への外出や国内旅行などの需要が高まる。また、現在行われている各自治体での宿泊補助などの相乗効果もあり、今後、外出に伴う消費者の支出が増えると考えられる。
		商店街（代表者）	・夏場には新型コロナウイルスの感染が一旦収束するといわれているので期待したい。冬を越せるように、いかにここ1～2か月で稼げるかが問題だと考える。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの影響が薄れると考える。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・新型コロナウイルス禍のなかで今までやってきて、3月くらいの水準までには戻ってきている感じである。デイリーの売上がもう少し上がってくればとの期待を込められるまでになっている。感染者がまた出たければという不安もあるが、良くなる可能性があるかとみている。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・今より悪くなることはないと思う。東京からの観光客には来てほしいが、新型コロナウイルスに感染していないか不安はある。
		家電量販店（店長）	・特別定額給付金の給付もあり、巣籠り需要が継続されている。省エネ性の高い商品への買換えが多く、来客数、商品単価共に上昇している。
		乗用車販売店（経営者）	・月末から通常業務に移行できたので、自動車業界全体も動き出すとみている。イベント開催等も随時計画されているので、少しずつ良くなると考える。
		乗用車販売店（従業員）	・今後の見通しは立たないが、少しずつ景気は良くなっている。
		乗用車販売店（役員）	・新型コロナウイルスの新たな発症事例も日々減少している。また、この後実施される政府主導のGo To Travelキャンペーンにより公共交通機関を利用せず、車などで旅行をする傾向が増えてくるとみられ、自動車業界にとっては第2、第3の感染拡大がないことを祈るばかりである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新型コロナウイルスの流行によりけりだが、引き続き感染の影響は徐々に緩和されると考える。
		高級レストラン（スタッフ）	・3か月先を予測することは難しいが、例年に対して15%ほどの受注状況である。
		一般レストラン（店長）	・営業再開後も予約はほとんどない。ただ、少しずつ動き始めた感じはする。好評な県の旅行割引で観光客が動き、にぎわいが波及することを期待する。
		観光型旅館（経営者）	・県民への宿泊助成金が7月1日宿泊分から始まるのを利用して、宿泊予約が増えている。今後、Go To Travelキャンペーンもあり、個人客が動くのは期待できる。
		観光型旅館（スタッフ）	・県民の宿泊割引は7月末で終了となるが、7～8月の予約数は前年に迫る人数となっている。8月からはGo To Travelキャンペーンが開始される予定である。詳細は不明だが、秋以降はキャンペーンによる予約回復を期待している。
		旅行代理店（所長）	・県の宿泊割引や国のGo To Travelキャンペーンによる旅行需要の掘り起こしに期待したい。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染者がしばらく出でおらず、外出する傾向にある。また、仕事で出張する機会も増えていることから、タクシー利用が増える傾向にある。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染者が今後出なければ、急激に人は戻らないものの以前の6～8割まで回復するという期待を持っている。
		通信会社（営業担当）	・このまま全体の受付数が増えれば、利益に直結する販売数が伸びると考える。
		競輪場（職員）	・新型コロナウイルスによる自粛要請が解除されていくなかで、客足は戻りつつある。ただ、営業形態は従前どおりまでには至っておらず、今後の感染動向によっては景気の低迷もありうる。
		住宅販売会社（従業員）	・現在商談をしている件数がある程度あり、土地の問合せや予約の件数も増えてきたので、これから契約が進むとみている。このままの状態が続くかどうかは、例年動きの少ない7月の契約数や客の動きによるが、現状の動きは良くなっていると考え。
		住宅販売会社（従業員）	・緊急事態宣言は解除されたが、人の動きの回復には時間を要すると考える。少しずつ回復することを期待している。
		住宅販売会社（営業）	・会社の商談用のテーブルが週末は満席になるなど、客が動き出してきた印象を強く受ける。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	・環境衛生商品や飛まつ感染防止商材の売上はあるが、主たる製品が売れない。
		スーパー（店長）	・今の生活スタイルが今後のベーシックなスタイルになるとみているので、現状の流れから大きな変化はないと考える。
		スーパー（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染が収束しない限り、良くなるより悪くなっていくとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・県をまたぐ移動の戻りがまだみえず、来客数の大きな増加が期待できない。
		衣料品専門店（経営者）	・先行きについては、新型コロナウイルス感染の第2波、第3波の影響が心配されるため楽観できず、売上もなかなか元に戻らないと考える。
		衣料品専門店（店舗運営）	・客単価と購買点数は前年を超えているが、来客数が元に戻るまでには時間が掛かる。
		家電量販店（本部）	・長期予報どおりに暑くなればこのままエアコンや冷蔵庫が好調に推移する。ただし、これからは特別定額給付金の効果が落ち着くとみている。
		自動車備品販売店（役員）	・当分は新しい生活様式で支出を抑える行動が続くとみられる。最低でも年度内は我慢のときだと考えるが、自動車販売の商売に適した政府の経済対策次第である。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・希望的観測であるが、これ以上悪くならないということを前提に変わらないと回答する。しかし、世間でいわれている第2波、第3波が来たら、今よりはるかに景気が悪くなる心配がある。飽くまでも希望的観測である。
		スナック（経営者）	・新型コロナウイルス次第だが、企業も一部を除き全て弱体化しているため、今のままかマイナスの状態だと考える。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であり、今の最悪の状況から、回復は見通せない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（職員）	・安価なサービスへの見直しなど、これからの家計を考慮した問合せが散見される。
		通信会社（営業担当）	・明らかに新型コロナウイルスの影響が出ている。自粛解除により通常時に戻ることを期待したい。
		通信会社（役員）	・新型コロナウイルスによる感染拡大の第2波のリスクは伴うが、今月同様に前年同月比で80%くらいの契約を獲得できると考える。
		テーマパーク（役員）	・今後、政府のGo To Travelキャンペーンなど、観光施策が実施される予定だが、まだ具体的な内容がみえにくく、現状が続くものとみている。
		美容室（経営者）	・客の購買意欲は順調であり続けると考えるが、新型コロナウイルスの第2波が不安材料である。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・新型コロナウイルス発生以前のように元に戻ることはなく、今のところ良くなる要素はない。
		百貨店（販売促進担当）	・取引先の商品投入がタイトになる様子である。特にアパレルでは秋冬物の新作の投入が不十分になるとみている。また、ギフト品や販促品等は周辺の法人需要が低迷するため、回復には時間が掛かる。
		百貨店（販売担当）	・特別定額給付金などによる金銭的余裕があり、予想以上に購買行動に火がついている。しかし、この購買行動は、4～5月の反動と7月セールの前倒しによる需要と考える。夏のボーナス支給の低下の影響が出てくる7月以降は、購入には慎重さが出るとみている。さらに、客が低単価志向に流れことも予測され、単価ダウンにより売上全体に影響が出ると考える。企業のお中元に減少傾向がみられることも要因である。
		スーパー（総務担当）	・キャッシュレス決済のポイント還元終了による落ち込みがある。
		家電量販店（店長）	・特別定額給付金のおかげで販売が好調であるが、先に販売している分の反動がくる。
	×	商店街（代表者）	・若者世代を中心に客足は戻りつつあるが、閑散とした店舗で購入までつながることは難しい。誰かが買っているから私も買うという購買の連鎖が起きない限り、売上アップは望めない。客足が戻ったとしても前年比50～70%で推移するとみている。
	×	百貨店（売場主任）	・全国的に新型コロナウイルスによる不況でアパレル各社が不採算のブランド廃止や販売員削減の動きが加速するとみている。衣料品では今年の秋冬物商材の確保が見通せない。地方百貨店は極めて厳しい状況に陥る可能性が高い。
	×	スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染の第2波がいつ拡大するか分からない状況では景気回復は望めない。
	×	コンビニ（経営者）	・財布のひもは固くなっている。
	×	コンビニ（店長）	・現在、県内での新たな新型コロナウイルス感染者は0名となっており、客も平常時に近いような動きである。ただ、最近では東京などいまだに感染者が発生している地域との往来が盛んになってきている。そのため、再び県内で感染者が新たに発生してもおかしくない状況になっている。新型コロナウイルスそのものの脅威より、風評からくる自粛が売上に影響している。県内で再び感染者の報道が出ると、今年の3～4月同様に自粛からくる売上減が発生すると考えるので、今後景気は悪くなると考える。現状も非常に不安定であり、経営者としては不安な毎日を過ごしている。
	×	住関連専門店（役員）	・新型コロナウイルスによる感染拡大の第2波の可能性に加え、現在の一時的な駆け込み需要が終わると、再び厳しい状況になると考える。
	×	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	・年間で一番入会数が多いはずの第1四半期での入会がほとんどなく、子供向けの夏の特別教室も中止にせざるを得ないため、大幅に減っている会員数を増やすことへの希望がない。この現状では、採算分岐の会員数を上回ることが今年度中はまず無理である。
	×	住宅販売会社（従業員）	・個人用の注文住宅、商業用の店舗などの受注も厳しい。
企業 動向 関連		-	-
		食料品製造業（経営企画）	・新型コロナウイルス発生以前の状態にどこまで近づき、回復するかといったところではあるが、現状よりは確実に良くなるだろうと考えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(北陸)		精密機械器具製造業 (役員)	・緊急事態宣言の解除後、幾つかの大手小売では外出自粛の反動があり、以前の水準まではいかないにしても予想以上に回復している状況が耳に入るようになってきている。ただ、新型コロナウイルスの感染状況が再び悪化した場合は、更に回復には長時間を要することが心配である。
		通信業 (営業)	・見込み案件が徐々に増えてきている。
		繊維工業 (経営者)	・とにかく目先どころか、1年先まで悪くなるような状況である。
		金属製品製造業 (経営者)	・この先の注文が、まだ入ってきていない。
		一般機械器具製造業 (総務担当)	・国内市場は補助金の関連などで受注活動が動き始めている。しかし、欧米市場は引き続き厳しい状況である。
		不動産業 (経営者)	・それほど活発な話を聞かない。法人からも、個人からも問合せがないことから変わらない。
		プラスチック製品製造業 (企画担当)	・世界規模での新型コロナウイルスの感染拡大による影響は当分続くと考える。完全な終息までは経済の本格的な回復も難しいものとみられ、当社が関わる建設業界や自動車業界のみならず、世の中全般での大きなマイナス影響は避けられない。
		一般機械器具製造業 (経理担当)	・自動車メーカー等の生産減の影響により、大きく受注が落ち込んでいる。今後はメーカーの回復次第ではあるが、見通しは当面厳しいと考えている。海外においても欧州を中心に大きな受注減が続いていることから、全体への影響は大きい。
		金融業 (融資担当)	・経済活動は再開し始めたが回復の動きは鈍い。足元の新型コロナウイルスの感染者数は増加傾向にあり第2波を警戒している。各種経済統計や上場企業の第1四半期の開示が進み、消費マインドが低下することも懸念材料である。
		司法書士	・建物の新築など、数か月前から準備が必要な案件について、3～5月はほとんど話がなかったと記憶している。
		税理士 (所長)	・これからボーナスの季節になるが、民間のボーナスは非常に厳しくなると考える。特に中小企業や業種によっては、ボーナスゼロのところが多くなる。特別定額給付金等もあるが、消費自体が冷え込むことは間違いないので心配である。製造業や建設業も、これから徐々に新型コロナウイルス発生以降の受注の先細りが目立ってくると考える。非常に心配な時期が続く。
		建設業 (経営者)	・新型コロナウイルスによる不況対策として公共事業投資をしようにも、新型コロナウイルス対策で前例のない超大型補正予算を組んだためできない。新しい生活様式が浸透し、これまでのような消費に金が使われない。訪日外国人も急には増えないだろう。
		×	輸送業 (役員)
	×	金融業 (融資担当)	・担当先や他の担当者様子から、新規融資の申込件数は落ち着いてきているが、条件変更の申込みは増加している。信用保証協会の応諾に時間が掛かっているのは、審査件数がまだまだ多いからとのことである。各企業の資金繰り状況は前月から余り変わっていないことから、しばらく不安定な業況が続く見込みである。
	×	新聞販売店 [広告] (従業員)	・前月ほど売上の落ち込みはなく、徐々に売上は復調してきている。あと20%程度上がれば新型コロナウイルス発生以前の数字に戻る。前年比100%の戻りは今後も期待できない見通しである。
雇用関連		-	-
(北陸)		職業安定所 (職員)	・新型コロナウイルスの影響がやや収まるとみている。
		人材派遣会社 (役員)	・新規の派遣依頼が全く発生していない。また、派遣登録者も増えていない。
		人材派遣会社 (社員)	・新型コロナウイルスの影響がまだまだ続く恐れがあり、求人は減少している。求職者も、危険を冒してまで仕事に就こうとしないのではないかとみている。
		新聞社 [求人広告] (営業)	・良い話を聞かないし、手探りで社業を再開している企業がほとんどである。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	・新しい生活様式のもと、徐々に経済活動が活発になると考えるが、先々まで大規模イベントの中止が発表されたり、新型コロナウイルスの第2波襲来に備えたりするなかでは、急激な回復は期待できない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・求人数は徐々に増加しているが、サービス関連の求人数は、客足が戻らないため伸び悩んでいる。
		民間職業紹介機関（経営者）	・今年中止でなくなった事業も徐々に復活すると考えるが、営業収支等への影響はかなり大きくなっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・積極的に採用を考える企業が少ない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・企業の採用活動が活性化するための材料がない。
	x	-	-

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (近畿)		百貨店（サービス担当）	・今月の傾向が続くと予想され、前年の数字を確保できる状況にあるなど、景気は良くなる。ただし、今後は新しい生活スタイルの提案のほか、3密を避けた営業を検討する必要がある。
		観光型旅館（経営者）	・政府のGo To Travelキャンペーンなどの景気対策はあるものの、それが終われば厳しい状況となる。インバウンドはしばらく戻らないため、宿泊施設の供給過多が続き、価格の低下が進む恐れがある。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・6月に入って取引先の営業が始まり、少しずつではあるが注文が増えている。まだ不安はあるが、多少の回復はみられそうである。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・7月から本格的に婚礼の予約受注も始まるので、先行きは少し明るい。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	・振り袖や留め袖が必要な人は、買いにくると予想される。
		百貨店（売場主任）	・インバウンド売上の回復までには、相当な時間が掛かりそうであるが、現状の店頭売上をベースに、外商客を中心とした高額消費の回復が予想される。
		百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルスの感染がピークの頃と比べると、総売場を含め、買い控えられていた商材の動きが特に良くなっている。感染の第2波をうまく切り抜けられれば、回復の動きが期待できる。
		百貨店（企画担当）	・インバウンド売上の消失という状況は続くものの、新型コロナウイルスとの共存という生活習慣の下で、感染の第2波が抑えられる状況が続けば、国内客の消費マインドは徐々に回復傾向が強まると予想される。
		百貨店（販促担当）	・日がたつにつれて、若年層から中年層まで、日常の動きが活発になると予想される。備蓄や自粛に長い期間を費やし、ストレスの発散を求める気運が高まる。夏の行楽の予定も思うようには立てられないため、商業施設でのプチぜいたく関連の動きが期待される。
		百貨店（外商担当）	・新型コロナウイルスの感染の第2波による影響が少なければという前提であるが、次第に元の生活に近づくため、消費者の購買意欲も少しずつ上向いてくる。
		百貨店（外商担当）	・回復傾向は続くが、来客数の制限は続くため、回復の動きは緩やかなものとなる。
		百貨店（店長）	・感染の第2波がこないという前提で、ワクチンや治療薬の開発が進めば、人の動きは現在よりも活発になる。その分経済は回り、百貨店といったハレの部分の消費も多少は戻る。
		百貨店（服飾品担当）	・関西方面では新たな感染者数が1けたで推移し、感染をコントロールできている感が強い。街の人々の状況も変わりつつあるため、徐々に来客数は増えていくと考えられる。さらに、東京方面の感染者の減少が進めば、全国的に新たな安心感が広がることが予想され、秋冬商戦は、新型コロナウイルスとの共生の下でも十分に対応できる形となりそうである。さらに、中国の感染が落ち着いている状況をみれば、外国人の入国緩和のスピードが少し上がりそうなので、緩やかな回復が進むと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（マネージャー）	・関西では、新型コロナウイルスの新規感染者が低水準で推移しているため、入店客数も回復すると予想される。また、外商活動も通常どおりに回復しつつあり、高額品の売上もやや回復する。ただし、インバウンド売上の回復は当分見込めず、感染の第2波の恐れもあるため、本格的な回復は期待できない。
		スーパー（店長）	・給付金の給付と国内観光の支援により、一時的に小売関連は良くなる可能性がある。ただし、浴衣や水着といった商品は、新型コロナウイルスの影響で需要が減るため、アパレル系は厳しい状況が続くと予想される。
		コンビニ（経営者）	・当分はビジネス客と近隣の住民に頼らざるを得ないが、テレワークが減少していくため、効率的に売上を伸ばす戦略を取らなければならない。
		コンビニ（店長）	・緊急事態宣言が解除され、少しずつ客が戻ってくる。
		コンビニ（店員）	・来客数は増えているものの、まだ自粛前に戻った感覚はないため、これから徐々に増えていくと予想される。
		コンビニ（店員）	・少しずつ外出機会も増えてくる。やはり家の近くにあるコンビニは便利のため、利用が増えると予想される。
		衣料品専門店（店長）	・現在の状況よりも上向くと予想される。新型コロナウイルスの感染の第2波、3波への懸念はあるが、現状よりは良くなる。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・少しずつではあるが、客が戻ってきている。
		家電量販店（店員）	・今後は給付金の給付も増え、関連の需要が多く見込まれる。
		家電量販店（店員）	・来客数は季節要因もあって増えている。もちろん新型コロナウイルスの影響も多少はあるが、季節商材の動きが好調である。
		家電量販店（人事担当）	・今年は猛暑の予測もあり、まだまだエアコンや冷蔵庫、洗濯機などの耐久消費財の販売増加が期待される。
		乗用車販売店（販売担当）	・感染の第2波の懸念もあるが、経済活動の復活を目指す動きが更に出てくると予想される。
		乗用車販売店（営業企画）	・やや良くなることを期待している。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・消費者の生活スタイルや、消費の方法はかなり変わってきているが、店側が知恵を絞れば、客は戻ると予想される。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・客の動きは今よりも活発になると予想される。どの程度まで回復するかは不透明であるが、今よりは良くなる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・都道府県をまたいだ移動の解禁や、観光振興策により、今よりも消費活動は活発化する。ただし、完全に回復するまでには、まだまだ時間が掛かる。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・緊急事態宣言などで自粛要請が繰り返されない限り、徐々に上向く。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・入荷が遅れている商品が、安定して入荷するようになれば、売上につながる。
		高級レストラン（スタッフ）	・日常生活が安定してくると、来客数もコンスタントに安定してくる。
		高級レストラン（企画）	・都道府県をまたぐ移動制限の解除により、宿泊需要の増加が見込まれる。
		一般レストラン（店員）	・新型コロナウイルスの影響が少し収まり、外食する客が増えている。今後はお盆や夏休みもあるため、期待している。
		観光型ホテル（経営者）	・徐々にではあるが、良くなると予想される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・現在は小規模の会議のみの受注で、懇親会も中小規模のみとなっている。一方、今後は会議や総会も行っても、懇親会は見合わせるといったケースも多く、かなり厳しい状況が続くそうである。
		都市型ホテル（総務担当）	・レストランでは、営業を休止している和食店舗について、客から営業再開時期の問合せが増えるなど、今後の利用が期待できる状況になりつつある。
		都市型ホテル（管理担当）	・新型コロナウイルスの感染が収束傾向にある。このまま推移すれば、最低であった4～5月に比べると回復する。
		旅行代理店（役員）	・政府によるGo To Travelキャンペーンに、大いに期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競艇場（職員）	・観客を入れての開催の再開や、場外発売場の営業再開により、全国的に売上が好調であり、特に電話やインターネットでの投票は著しく売上が伸びている。しばらく状況をみなければ、好調の要因の分析は難しいが、現時点では上昇傾向である。
		その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・8月以降の予約が入りつつある。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設] (企画担当)	・今よりも来客数は増えるものの、インバウンドを除いても、通常の水準に戻る時期は見通せない。感染の第2波の動きも心配である。
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスに対する不安が徐々に解消され、緩やかに回復が進むと予想される。
		その他住宅 [情報誌] (編集者)	・新型コロナウイルスの感染収束後は、住まいの在り方に変化が生じる可能性がある。在宅ワークが日常的な存在となる前提で、消費活動が行われる可能性が高い。
		商店街（代表者）	・平日の人出が減少している。客足の引きも早く、18時頃には人出が極端に減少する。
		一般小売店 [珈琲] (経営者)	・飲食店の利用方法が変化している。
		一般小売店 [菓子] (営業担当)	・前月に比べるとやや動き出しているが、感染の第2波がくれば、たちまち売上の減少に直結することが心配される。
		百貨店（マネージャー）	・新型コロナウイルスの影響により、今後は企業のボーナスが減り、雇用も減るなど、徐々に影響が出てくると予想される。
		百貨店（商品担当）	・インバウンド売上の比率が大きかった都市型店舗では、国内客だけでカバーすることはできない。その一方、郊外型店舗ではその恩恵が少なかった分、落ち込みからの回復は早く、前年の実績に急速に迫っている店舗もある。ただし、全体ではインバウンド向けの売上を含んだ前年の実績に追いつけない状態が続くほか、感染の第2波を控えて、商品の製造や物流が順調に回復するかどうか、秋冬商戦に向けての大きな課題である。現状は、見通しが立ちにくい状況となっている。
		百貨店（販売推進担当）	・インバウンドが戻らず、集客イベントが開けないことを除けば、ほぼ前年に近い売上になってきている。ただし、一時的な給付金効果による部分も大きく、これを維持することは困難と予想される。
		百貨店（宣伝担当）	・国内客の売上は回復基調にあるものの、インバウンド売上は前年比でマイナス98%と壊滅的である。世界の状況を見ると、年内は観光客の入国が難しいと予測しており、厳しい状態が続く。
		スーパー（経営者）	・変化したライフスタイルが急に戻ることはなく、家庭内での調理需要は続くと予想される。ただし、最近はホームページ経由でのパートやアルバイトの応募が増えるなど、地域での雇用状況の悪化がうかがえる。ボーナスや世帯所得の減少が、加工食品を中心とした値下げ圧力につながり、スーパー業界がデフレ競争に逆戻りすることが心配される。
		スーパー（店員）	・他のスーパーも普通にチラシを入れるようになり、まとめ買いする客も減っている。特売日以外は来客数が減少している。
		スーパー（企画担当）	・新しい生活様式が根付くことで、今の状況が続くと予想される。
		スーパー（経理担当）	・日常の生活を取り戻し、外食やレジャーが以前の状態に戻れば、家庭内需要の減少で売上也元に戻る。ただし、今のところは平時の状態に戻ることは難しく、感染の第2波の懸念も残る。
		スーパー（開発担当）	・新型コロナウイルス対策で10万円が給付されたが、消費の増加にはつながっていない。自粛は解除されたが、客の動きは良くない。将来的にも景気が良くなるような対策はないため、今後は不透明である。
		コンビニ（経営者）	・在宅勤務の動きはある程度定着しそうである。また、当面の間はインバウンド需要も見込めないため、来客数は低い水準が続くと予想される。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの影響は、まだもう少し続きそうである。
		コンビニ（店員）	・新型コロナウイルスの影響もあり、今後は分からない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（経営者）	・新型コロナウイルスの状況にもよるが、収入が減っている家庭や、業績不振の企業もあり、現在以上に景気が上向くことは考えにくい。
		家電量販店（店員）	・給付金の給付による特需はあったが、6月に購入が集中した分、7月は一度落ち着くと予想される。その後は気温の上昇とともに、季節商材が再び売れるものの、短期間で終息する見込みである。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響もあり、消費者の間では様子見が続く。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・新型コロナウイルスの影響で、ボーナスの支給が一部の企業に限られるため、必要な物しか購入されない。美容部門の化粧品などは、既に買い控えの傾向がみられる。現在のような、住関連部門の売上が上位に入る状況は、異常だと感じる。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・給付金を受け取っても、宝飾品などのぜいたく品に使おうとする意識は低い。店側の必死さが伝わると、逆に購入を敬遠すると予想される。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・夏休みや秋の行楽での消費も自粛ムードが続き、ほとんど期待できない。
		一般レストラン（経営者）	・感染の水際対策が整わなければ、一般の外国人観光客を受け入れられないため、当面は国内客への対応の充実に切り替える必要がある。それが定着するまでは、時間を要することが予想される。
		一般レストラン（企画）	・人の動きが活発化し、徐々に良くなると予想されるが、以前の営業とは違って様々な制限があり、新型コロナウイルスとどう共存できるかが課題である。一方、夏を迎えるに当たり、例年よりも夏休みが短くなるため、例年のような営業は厳しいのではないかと予想している。
		観光型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの影響は深刻で、宿泊業は大きな打撃を受けている。現状も好転の兆しがみられず、いろいろと工夫してはいるが、抜本的に上向くためには、ワクチンが開発されるか、感染の収束宣言が出て、海外との往来や国内旅行が自由になる必要があり、当面は現在の状態が続く。
		観光型旅館（経営者）	・変わらないというよりも、予測が難しい。人は動き出すものの、元の状態には戻らない。秋の行楽シーズンのバスツアーも、団体客の予約が見込めない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・徐々に回復するかもしれないが、劇的な改善は困難である。宴会では秋の予約のキャンセルがあるほか、忘新年会の実施も不透明である。ソーシャルディスタンスに対応した、会場の収容人数の制限もあり、対応に苦慮している。
		都市型ホテル（客室担当）	・新型コロナウイルスの影響で客足が遠のいている。いまだに特効薬やワクチンはなく、世界各国で感染者が増え続けているが、国内需要のみでは厳しい状況である。
		都市型ホテル（管理担当）	・市内での各種イベントや祭りについて、中止や大幅な縮小が相次ぎ、例年の繁忙期での大幅な減収が予想される。
		都市型ホテル（フロント）	・引き続き、感染を警戒しながらの生活を強いられるなか、夏休みの短縮のほか、祭りや花火、高校野球などの中止が影響し、観光に伴う宿泊は伸び悩んでいる。大阪府では大阪キャンペーンを打ち出しているが、対象者は関西圏在住者であるため、予約数は厳しい状況である。
		旅行代理店（支店長）	・国内で集団的な感染が発生したり、海外で感染の拡大が確認されているなか、客の旅行マインドはまだまだ戻っていない。ゴールデンウィークの旅行を夏休みに変更した客が、年末年始に再変更する動きはみられず、一旦白紙に戻す傾向が続いている。
		タクシー運転手	・完全に人の動きが良くなるまでには、2～3か月は掛かりそうである。昼間の動きは少し良くなっているが、夜になるとクラスターを避けているのか、人の動きが止まっている。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの影響は、ボクシングのボディーパーのように、後からまた出てくるかもしれない。
		タクシー運転手	・多少は良くなると予想される。
		遊園地（経営者）	・新型コロナウイルスによる消費マインドの落ち込みは根強い印象で、経済活動の再開後も、レジャー利用は優先度が低く、来客数、売上共に厳しい状況が続いている。現在の客の動きをみる限り、急激な回復は見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー施設 [複合商業施設] (職員)	・現在の回復基調が、自粛のリバウンドなのか、新型コロナウイルスとの共存のなかで定着する動きなのかは分からない。ただし、小売の販売チャネルが変化していく可能性は高く、実在店舗に対する需要は戻らない。
		その他レジャー施設 [球場] (経理担当)	・6月からプロ野球が開幕したが、新型コロナウイルスの影響で無観客試合となり、来場者は0人となっている。3か月後の状況も不透明なため、現状と変わらないと予想している。
		美容室 (店員)	・今後は良くなると言いたいですが、感染の第2波の状況次第では悪くなる可能性もある。
		その他サービス [学習塾] (スタッフ)	・新型コロナウイルスの影響が収まりつつあるが、現在はまだ様子見の状態である。
		住宅販売会社 (経営者)	・感染の第2波のおそれがあるため、油断できない。
		住宅販売会社 (従業員)	・新型コロナウイルスの感染状況に大きく左右されるが、現状の水準であれば、販売面に大きな変化はないと予想される。
		一般小売店 [時計] (経営者)	・真夏の暑さのなかで、マスクを着けて外出するという状況は、想像するだけでも無理がある。特に、路面店である上に、客の平均年齢も高くなれば、それだけで厳しい。当面は新型コロナウイルスの影響は収まりそうにないため、先行きに明るい材料は何もない。
		一般小売店 [衣服] (経営者)	・アパレル業界では夏物衣料が極端に不足している。春物商材を含む在庫は大量であるが、必要なアイテムは極端に不足しているため、景気が上向いても、販売にはつながらない。
		一般小売店 [事務用品] (経営者)	・先がみえないという言葉のとおり、いつになれば多少でも元に戻る雰囲気になるのか、全く不透明である。まだまだ徐々に悪くなることが予想される。
		百貨店 (売場主任)	・春、夏物商材の売上減少で、取引先の資金繰りが悪化しており、秋物商材の商品の生産が減少している。それに加えて、ブランドの廃止や撤退、取引条件の変更の申入れが相次いでおり、倒産も更に増える可能性がある。消費者も収入が減る可能性が高いなか、消費が増えるとは考えにくい。
		百貨店 (マネージャー)	・新型コロナウイルスによる商品生産の縮小が、本格的に店頭に影響するのは、これから2~3か月後と予想される。また、給与への悪影響が顕在化するのも秋冬商戦からとなる。それに伴い、今後2~3か月後は落ち込みが大きくなると予想される。
		百貨店 (マネージャー)	・新型コロナウイルスの感染の第2波次第で大きく変わるが、基本的には小康状態が続き、大きくは好転しないと予想される。企業経営が厳しい局面に入る結果、その影響が消費動向にも始まる。
		百貨店 (営業推進担当)	・4~6月の企業業績や経済指標が発表されるのに伴い、生活防衛意識が強まる。消費意欲の減退が、外出の自粛傾向とあいまって更に強まると予想される。また、国内観光などの再開で支出の選択肢が増えることも、消費の分散につながる。
		スーパー (店長)	・今は来客数が減少しているにもかかわらず、単価は維持できているため、前年を上回る実績となっている。ただし、客単価が徐々に低下しつつあり、売上も減少することが懸念される。
		スーパー (店長)	・夏休みが大幅に短縮されるほか、お盆での帰省やレジャー需要の縮小が見込まれる。
		スーパー (店長)	・新型コロナウイルスによる3~5月の経済停滞の影響が、これから徐々に出てくると予想される。
		スーパー (企画担当)	・新型コロナウイルス特需が落ち着き、キャッシュレス決済のポイント還元も6月で終了する。本来、今後は年間でも12月に次ぐ売上が期待される時期となるが、今年は夏休みが10日程度しかなく、祭りの開催も自粛となるなど、マイナス材料が存在する。
		スーパー (社員)	・当社のようなスーパーでは、食品需要の高まりで好調となっているが、飲食店や製造業の不振をみると、今後は消費全体の落ち込みが予想される。
		衣料品専門店 (販売担当)	・新型コロナウイルスの影響で不安しかない。
		家電量販店 (店員)	・給付金の給付によって、9月頃までの購入予定を先食いする状況が予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・今が最悪期であるため、少しずつ回復すると予想されるが、以前の状態に戻る要因が思い浮かばない。
		乗用車販売店（経営者）	・判断材料がないため、悪化が進むと予想される。そろそろ夏休みに向けた商材を考える頃であるが、その材料はなく、不安で仕入れもできない。
		乗用車販売店（経営者）	・緊急事態宣言が解除されたとはいえ、客足は少なく、新車販売の商談客も減っている。
		通信会社（経営者）	・今後の新型コロナウイルスの影響で、受注状況が不透明である。
		テーマパーク（職員）	・新型コロナウイルスの感染前と後で、世の中の価値観を強制的に見直す必要が出てきた。ただし、これまでのライフスタイルを変えることは、簡単ではない。
		競輪場（職員）	・他の競輪場なども再開するため、客の取り合いとなり、やや悪くなる。
		美容室（店長）	・当店の客は高齢者が多く、感染を不安視する動きがまだまだ多いため、先行きには期待できない。
		住宅販売会社（経営者）	・今後は飲食業や旅客業へのダメージが予想され、その関連での売上が少なくなる。
		住宅販売会社（総務担当）	・新規客の獲得が減少しているため、今後の受注が厳しくなる。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・売上の減少や、新型コロナウイルス対策での設備投資により、夏のボーナスには期待できない雰囲気である。当面は好転する材料がない。
	×	一般小売店〔菓子〕（経営企画担当）	・3～5月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均でみると、関西は39.0%で、関東は51.2%、中部は68.3%で、中国は59.6%となり、全体では49.6%であった。ここまでの落ち込みは、過去に経験がない。
	×	一般小売店〔野菜〕（店長）	・新型コロナウイルスの影響が収束に向かっているのかどうか怪しい状況で、感染の第2波が起きた場合、3か月先が良くなることはありえない。現状は、悪くなる確率の方が高い。
	×	百貨店（企画担当）	・現時点では、自粛期間中のストレスによる買物や、不足品の購入がみられるが、今後は衣料品メーカーなどからの商品供給に、不安定な要素が多い。また、秋～冬にかけての感染の第2波、第3波への懸念もある。
	×	百貨店（売場マネージャー）	・特に秋以降は、企業の倒産や事業の縮小など、雇用が悪化する要素が多い。また、若い世代もアルバイトの雇用が減るなど、全世代で消費に悪影響を与える要素がある。小売業でも、取引先の倒産や事業の縮小の影響が大きくなりそうである。
	×	スーパー（経営者）	・業種によっては、新型コロナウイルスの影響で厳しい状況になっており、そこで働く人の消費も落ち込むことで、直接影響を受けていなかった業種にも悪影響が広がる。
	×	スーパー（店長）	・これまで何とか持ちこたえていた企業も、新型コロナウイルスとの共存を目指すなかで、倒産に追い込まれるケースが増え、失業者も増えると予想される。実際に、当社と取引している企業の中にも、倒産の動きが出てきている。
	×	スーパー（店員）	・当社は海外とも取引があるが、今は自動車の需要も少なく、先行きには期待できない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・今後は、会社の社長が私財を投入するか、金融機関からの借入れを増やすしかない。私財を投入しても、返ってこない覚悟で会社を維持していくしかない。行き着くところは倒産しかなく、周囲でも廃業が増えてくると予想される。
	×	衣料品専門店（経営者）	・いつ感染の第2波がくるかが分からず、不安を払拭できない。ソーシャルディスタンスが2メートルになれば、公共交通機関の利用が制限される。マスク着用時のソーシャルディスタンスを50センチくらいにしなければ、景気の回復は見込めない。
	×	家電量販店（企画担当）	・学校の休校に伴い、夏季休暇の日数が減ると予想される。旅行などの外出が減ることから、季節商材の購入時期が前倒しになり、お盆明け以降の消費の冷え込みが懸念される。
	×	乗用車販売店（経営者）	・政府に緊急対策を講じてもらっているが、給付金や補助金の給付が追い付いておらず、今後も更に景気は悪くなると予想される。
	×	乗用車販売店（販売担当）	・自動車の生産が新型コロナウイルスの影響で数か月止まっていたため、販売できる商品自体がなく、明らかに販売量が落ちる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	住関連専門店(店長)	・新型コロナウイルスの影響は、客や世間の動きをみても、まだまだ続くと予想される。新規の客は増えず、商談中の客も保留のままである。商品も、感染が収まらない欧州からの輸入品のため、安定して仕入れができるかどうかの懸念も残る。
	x	その他小売[インターネット通販](経営者)	・店側の売り方を改革しない限り、売上は減る一方となる。商店街の改革案としては、商店街全体でキャッシュレスを導入し、手数料を下げる。商店街全体でデリバリーサービスを行う。商店街全体でWebを活用し、各店舗ではなく、商店街全体での改革に取り組むことなどが求められる。
	x	一般レストラン(経営者)	・当店の来客は高齢者が多いが、持病がある客などは、今もテイクアウトが中心である。一方、近隣の公民館での集まりや市のイベントは、9月末まで中止であり、食事会などもなくなっている。
	x	その他飲食[ファーストフード](店員)	・新型コロナウイルスの影響で客足が全く伸びない。売上もかなり悪く、廃業寸前である。
	x	その他飲食[自動販売機(飲料)](管理担当)	・東京が落ち着かなければ、日本全体も落ち着かない。メディアがあれこれと報じるため、消費者が自粛を進めているようにも感じる。もう少しインフルエンザとの比較といった、客観的な指針を出してほしい。
	x	観光名所(企画担当)	・新型コロナウイルスの影響で3~5月は閉館し、6月から営業を再開したが、入場者数を制限している。最大でも通常の2割程度しか受け入れていないため、収支が全く改善しない。
	x	その他住宅投資の動向を把握できる者[不動産仲介](経営者)	・企業の資金繰りの悪化や、新型コロナウイルスの感染第2波による影響が懸念される。
	x	その他住宅[展示場](従業員)	・住宅展示場の来場者数を伸ばすためには、集客イベントを打つしかないが、新型コロナウイルスの影響でそれもかなわず、出口のみえない状況が続いている。
企業 動向 関連 (近畿)		電気機械器具製造業(経営者)	・当社はオゾンと紫外線を活用した機器を扱っているが、新型コロナウイルスに極めて有効とされている。現在はまだ業績に寄与していないが、3月頃からは急激に問合せが増えてきている。目下、慌ただしく製品を準備しており、10月の展示会には出展できるため、当社の景気が良くなることは間違いない。
		建設業(経営者)	・6月に入って、徐々に動き出しつつあるため、今後は受注量が回復すると予想している。
		食料品製造業(従業員)	・人の往来が増え、外食する機会も増えてくるため、少しは出荷量も増えると予想される。今まで休業していた店も、営業を再開し始めている。
		繊維工業(総務担当)	・今月は悪過ぎるが、今後は月ごとに売上が10%ずつ回復する見込みである。
		化学工業(経営者)	・取引先からの連絡や訪問が増えており、経済は再始動していると感じる。ただし、飲食店やホテルの業績回復は当面見込めないため、景気の回復はかなり緩やかになると予想される。
		化学工業(企画担当)	・本来は堅調であったはずの食品業界も、新型コロナウイルスの影響で、全体的には過去に例のない需要の減少となった。感染の第2波の懸念はあるが、移動も解禁となり、例年程度に食品の需要は戻ると考えられる。
		金属製品製造業(経営者)	・自動車メーカーの生産再開で工場の稼働率は上がるものの、自動車の販売量が減少しているため、通常稼働率に戻るまでには時間が掛かる。
		金属製品製造業(開発担当)	・繁忙期に入る。
		金属製品製造業(営業担当)	・自動車関連の仕事が、少しずつではあるが回復してくる。その一方で、建築関連は落ち込んでくる。
		一般機械器具製造業(経営者)	・現状は最悪であるが、今後は少しずつ良くなっていく。
		金融業(営業担当)	・時間は掛かるものの、今後は良くなるを感じる。
		新聞販売店[広告](店主)	・折込収入は徐々に回復しており、地域の情報を求めての購読も増えている。今までの悪過ぎたため、今よりも良くなる。新型コロナウイルスの感染の第2波がないことを祈るばかりである。
		広告代理店(営業担当)	・少しずつ広告の出稿が再開し、新型コロナウイルスの発生前ほどではないが、回復の兆しがみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・まだまだ感染防止策を講じた上での営業ではあるが、少しずつ日常を取戻しつつある。そういった状況のなか、今秋以降の感染第2波に備え、マスクや消毒液、医薬品、食品といった商材の備蓄の動きが始まると予想される。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・社会全体で回復が進むと予想されるが、以前のような消費に戻るとは考えにくい。必要なときに必要な物を購入する形に変わるほか、インターネット通販などに客を奪われることで、既存の小売チェーンが不振となることが予想される。今後は、消費の回復の恩恵を、既存の業者がフルに享受することは難しいと考えられる。
		食料品製造業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で、ホテルなどの観光施設や飲食店の売上はまだまだ厳しい状況が続く。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・先行きが全く見通せない。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・新型コロナウイルスの影響が続くと予想されるため、今後も厳しい状況は変わらない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で止まっていた仕事が、7月から再開するとの内示が出ている。その一方、いまだに立ち上がらない案件もあるため、全体としては一進一退となり、現状維持と予想している。
		輸送業（商品管理担当）	・新型コロナウイルスの影響で販売量が低迷しているが、給付金の給付などもあり、2～3か月後は少し良くなる。
		輸送業（営業担当）	・外出の自粛で通販の利用者が増え、利益率の低い通販だけが増えた結果、荷物は増えたものの、利益は減っている。
		通信業（管理担当）	・本来であれば、ボーナス商戦で活気付くところであるが、新型コロナウイルスの影響がまだまだ続くと予想される。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・感染の第2波が来ない限り、徐々に回復すると予想されるが、そもそもの感染源である中国を封じ込めなければ、また予想外の事態が起きないとも限らない。
		広告代理店（管理担当）	・新型コロナウイルスと付き合いながらの営業を考えると、できることは限られている。そのうち、できることもなくなる可能性がある。
		広告代理店（営業担当）	・しばらくの間は、広告を控える状況が続くと予想される。
		司法書士	・経済は動き始めているが、新型コロナウイルスの恐怖や、感染の第2波への不安により、回復には時間が掛かる。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・まだまだ新型コロナウイルスの影響が続いている。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・企業が全面的に動き出さなければ、当社の売上もこのまま少ないままで推移する。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・生活に密着した瓶を作っているため、今のところ影響は少ないが、ビールなどの飲料関係の動きは多少悪くなっている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・今は仕事が入っているものの、その先の予定が入っていない。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・今月はちょっとした家電バブルのような状況であるが、2～3か月先は落ち着くことが予想される。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・新規の受注がない。
		建設業（経営者）	・今後の民間工事では、新型コロナウイルスによる打撃で、企業の設備投資意欲は縮小していく。建設業では手持ち工事がなくなり、新たな受注も相当困難になると予想される。
		建設業（経営者）	・自粛ムードが払拭されない限り、景気の悪化は続く。
		建設業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響が落ち着くまで、先を見極めようとする動きがあり、一時的に着工を遅らせる取引先が増える。
		輸送業（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染者が増えつつあるため、客が減少する可能性がある。
		金融業（副支店長）	・建設業は、新型コロナウイルスの影響で工期が延期となっており、売上が減少している。米国での感染者数も増加傾向で、国内も東京を中心に増加しており、落ち着くまでには相応の時間が掛かりそうである。
		経営コンサルタント	・取引先の中小企業をみていると、行政の支援金や借入れを利用できたことは良かったが、それを使い切った後のことは考えていない。新型コロナウイルスの影響の収束状況にもよるが、誰もが景気が良くなることはないと感じている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	繊維工業（団体職員）	・百貨店や量販店など、一般的な小売業は営業を再開しているが、メーカーへの発注にはタイムラグがある。また、イベントやコンサート、祭りなどの開催はまだ自粛されており、その影響は非常に大きい。
	×	繊維工業（総務担当）	・新型コロナウイルスの影響が大きくなっている。3～4月頃は、発注済みの商品を大手のバイヤーが契約どおり引き取ってくれたが、現在は先の見通しが立たず、バイヤーが新たな注文を出せない状況が続いている。今後の更なる悪化が心配である。
	×	輸送用機械器具製造業（役員）	・当面の受注見込みが少なく、通常の操業に戻る見通しが立たない。
	×	その他製造業〔履物〕（団体職員）	・緊急事態宣言が解除され、百貨店や小売店の営業も始まっているが、閉店中の在庫を抱えているため、新規の受注にはつながっていない。本来であれば、秋冬商材の商談が始まる時期であるが、首都圏との往来がやっと始まったばかりであり、時期的には遅れている。
	×	経営コンサルタント	・取引先各社は、政府からの給付金などで持ちこたえている。今後はどのように発展の道筋をつけるかがポイントであるが、新型コロナウイルスの影響が収束するまでには1～2年を要するため、2～3か月先では好転する見通しは持てない。それに伴い、企業の内部でも多くの問題点が発生している。
	×	その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・緊急事態宣言は解除されたが、新型コロナウイルスの影響がどこまで広がるかは予想できない。ただし、2～3か月で良くなることはないと考えられる。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染収束後の状況が予想できない。
雇用 関連 (近畿)		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響は懸念されるが、感染の第1波はある程度過ぎたとみており、今後は求人数を含めて上向く傾向となる。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・新聞の求人数は縮小均衡が続いており、今後も上向くとは考えていない。ただし、感染の拡大も落ち着き、政府の支援金が行き渡り始めたほか、県をまたぐ移動の制限も解除されたため、飲食や観光など、これまで身動きの取れなかった業種にも光が差し始めている。インバウンドは全く期待できないが、夏の観光シーズンを迎え、国内での人の移動が回復することで、関連業界ではやや景気が上向くと予想される。
		民間職業紹介機関（職員）	・企業からは、今の状態が続けば、今後は少しずつ求人が増加していくとの声が増えている。
		民間職業紹介機関（支社長）	・中途採用を行う企業数の減少に歯止めが掛かってきたため、1社当たりの募集人数や選考の通過率も徐々に改善すると予想される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・夏のボーナスは減るかもしれないが、外出の自粛から開放されて、消費の増加が期待される。周囲の同僚をみても、娘さんや奥さんにプレゼントしたという声が多い。高額商品の購入も少し増える可能性がある。
		人材派遣会社（経営者）	・世の中がかなり委縮しており、派遣業界もかなりダメージを受けている。ただし、派遣先の企業は、今回の件で派遣社員の利用方法を再認識したと考えられる。上半期は景気が芳しくないとしても、少なくとも派遣に関する限り、夏頃には底を打ちそうである。さらに、下半期には徐々に全ての面で回復すると予想される。
		人材派遣会社（役員）	・当社にまつわる動きや、マーケットの動きから、求人数、求職者数共に、こう着状態が続くと予想される。
		人材派遣会社（支社長）	・新規の大型案件が期待できないため、受注残や交代枠を狙うしかない。
		職業安定所（職員）	・大手鉄鋼会社が休業を実施しており、その子会社や関連会社、派遣会社、下請業者などがそろって求人を控えているため、景気の回復はまだまだ先となる。
		職業安定所（職員）	・引き続き、雇用調整助成金の申請件数が増えている。今後は事業所での休業状態が解消されるのか、非常に懸念される。
		職業安定所（職員）	・6月に入って、求人数の減少幅はやや縮小したが、新型コロナウイルスの感染第2波が懸念されている。再び企業の採用活動に影響を与える可能性があるため、現時点で2～3か月先の状況は不透明であり、景気が好転するとは言い切れない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		アウトソーシング企業（管理担当）	・通常の仕事もなく、厳しい状況が続いている。
		職業安定所（職員）	・事業所からは、先行きが読めず、これ以上悪くはならないものの、V字回復は難しいといった意見が多い。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で求人数が変動する可能性もあり、このまま回復するとは思えない。決算発表後に雇用を見直す動きもあるため、景気はやや悪くなる。ただし、派遣社員による在宅ワークの提案も増えるなど、働き方が変わってくると予想される。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・多くの業界で業績の悪化がみられ、新卒採用市場も売手市場から買手市場に変わりつつある。特に、量よりも質を求める企業が増えており、この流れは2022年卒の採用にも影響すると感じる。
	×	人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で、次の派遣契約を結ばないなど、全社で派遣の活用を見直す動きが相次いでいる。今後は更に失業者が増えると予想される。
	×	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルスの影響が不透明なため、広告宣伝に対する動きが全くない。
	×	学校〔大学〕（就職担当）	・2022年卒の学生にとっては、厳しい就職活動になる。今年度の採用計画は、既に各企業で固まっているが、来年度は採用を中止する企業が出てきても不思議ではない。

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (中国)		一般レストラン（経営者）	・今が最低最悪の状態なので、今よりは良くなる。
		観光型ホテル（副支配人）	・客の外出機会が増え、今までの自粛の反動も出てくるため消費が盛んになる。
		住宅販売会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響が落ち着いてくるため、景気は良くなる。
		商店街（理事）	・新型コロナウイルスの終息はまだまだ先になるが、景気は徐々に良くなる。
		商店街（代表者）	・商店街に隣接する駅前のホテルでも県外からの客が増加してきたので今よりは良くなる。ただ、新型コロナウイルスが再流行したときにどうなるか今から心配である。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・海外出張などは年内は無理と考えているが、国内経済はこれから少しずつ良くなる。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・依然として前年に比べると3割程度売上が減少しているが、3月頃と比べれば状況は改善しており、今後景気は良くなる。
		百貨店（売場担当）	・化粧品などまだまだ接客上の制約がある商品群もあるものの、徐々に緩和しつつあり、以前の状態に戻るには時間がかかるが、少しずつ改善していく。
		百貨店（営業企画担当）	・移動自粛要請の解除、催事やイベントの再開で来客数が増加し、景気は良くなっている。
		スーパー（店長）	・週末の夕方以降を中心に来客数が若干増加しており、今後景気はやや良くなる。
		スーパー（販売担当）	・新型コロナウイルスによる自粛ムードが弱まるにつれて客に解放感が出ていると同時に、客の生活様式、意識、金の使い方等全てが変わりつつある。当面は、好調な状態を維持する。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの影響が落ち着いてくるため良くなる。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・生活が平常に戻れば、客足も戻ってくる。ただ、観光客が増加し、イベントが活発化しないと完全ではなく、新型コロナウイルスの第2波も懸念されるため不安材料はある。
		コンビニ（支店長）	・スーパーや外食の代替の要素がより強く出るようになる。
		乗用車販売店（営業担当）	・来客数が徐々に増加してきており、2～3か月後は今よりも景気が良くなる。
	乗用車販売店（店長）	・客の動きが出始め、底からは脱出しており、現在よりは良くなる。	
	乗用車販売店（店長）	・主力販売している車がフルモデルチェンジを迎え、新型コロナウイルスの終息とともに販売に勢いが生まれる。	
	乗用車販売店（営業担当）	・オンラインの商談システムや告知を自粛していたが、少しずつ増やしていくため一定の効果はある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（統括）	・新型車の投入で多少良くなる。
		乗用車販売店（業務担当）	・新型コロナウイルスの影響で客足が戻っていないが、今後多少は回復する。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・少しずつではあるが、経済が元に戻っていく。客も店側もマスク着用などが通常になり、お互いに感染に気を付けながら、接客をするようになっている。ゆっくりではあるが、日常が戻ってくる。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・新型コロナウイルスの第2波がこなければ景気は良くなる。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・観光キャンペーンなどの施策で観光地への来訪が増加するため良くなる。
		一般レストラン（店長）	・5月が底で現在は回復傾向にあり、今後も緩やかに回復していく。
		スナック（経営者）	・今のままでは店が成り立っていない状況だが、今後景気は良くなる。
		都市型ホテル（企画担当）	・Go To Travelキャンペーンや自治体の宿泊、飲食に伴う助成金の企画に向けて、受注体制を整えている。国内需要が大きく動く想定されるので、景気の底上げになる。夏休みも短縮になるが、ファミリー客の需要も増加する見込みである。
		都市型ホテル（総支配人）	・Go To Travelキャンペーンによる集客は期待できるが、世間の旅行に対するマインドの低さもあり、大幅な回復は期待できない。
		都市型ホテル（企画担当）	・Go To Travelキャンペーンなど国や自治体による支援策が回復のきっかけになる。
		旅行代理店（支店長）	・新型コロナウイルスの第2波が発生せず、国や自治体の実施する各種観光キャンペーンが展開されることで需要喚起につながれば状況は変わってくる。
		通信会社（工事担当）	・自粛解除になったことでそろそろ経済活動が活発になる。
		テーマパーク（管理担当）	・新型コロナウイルスの終息で景気は良くなる。
		テーマパーク（業務担当）	・今後の新型コロナウイルス感染拡大のおそれや短くなった夏休みなど懸念材料も多々あるが、現在の状況が続けば、お盆期間の休暇などもあるため、少しずつではあるが、来客数が増加する。
		観光名所（館長）	・国や自治体の観光需要喚起の施策で景気は多少回復する。
		観光名所（館長）	・移動制限の解除により徐々に県外からの来客数も増加してきている。今後もGo To Travelキャンペーンなどの施策により徐々に回復していく。
		ゴルフ場（営業担当）	・お盆から秋に向けて多少人の動きが出てくる。県外からの移動自粛も緩和されるため、少しは良くなる。
		設計事務所（経営者）	・新年度になり官庁工事がやっと動き出し、悪化していた民間も特別定額給付金でやや持ち直した感じがある。今後は回復に向かって動く。
		商店街（代表者）	・今後も少しずつ新型コロナウイルス発生前の状況に戻っていく。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの第2波、第3波が訪れないか心配である。
		百貨店（経理担当）	・新型コロナウイルスの第2波のおそれもあり、急激に状況が回復することはない。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で先行きが不透明である。新しい生活様式が世間で求められていくなか、消費はすぐに回復しない。客自身の価値観なども変化していく。また、取引先の倒産や地方百貨店からの撤退など環境も変化していく。
		百貨店（外商担当）	・新型コロナウイルスの第2波の懸念があるため、まだまだ厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・徐々に観光施設の営業が再開しているので週末の来客数が増加する。しかし、キャッシュレス・消費者還元事業が6月末で終了するため、来客数が増加しても既存客の客単価の上昇が見込めない。
		スーパー（総務担当）	・生鮮品の高値がこのまま続くと厳しい。
		スーパー（営業システム担当）	・新型コロナウイルスの影響が強くお盆の帰省に期待ができない。家の中で過ごす家庭が多ければ現状と変わらない売上になる。
		スーパー（管理担当）	・景気は新型コロナウイルスの状況に左右されるところが大きいので2～3か月先の判断は難しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（販売担当）	・新型コロナウイルスの影響がやや収まり、乗客数が戻ってきているが、今後また感染者が増加する可能性もあるので、景気の先行きは不透明である。
		コンビニ（エリア担当）	・他の業種の景気が前年や新型コロナウイルス発生前の状況まで回復しないと、コンビニ業界の景気は前年より良くなる見込みがない。
		衣料品専門店（経営者）	・今後も新型コロナウイルスの影響が続く。
		衣料品専門店（代表）	・特別定額給付金に続く個人消費を喚起する政策がないため変わらない。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの影響で景気の先行きが不透明である。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型コロナウイルスの状態が今のままならば、ゆっくりと回復していくが、先が読めない。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で販売の低迷が続いており、厳しい状況は変わらない。実際に収入が激減した客もおり、購入の見送りや出費を抑える話を聞くため、今後も厳しい状況が続く。
		自動車備品販売店（経営者）	・製造業を中心に所得が減少しているため、個人消費は今後も落ち込んだままである。
		自動車備品販売店（経営者）	・しばらくの間、自粛の影響は残るし、新型コロナウイルスが終息しないと景気は元には戻らない。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・緊急事態宣言が解除されたが、地方は高齢者が多いため、まだまだ新型コロナウイルスに対する警戒感が強い。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・新型コロナウイルスが終息し、帰省者、旅行者、観光客等が戻ってくれば、今以上に景気は回復する。ただ、前年は8～9月に消費税引上げ前の駆け込み需要があったため、その反動で前年と比べると、物販全体では、高額品を中心に厳しくなる。仮に新型コロナウイルスの第2波、第3波が発生することになれば、特に飲食は回復が更に鈍化し、不振が長期化する。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・今回の新型コロナウイルスの影響は長期的に考えなければならず、すぐに景気が回復するという事にはならない。
		高級レストラン（事業戦略担当）	・新型コロナウイルスの先行きが不透明である。
		一般レストラン（経営者）	・レジャーや帰省時期に入り、例年だと来客数や客単価が増加するが、今年は新型コロナウイルスの影響で、学校では夏休みの短縮や2学期の早期開始、地域行事では夏祭りや花火大会などイベントの休止もあり、予約が入っていない。新型コロナウイルスの感染者が増加し、レジャーや帰省の自粛要請があれば、苦しくなる。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの治療薬やワクチン等が開発されるまでは現在の状況が続く。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（店長）	・新型コロナウイルスの影響で現在の状況が続く。
		観光型ホテル（営業担当）	・先行予約が少なく不安である。Go To Travelキャンペーンに期待するしかない。
		旅行代理店（経営者）	・政府が支援策を出しても、客は、当面、旅行に目を向けない。
		タクシー運転手	・しばらくの間、乗車率の低い状況が続く。
		タクシー運転手	・観光が多少なりとも良くなる。
		タクシー運転手	・今後は徐々に県外からの来訪が増え、暑くなるにつれて夜の動きも増えてくると思うが、全体的には余り変わらない。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスによる自粛要請がなくなり、客の動きが多少出てきたが、以前のような状況に戻るにはまだ時間が掛かる。
		通信会社（企画担当）	・新型コロナウイルスの第2波の懸念、海外での感染拡大のニュースから、新サービスやサービス見直し更新の動きはかたまり鈍く、商品サービスへの関心自体が二の次になっている。新型コロナウイルスの感染抑止が見え、国や公共部門が夏季休暇等での消費拡大への大きなかじ取りをしないうり、消費マインドが上向き要素はない。
		通信会社（営業担当）	・景気浮揚の気配がないなかで、新型コロナウイルスの第2波に対する不安が潜在的に存在することから、現状の悪化した景況感が継続する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（経理担当）	・今後もこの状態がしばらく続く。
		その他レジャー施設 [温泉センター]（担当者）	・新型コロナウイルスの影響がいつまで続くか分からないが、今後終息に向かえば少しずつ客が戻ってくる。
		美容室（経営者）	・過去に経験したことがないほどの大不況で先行きが全く不透明である。
		設計事務所（経営者）	・先行きが不透明なため、建築に関する新たな引き合いはしばらく望めそうにない。
		設計事務所（経営者）	・来客数の回復は見込めるが、客に慎重な行動が見受けられ、受注に反映しにくくなっているため、厳しい状況が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの第2波への懸念から景気は回復せず、低調なまま推移していく。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスに対する空気感のようなものがまだ経済を活性化しようとする動きにはなっていない。その動きは都会よりも地方の方が強い。
		一般小売店[食品]（経営者）	・今年は新型コロナウイルスの影響で夏休みの期間が短縮されるため、需要が停滞する可能性がある。
		一般小売店[印章]（経営者）	・新型コロナウイルスの影響が緩和しても、影響がなくなる訳ではないので悪くなる。
		一般小売店[洋裁附属品]（経営者）	・新型コロナウイルスの影響が残るため、景気はやや悪くなる。
		百貨店（販売計画担当）	・客の雇用不安等による貯蓄志向の高まりや密を避けた営業運営による来客数の減少で景気は悪くなる。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの終息の見通しが立っていないため、悪くなる。
		スーパー（店長）	・今後、新型コロナウイルスが終息すると特需がなくなり景気が悪くなる。
		スーパー（店長）	・客の購入数量の減少傾向が続くため、今後も景気は下降線をたどる。
		スーパー（販売担当）	・新型コロナウイルスによる特需が徐々に減少してきており、3か月後は今よりも景気が悪くなる。
		スーパー（業務開発担当）	・売上は現状前年を上回っているが、客の来店頻度が減少している。生鮮を始めとする相場が下がったら売上は前年割れとなる。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの影響でいろいろな催事が中止や延期となり、人の動きがないため、経済が苦しい状況になる。
		家電量販店（企画担当）	・特別定額給付金が支給されているため、6月の実績は良くなっているが、2～3か月後は給付金の効果がなくなり、今より景気は悪くなる。
		家電量販店（販売担当）	・特別定額給付金の給付が終了することや新型コロナウイルスに対する不安が続くことなどから景気は悪くなる。
		住関連専門店（営業担当）	・特別定額給付金の給付の効果は一時的で、来客数が増加していないため、景気は悪くなる。
		タクシー運転手	・今までも大変厳しい状況だが、今後も良くはならない。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・新型コロナウイルスの影響で延滞金額が増加すれば、消費が減退し、景気も悪化する。
		競艇場（企画営業担当）	・3か月後にはG1競走である程度の売上が見込めるが、SG競走ほどの売上は上がらない。
		美容室（経営者）	・一時的に新型コロナウイルスで自粛していた人たちが動き出しただけで、これからは第2波を警戒して景気動向は悪くなっていく。
		住宅販売会社（営業所長）	・新型コロナウイルスの影響で客が収入の先行きに不安を持っているため、景気は悪くなる。
	×	百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で、プロパー商材、端境期商材、初秋物、秋冬物などの商材の確保ができないため、売上が見込めない。
	×	百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスが今後販売する商品の調達に悪影響を与えている。また、行事、外出、旅行が例年よりも少なくなることも景気のマイナス要因となる。
	×	百貨店（外商担当）	・お中元が低調、衣料品も苦戦、特別定額給付金も行きわたったようだが消費にはなかなか結び付いておらず、今後も不透明な部分が多いため、景気は悪くなる。
	×	スーパー（財務担当）	・新型コロナウイルスの影響が当分の間続き、所得減少による節約で売上が大幅に減少する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	家電量販店（店長）	・今月は複数の追い風が重なり好調となっているだけで、需要の先食い感は否めない。暑さの影響でお盆までは売上は好調に推移するが、それ以降は反動が出てくる。
	×	通信会社（広報担当）	・このまま買い控えが続く。
	×	美容室（経営者）	・当面は新型コロナウイルスが終息しないので、景気の悪い状況が続く。
企業 動向 関連 (中国)		輸送用機械器具製造業（経営者）	・現在が底で今後は良くなる。
		鉄鋼業（総務担当）	・新型コロナウイルスの終息及び対策強化により、景気は回復する。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・主要客からの受注内示は通常よりは少ないものの、回復基調となっており、今後も景気は良くなる。
		輸送業（支店長）	・オンラインショップ開設の動きと併せて、今後は電子商取引による購買が増加する。また、日用品や衛生品等の需要も増加する。
		輸送業（総務担当）	・5～6月辺りが底で、今後は良くなる。
		通信業（営業企画担当）	・7月からは取引先への訪問が可能となるため、取引が活発になる。
		金融業（融資企画担当）	・新型コロナウイルスの影響は当分続くと思われるが、経済活動再開の進展から、地元完成車メーカーの世界販売が徐々に回復している。地元部品メーカーの受注が8月には前年の8割程度まで回復するため、景気は良くなる。
		広告代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスが落ち着き、今後景気は上向きに推移する。
		農林水産業（従業員）	・今が景気の底にある状態で、回復したところで、せいぜい元の状態に戻るだけである。
		食料品製造業（経営者）	・当面は景気が大幅に改善することはない。
		食料品製造業（総務担当）	・3か月前と比べて景気が悪くなり、その状況が続いているが、先行きは不透明である。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・新規の大型注文の引き合いもなく、現在の生産量が継続する。
		鉄鋼業（総務担当）	・これ以上悪くはならないが、良くなると思えない。
		金属製品製造業（総務担当）	・7月末までの予定だった客の帰休が9月末までに延長されたため、今後も現状の低水準の受注量が継続する。
		通信業（営業担当）	・3～5月までのように新規案件や更改案件などが見送られることが少なくなってきている。企業において、リモートワークなどの見直しや、就業形態変化、業容の拡大などの検討がされているため、今後設備投資が増加する。
		不動産業（総務担当）	・例年、賃貸住宅の需要が落ち着く時期であるため、今月とさほど変わらない。
		会計事務所（経営者）	・自粛期間が終了して回復の兆しもあるが、新型コロナウイルスの第2波の懸念があることや、構造変化が進んだこともあって、新型コロナウイルス発生前の水準まで回復するには時間が掛かる。
		木材木製品製造業（経理担当）	・3～5月頃まで外出自粛要請で動きがなかったが、解除後は止まっていた受注が動き出している。ただ、夏から秋に向けて新規の受注があるか不透明である。
		化学工業（総務担当）	・新型コロナウイルスの影響が継続しており、景気は悪くなる。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・自動車関連の製品の出荷が減少してくる。
	建設業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で製造業を中心に設備投資が先送り傾向にあり、今後の受注が予想できない。	
	金融業（貸付担当）	・経済活動や消費行動が少しずつ元に戻りつつあるとはいえ、取引先の資金繰り改善までには相当の時間を要する。新型コロナウイルスの第2波も予想されることから、予断を許さない状況が続く。	
	×	繊維工業（監査担当）	・売上の大幅な減少で小売店の資金力が弱まっている。今後、資金の行き詰まりによる廃業や倒産が懸念される。
	×	化学工業（経営者）	・特に自動車関連部品を製造している取引先は既に生産調整に入っており、それに伴い足元の受注量が大幅に減少している。先行きの見通しも付かず不透明な状況であるため、今後も景気は悪くなる。
	×	一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量が減少し、景気は悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	電気機械器具製造業（総務担当）	・機械装置の製造、販売についてはいまだに再開されていないものもあり、当面の間は、新規案件の受注も難しいことから悪くなる。
	×	輸送用機械器具製造業（財務担当）	・商談再開やマーケットの回復に1年程度の時間が掛かるため、景気は悪くなる。
	×	建設業（総務担当）	・新型コロナウイルスの影響による営業活動の制約が秋以降の受注に悪影響を及ぼす。
	×	輸送業（総務・人事担当）	・中国向けの荷動きが低調であり、中国経済の動向次第では更なる悪化もあり得る。
雇用 関連 (中国)		人材派遣会社（経営戦略担当）	・6月に入り、求人数は回復傾向にあり、今後も景気は良くなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルスが終息傾向にあることで、企業活動が回復しつつあり、消費者の購買活動の悪化も底を打った感があるため、今後景気は良くなる。
		民間職業紹介機関（職員）	・景気が浮揚するというよりは、新型コロナウイルスの影響で停滞気味だった経済が最悪期を脱するという程度で、今後も厳しい状況が続く。
		人材派遣会社（社員）	・海外では依然として新型コロナウイルスの感染拡大が広がっており、世界経済の停滞状況は変わらない。ただ、国内では景気に持ち直しの兆しがあり、採用も徐々に増加している。このまま新型コロナウイルスの第2波、第3波が来なければ例年の状態に戻る。
		人材派遣会社（支店長）	・今のままであれば景気に変化はないが、新型コロナウイルスの第2波が来ると今よりも一気に悪くなる。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの第2波が来るのか、来るのであればいつからどの程度の影響を及ぼすのかが不明であるため、先行きは不透明である。
		民間職業紹介機関（求人・人材採用担当）	・海外では依然として新型コロナウイルスの影響が大きく、外国向け製品を扱う地元製造業の中には人材採用を控える企業が多数ある。それに伴い、そうした企業の取引先や物流企業などの求人も見通しが立たない状況が続く。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	・景気の悪い状況がしばらく続く。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・先行きの見通しが立たない企業が多く、2021年度の採用についても、採用予算、採用人数共に良くて今年並み、8割の企業が減らす予定である。サービス業や建設業などは業績が大幅に悪化しているが、人材不足のため採用は継続する。鉄道会社、航空会社、旅行会社などは学生の人気が高いが、新型コロナウイルスのため業績が大幅に悪化しているため、採用を控える傾向にあり、そこを目指して就活をしてきた学生にとっては厳しい現実となる。
		職業安定所（事業所担当）	・新型コロナウイルスの影響がいろいろな業種に現れ、雇用調整助成金等の申請相談も5月から増加傾向にあり、雇用環境の悪化が継続する。また、雇用保険関係を前年同期と比較すると、3～5月にかけて適用事業所数や被保険者数は微増で推移、資格喪失者数は大幅に増加している。
		職業安定所（雇用関連担当）	・景気回復の明るい材料がないため、今後景気は悪くなる。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・積極的に新卒採用を行う企業が減少傾向にあるため、今後景気は悪くなる。
	×	人材派遣会社（支社長）	・新型コロナウイルスによる休業や契約終了は一段落したが、次の契約更新が集中する9月末に我慢していた派遣先での終了が一定数出る可能性がある。産業全体の景気が上向いていくのはまだまだ先である。
	×	職業安定所（所長）	・新型コロナウイルスの影響で特に宿泊業・飲食サービス業では雇用環境が急激に悪化しており、求人募集の取りやめや採用計画の見直しをする事業所が出てくる。
	×	その他雇用の動向を把握できる者	・新型コロナウイルスに係る自粛要請は解除されたものの、第2波への警戒感から3密を避けた経済活動を強いられることになり、景気回復は当面困難である。

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
動向 関連 (四国)		商店街（代表者）	・かなり人の移動も出てきているし、消費者も今まで百歳していた分を消費する傾向にある。第2波が発生しないことが前提になるが、今までどおりは無理だが小出しでイベントをやっつけていこうというムードもあるので、これから徐々に良くなっていく。
		衣料品専門店（経営者）	・都会は相変わらず厳しいようだし、全体的な雰囲気としたら厳しい感じはするが、当店のカジュアル商品に関しては、数字をみる限りまあまあ良い状態で、バーゲンセールの中という感じである。前年と比べても相当良く、このまま続いていくことを期待している。
		家電量販店（副店長）	・自粛要請が解除され、客の来店は徐々に通常時の状態に戻ってきている。今後3か月間が気象予報どおりに気温が高めで推移すれば、夏物商材を中心に販売が伸び、前年より期待が持てる。
		乗用車販売業（営業担当）	・このまま新型コロナウイルスの感染者が抑えられたら、来客数や販売数の増加が見込まれる。
		乗用車販売店（役員）	・車の安全装備は進化し続けており、安全な車に対する需要は継続している。また、新型コロナウイルスの件でプライベートな空間を維持できる車に対する評価も少し変わるかもしれない。
		住関連専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、客が外出することに慎重になっているため、現在は非常に景気が悪い。しかし、今後は改善されて、今よりは良くなると予測する。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・これから夏になり、お中元時期を迎えるし、飲物も売れると予想するが、外出自粛の影響で家飲みが多くなっているため、売上がどこまで回復するかは不透明である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・現在より良くなることを期待しているが、新型コロナウイルスの収束状況によっては逆戻りする可能性も否定できない。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの状況次第ではあるが、日常を回復しつつあるので、景気は緩やかに回復する。
		旅行代理店（営業担当）	・観光需要の掘り起こしを目的とする国のGo To Travelキャンペーンが開始されれば少しは回復する。
		通信会社社員	・緊急事態宣言が解除され、ストップしていた訪問販売を徐々に再開していく。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響も回復傾向にあり、夏季商戦に向けて客の動向にも動きがみられる。
		通信会社（支店長）	・当地では新型コロナウイルス感染者の状況が落ち着いており、客足がやや戻りつつある。
		美容室（経営者）	・自粛が全面解除されてから少しずつ客が戻ってきている。
		設計事務所（所長）	・商店街でも若干通行量が増えてきたし、知り合いの飲食店からも徐々に客が増えていると聞いている。ただ、一気に元のように戻らないと予測しているところが多い。建設関係では、秋口からの設備投資がどうなるかが非常に不透明な状況である。
		商店街（代表者）	・まだ新型コロナウイルスの影響が出ており、ワクチンや特效薬も開発されていないため、停滞した状態で原状回復が模索されていく。
		商店街（事務局長）	・政府は経済活動を再開させたが、国内でも都会を中心に新型コロナウイルスが衰えを見せず、また、海外では依然として猛威を振っている。新しい生活様式が求められるなか、消費者はまだ慎重な行動をとらざるを得ないため、今しばらくは以前のような消費や経済環境に戻ることはない。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、来街客が相変わらず少ない。底を打ち、徐々に回復傾向に向かうと予想するが、以前の状態に戻るには、まだ時間が掛かる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・少しずつ客が戻りつつあるが、まだ消費行動に慎重な感じも見受けられる。お祝いやお供えなど必要なものの予約が中心になっている。
		百貨店（企画担当）	・景気回復にはまだ時間が掛かり、2～3か月後では十分な回復には至らない。
	百貨店（営業管理担当）	・短期的な回復はみられるものの、新型コロナウイルスの第2波の懸念などもあり、今後の先行きは不透明である。	
	スーパー（店長）	・ワクチン開発など新型コロナウイルスの根本的な解決に至るまでは今の状態が継続する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（企画担当）	・まだ外食の機会は戻り切らず、夏休みの短縮や旅行の縮小傾向もあることから、スーパーでの消費は、引き続き高めに推移すると予測する。
		コンビニ（店長）	・このまま新型コロナウイルスが収束し、イベントが再開されれば、何とか現状維持程度は見込めるが、第2波や第3波の懸念もあるため、先行きは非常に不安である。
		コンビニ（店長）	・今よりは良くなると思っているが、少しでも感染が悪い方向に動けば急ブレーキとなるので、今もこの先もギリギリの状態が続いていく。
		コンビニ（総務）	・新型コロナウイルスの影響は今後も継続し、景気の良しあしもさることながら、経済活動が元に戻るのがいつになるのか予想できない。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの影響はあるが、多少は良くなると予想する。
		乗用車販売店（従業員）	・中古車の輸出状況の変化を予測するのは難しいため、中古車相場や下取り価格の設定等は、厳しい状況がしばらく続く。
		乗用車販売店（従業員）	・量販店には客が集まりだしたが、自動車の購入はまだ先になる。
		乗用車販売店（従業員）	・少しずつ回復傾向がみられるが、通常に戻るにはまだ時間が掛かる。
		一般レストラン（経営者）	・ワクチンが開発されるまで元どおりになることは考えにくい。
		スナック（経営者）	・自粛解除にはなったが、当地独特の宴会がもっと開催されないと客は戻ってこない。家飲み文化が確立されつつあるので、私たちの業界は平行線をたどると予測する。
		観光型旅館（経営者）	・今は最低の状況であり、上向きを望むところであるが、総需要が圧倒的に減っているため容易に改善しない。
		都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスが終息しない限り、人の動きは戻らないだろう。自粛が解除されたことにより、また感染が拡大していく可能性があるため、非常に怖い状態である。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの影響で飲み会や会社の会議が減っており、まだ人の動きは悪い。客と話をする、新型コロナウイルスのワクチンができないと安心できないという声が多い。このため、2～3か月先も現状と変わらないと判断する。
		通信会社（営業部長）	・緊急事態宣言が解除されて以降、新型コロナウイルスの影響は大分緩和されてきたが、6月後半になっても経済活動は戻り切っていない。感染者が発生し続けると以前のように戻らないし、来店しても長時間の説明を避ける必要があるため、商品の提案が十分にできない。
		競輪競馬（マネージャー）	・経済活動が少し動き始めたものの、まだ手探り状態である。新型コロナウイルスと共存してしていかなければならず、当面は、少し良くなりつつある状況が続くと考える。
		美容室（経営者）	・今は客が動き始めているが、新型コロナウイルスの感染がどうなるかで変わってくるので何ともいえない。
		スーパー（財務担当）	・新型コロナウイルスの影響で内食の傾向であったが、一部は外食に戻る。ただ、失業や賃金の下落による節約志向が強まる。
		家電量販店（店員）	・夏のボーナス商戦も期待できず苦戦を強いられる。
	×	商店街（代表者）	・街づくり、都市づくりの根本原理を大胆に再検討すべき時代がきている。この機会を、大都市に機能が集約された極めてリスクの高い社会構造を地方に分散する最大のチャンスと捉え、今後の日本にとって将来に希望が持てる街づくりの在り方を見付けるべきである。
	×	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・新型コロナウイルスの第2波や第3波のおそれがあるため、経済活動は戻らず、先がみえない不安で一杯だ。
	×	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響がこれから続々と出てくる。さらに7月以降は、キャッシュレス・消費者還元事業の終了、レジ袋の有料化など、客に負担を掛けることも増えてくるので、景気は良くならない。
	×	コンビニ（商品担当）	・盛夏期のイベントなども中止になってきているので、客数が伸びる要素がない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・インバウンドも止まっており、国内需要もすぐに元には戻らないので、当面悪いと判断する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	衣料品専門店（営業責任者）	・ 来月以降どうなるかまだ分からないが、メーカー側の生産縮小により、秋に掛けて商品量が少なくなることで売上への悪影響は避けられないと考えている。
企業 動向 関連 (四国)		電気機械器具製造業（経理）	・ 新型コロナウイルスの第2波がどのような影響を及ぼすか読めないところではあるが、経済活動が開始されているので現状よりは改善すると考える。
		食料品製造業（経営者）	・ 休業要請が解除され、外食、レジャー施設等の売上が少しずつ回復していくと推測する。
		食料品製造業（商品統括）	・ 食品業界における業務向けの売り方変革により、売上は改善に向かう。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・ 新型コロナウイルスの影響で除菌ウェットクリーナーの需要は高いが、アルコールの仕入れ制限があるため増産ができていない。制限が緩和されれば売上は増加する。
		化学工業（所長）	・ 県外移動の自粛解除や経済活動の再開などで心理的には上向きになってる。人の移動が活発化しており消費も増えることから少し良くなると予測する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・ 官民挙げて仕事を作っている感じがおり、見積りが通りやすい印象を受けている。
		通信業（総務担当）	・ 新型コロナウイルスの感染防止対策の緩和により、少しずつ営業活動が再開されてきた。
		金融業（副支店長）	・ 新型コロナウイルスの動向次第ではあるが、感染拡大を一度経験したことで一定の対処方法も確立しており、第2波が発生しても経済への打撃は軽微と予測する。
		広告代理店（経営者）	・ 移動制限が全国的に解除されたことに伴い、客も営業を再開し、販促広告も少しだけ戻りつつある。また、国の消費喚起策であるGo To Travelキャンペーンの計画もあり、第2波がない限りは8割程度は回復すると予想する。
		農林水産業（職員）	・ 新型コロナウイルスの影響はピークを過ぎたが、国民の生活スタイルが変化し、日帰り中心の旅行や夜の飲食自粛等の状況が当面続く。農家でも次回作を花から野菜に変更したり、業務用品目から一般野菜に変更する動きがみられる。しかし、農業者の高齢化が進み、栽培品目の変更ができる農家は限られるため、品目ごとの販売環境は変化が少ないと予想する。
		繊維工業（経営者）	・ 特殊要因を除けば、小売店頭の受注状況は相変わらず厳しい。しかし、地方では3密が心配される大型ショッピングモールを避け、当社の取引先が多い路面小売店を訪問する傾向にあり、順調に推移している小売店が多い。当社だけでなく、取引先小売店もネット販売に力を入れているところが多くなっており、当社の受注は順調である。
		建設業（経営者）	・ 新型コロナウイルスの第2波や第3波が懸念されることや、今年3月以降の自粛による生産性への影響が懸念されることから、数か月先の景気は見通しが難しい。公共事業の発注が順調に進んでいるので、大きく悪化することはないものの、競合相手の様子や地域の業況から、良くなるとは考えられない。
		建設業（経営者）	・ 売上回復の頼みは公共事業である。
		輸送業（営業）	・ 新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せず、断続的な経済活動の制約や抑制が長期化すれば、人とモノの動きが停滞し景気の低迷につながる。また、個人消費の持ち直しによる景気の回復は期待できないので、必然的に取扱物量も減少する。原油安による事業用トラックの燃料費負担の軽減は好材料であるが、取扱物量が増加しなければ仕事量が減り、従業員の就労状況の悪化につながることを考えると非常に深刻である。
	輸送業（経理）	・ 依然として新型コロナウイルスの影響による国内物流の鈍化が懸念される。また、需要減少や販売不振による供給側の生産調整などの影響も懸念される。しかし、人の流れが以前のようになるにつれて、景気の回復が徐々にみられると考える。	
	税理士事務所	・ 新型コロナウイルスの収束の見通しが全く立っていない。	
	*	*	*
	×	木材木製品製造業（営業部長）	・ 大手ハウスメーカーの住宅契約数が良くなっておらず、受注量の回復は見込めない。新型コロナウイルスの影響がいつまで続くのかも不透明である。
	×	鉄鋼業（総務部長）	・ 新型コロナウイルスの影響がいつまで続くのか全く予想できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般機械器具製造業（経理担当）	・新型コロナウイルスの収束時期やその後の経済への影響は計りかねる。
	×	輸送業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響により先がみえない。
雇用 関連 (四国)		人材派遣会社（営業）	・感染予防対策の実施を前提に開放感が出てきているが、まだイベント等の実施や集客には積極的になれない状況が見込まれる。そのため、公共交通の利用もまだ本来の状態には至らない状況である。
		人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響次第ではあるが、徐々に依頼件数が戻りつつある。
		職業安定所（求人開発）	・新型コロナウイルスの影響で、休業している事業所からの雇用調整助成金の相談が多数あり、人員整理を実施する事業所も出てきている。しかし、緊急事態宣言が解除となり、県外への移動等も可能となり、今後の状況は緩やかに改善していくと考えられるので、2～3か月先は現状よりはやや良くなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・新型コロナウイルスの影響が長期化する。
		人材派遣会社（営業担当）	・徐々に経済活動が活発になり、一部の分野では回復しつつあるが、まだ楽観視できない。
		求人情報誌（営業）	・大きな打撃を受けた飲食、サービス、観光とその周辺企業では景気がかなり悪化するが、大きな影響を受けていない製造業では操業に変化がなく、扱う商品によっては需要の高まりで好況の企業もあるため、全体的にはやや悪くなる程度と推測する。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・飲食や観光業界の景気が戻らず求人がほとんどない。また、売上は回復しつつあるにもかかわらず第2波を警戒してなかなか増員に踏み切れない企業が多い。
	×	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルスの影響を受けて、広告業界、特にイベント部門は大きく落ち込む。
	×	職業安定所（職員）	・失業者の増加と求人の減少が予想され、就きたい仕事に就くことができない人が増える。
	×	民間職業紹介機関（所長）	・高校の就職担当者から、今年は就職試験が1か月遅くなったので、就職希望者全員が内定をもらえるか不安という声を聞いている。短大や大学も同様の状況のようである。

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)		衣料品専門店（総務担当）	・新型コロナウイルスが終息し、第2波がこないという前提で、今から回復してくるのではないかと期待している。
		住関連専門店（従業員）	・緊急事態宣言後も、外出を控えていた人の消費意欲の高まりに期待したい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・地域観光業支援策として、8月から国のGo To Travelキャンペーンが開始されるが、それに先行して、当県でもキャンペーンが間もなく始まる。期待している。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスによる状況が徐々に把握されており、消費者の安心感が若干増している。その結果、人の動向がはじめているが、第2波、第3波があると先行き不透明になってくる。
		商店街（代表者）	・景気回復とまではいかないが、徐々に消費行動は回復する。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・経済が動き出し、期待をしているが、ウナギの価格が非常に上がっていることが懸念材料となっている。今までに経験したことがないような価格で、土用の丑の日の価格が非常に不安である。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・新型コロナウイルスの影響も徐々に希釈化されていく。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの影響はまだ続くが、様々な規制が解除され、徐々に来店客数が回復するのではないかと期待している。
	百貨店（売場担当）	・新型コロナウイルスの影響が、更に落ち着けば、まだ来店が少ない高齢者層の増加で売上がプラスになり、第2波や第3波がなければ、回復傾向が一層強まる。ただし、今は特別定額給付金の影響も大きいので、大幅な回復にはならない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（経営企画担当）	・新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う自粛要請等が緩和され、消費マインドに改善傾向が見られている。更なる感染拡大等や不確定要素は内在しているが、現状が継続することを前提とした場合、改善しつつあると見込んでいる。
		百貨店（プロモーション担当）	・梅雨が明け、夏到来で気が緩み、感染の第2波が起こらなければ、徐々に回復すると予想しているが、新型コロナウイルス流行前には戻らず、新たな消費者価値観にアジャストしたシステム構築が必須である。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響による交通規制も緩和されるため、これまで以上に経済的に回っていき、来店客数は増加する。まだ、内食が継続すると予想されるため、食品スーパーマーケットは、この先2～3か月は前年比105%で推移する。
		スーパー（企画担当）	・今後の新型コロナウイルス感染拡大にもよるが、日常生活需要は確実に回復すると考えられる。また、特別定額給付金による需要も大型家電等で多くみられることから、景気は上向きになる。一方で、観光関連の動きは、回復に遠く及ばず、土産関連商品の動きは、しばらく不調が続く。
		コンビニ（経営者）	・第2波の感染拡大リスクはあるものの、新しい様式に沿った買物や国内旅行の動きは活発になると見込まれる。
		コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言解除後、経済活動が回復しつつある。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの自粛要請が緩和され、学校の部活や大会等、人の動きが見込まれる。
		家電量販店（総務担当）	・新型コロナウイルスの影響がまだまだ続いており、猛暑の予報からエアコンや扇風機等の需要拡大が見込まれる。
		家電量販店（従業員）	・暑くなり冷房器具の需要が増え、上向きになる。
		乗用車販売店（従業員）	・このままの流れで、来店客が増加傾向にあり、新型商品が出ることで、より多くの集客を見込んでいる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・コーヒー業界は、お中元等進物の時期になる。夏場は液体物飲料系の需要が多くなるため、売上は若干上がっていく。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスがそのまま終息の方向に進むのであれば、少しずつ元の状態に戻ると予想されるが、特別定額給付金を利用してもらえることを期待している。
		一般レストラン（スタッフ）	・特別定額給付金等で、消費が見込めるため、期待している。
		スナック（経営者）	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が解除され、徐々に生活のリズムが元に戻りつつある。ほとんどの商業施設が開店し、街にも人が多くなっている。4～6月が底であるならば、来月からは、やや良くなると予想されるが、決して景気が良い状態ではない。
		その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・新型コロナウイルス発生前の状態には戻っていないが、4～5月の最悪期から比較すると6月は状況が改善している。今後の政府の経済対策で、消費が促されることに期待している。
		観光型ホテル（総務）	・県境をまたいだ移動が緩和され、観光やビジネスの動きが加速するとみている。国内外の航空定期便も運航率が上がっており、流入人口の増加が期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・Go To Travelキャンペーンの効果が夏から秋に掛けて出ると予測している。ただし、第2波に備えての新常態のスタイルを早めに策定する必要がある。
		通信会社（企画担当）	・2～3か月のスパンで見ると、鎮静化していた営業活動が現在活発化しているため、受注は現状より増える見込みである。
		競馬場（職員）	・今後、営業再開に向けた動きが本格化する。
		理容室（経営者）	・来店を我慢していた客が戻りつつある。今から暑くなるため、少しでも状況が良くなることを期待している。
		美容室（経営者）	・夏になると、新型コロナウイルスの影響も少なくなり、客の動きも出てくる。おしゃれ業界も自粛生活から解放され、良くなっていくと予想するが、期待はできない。
		住宅販売会社（従業員）	・展示場来場者数も少し増加傾向にはある。ただ、新型コロナウイルスの状況を見据えて住宅計画を延期する客が増えており、景気傾向は今の状況が当分続く。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス第2波により、景気は大きく左右される。現在は予測できない状態のため、このまま収束すれば、景気は回復するが、収束できなければ、再び低迷していく。
		商店街（代表者）	・先行き不透明で、全く先が読めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着き、乗客数は徐々に戻りつつある。しかし、今後も業績悪化による企業の事業縮小が見込まれる。第2波が到来するまでは、現状維持をしなければいけない状態である。
		百貨店（営業担当）	・緊急事態宣言が解除されてからは、買物には慎重な動向がみえる。世の中が、再度デフレに進むのではないかとという兆しが見え始めており、その要因として、衣料品やラグジュアリーブランド、宝飾関係に大きなブレーキが掛かっている。一方、6月が主体となってきたお中元状況では、Webや電話受注が増えている。
		百貨店（営業担当）	・ダイレクトメール自粛や新型コロナウイルスの警戒による外出自粛、他県からの帰省制限で、強みの三世来店店の需要が減少しており、お中元ギフトセンターを含め来店店の回復は遅れると考えられるが、一方、通販部門は堅調で、感染防止意識により、お中元商戦を含めた利用増が予想される。一部し好性の高い舶来雑貨や工芸品、また、クレジット利用の回復は期待できるが、新しい購買スタイルへの慣れは遅く、感染収束まで購買意欲減退、慎重な購買姿勢、生命・生活防衛意識により、家族そろっての外出や街への入出、店頭購買共に回復は遅れる。
		百貨店（売場担当）	・当市の在住者で、新型コロナウイルス感染者がゼロであるため安心感はあるが、商店街は結構客が増加している。新型コロナウイルスの影響があり、3か月後は婦人・子供服テナントが全面撤退する。ブランドへの影響が出ており、先行き不透明であるが90%を割ることはないと予想している。
		スーパー（経理担当）	・新型コロナウイルスの発生以前の前年割れが続くペースに戻りつつある。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの影響は、今後も継続すると考えられるため、この停滞状況は変わらない
		コンビニ（エリア担当）	・先行きが読めないため、景気は変わらない。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスのワクチンや治療薬等の開発により、終息しなければ、この悪い状態が継続し、先が見通せない。
		衣料品専門店（店長）	・まだ新型コロナウイルス終息は不透明で、また、梅雨も影響し来店客のない停滞状態が続く。
		衣料品専門店（取締役）	・9月は、衣料品業界は好調であると予想しているが、ファッション業界では、欧州等からの輸入物となり、物量や納期を含めて、商材がそろわない可能性もある。また、買物の仕方にも大きな変化があり、消費者の慎重な買い回りやネット購入、加えて外出も減少しており、今後の需要が懸念される。当店のような、高額衣料品業界は、経営方針の対策を講じていかなければ、厳しい状況になる。
		家電量販店（店員）	・新型コロナウイルスは収束していないが、販売量は持ち直ししており、特にテレビや洗濯機、冷蔵庫、エアコンディショナーが非常に売れている。また、巣籠り需要の影響で、Webカメラやヘッドセット、プリンターが品切れをしており、機会損失している状況である。
		家電量販店（広報・IR担当）	・新型コロナウイルス感染状況で変わるため、先行き不透明である。
		乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスとは関係なく、例年から考えても定期的に活発に市場が動かない。購入を検討していた客も車検を既に受けてしまい、代替につながらない。
		乗用車販売店（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、来店客数が戻らない限り、販売増加は見込めない。2～3か月では急激な回復は見込めず、現状の低実績の状態が継続する。
		住関連専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの発生により、イベントや売出しが自粛になり、5月は極端に売上が落ちたが、6月は予想以上の回復であった。3～5月は買い控えて影響されたが、6月にはキャッシュレスによる需要が増加している。しかし、一部の地域は、再度感染が拡大しており、消費も慎重になり、家具の購入を控える傾向にある。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・今後の燃料油の小売価格傾向は、はっきりと見込みない状態であるが、緊急事態宣言が解除されてからは、客の来店頻度は戻りつつある。学校等が夏休みに入るが、夏休みが短縮されると、販売数量が前年から若干減少する予測をしている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・当面、インバウンドがない状況は変わらない。また、飲食関係や映画等エンターテインメントコンテンツも回復のめどが立っていない。
		高級レストラン（経営者）	・5～6月は、新型コロナウイルスの影響により、一番厳しい状況である。7月も状況は変わらず、どん底であると予想される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・まだ新型コロナウイルス感染の懸念は続くため、団体客や大幅な人の流れの増加は望めない。
		タクシー運転手	・全てが新型コロナウイルスの状況に懸かっており、少しずつ以前のように戻るように期待するしかない。
		タクシー運転手	・夏のイベントが中止になり、人の動きがまだ読めず、現状と変わらない。
		通信会社（企画担当）	・現在の好調が、そのまま維持できる。
		通信会社（業務担当）	・新型コロナウイルスは収束傾向にあるが、経済が元どおりになるとは考えづらい。売上が、以前の8割近くに返ると考えているが、残りの2割については、新しい働き方に合わせた対策を考えていかなくてはならない。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの第2波が発生するのではないかと不安である。
		ゴルフ場（従業員）	・新型コロナウイルスの終息が、いまだ見通せない。
		美容室（店長）	・特別定額給付金で、若干余裕が出ているようであるが、先行き不透明のため、今後も変わらない。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・現在、取引期間の長い製品を受注生産しており、2～3か月のスパンでは、変化がないと予想している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・短期的なキャンセルは減少すると予想されるが、今年度中は相対的に来客増加が見込めず、前年度割れとなる可能性がある。
		住宅販売会社（従業員）	・賃貸関係が、7月にしゅん工するため、入居配し公募をする。新型コロナウイルスの影響を心配していたが、問合せはある。業態により景気が良い企業とそうでない企業があり、飲食業のテナントからは、家賃値下げの要望がある。
		商店街（代表者）	・今後の新型コロナウイルス感染状況が、先行き不透明であり、特別定額給付金の効果も薄れ、その上消費税上げの影響もいまだに残っている状況であるため、良くなる要因が考えられず、若干悪くなると懸念している。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの終息のめどが立たないが、商店街はこれに加えて、夏の暑さとも戦っていかなければならない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・母の日が終わり、例年7～8月の売上が若干減少するが、秋口を期待している。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・お中元の時期ではあるが、今年は期待できない。新型コロナウイルスの緊急事態宣言解除後も感染者が増え続けている県もある。中心地では人の動きも通常に戻っており、県境をまたいだ移動が、更に心配である。
		百貨店（総務担当）	・新型コロナウイルスの第2波、第3波のおそれが強い。
		百貨店（業務担当）	・状況は非常に不安定であり、また外出自粛要請があるのではないかと心配している客が多い。例年の動きと比較すると、回復までには当分の時間が掛かると危惧している。
		スーパー（統括者）	・新型コロナウイルスの影響によるスーパーマーケットとしての特需も弱り、6月末までのキャッシュレスポイント還元終了等を鑑みても、今後は容易でない状況になる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・今月は自粛要請の影響で、客は、家飲み用にアルコール関係購入のため、夕方から夜に掛け来店があり単価が高くなっているが、今後、居酒屋や飲食店が再開すると客単価は下がり、客数も伸び悩むと推測される。新型コロナウイルスの終息次第ではあるが、売上の前年割れ回復には、居酒屋や飲食店の再開が大きく影響する。
		家電量販店（店長）	・当地域は完全に給付金の給付が終わっており、近隣地域と比較しても少し給付金消費の陰りが見え始め、このまま失速していくように感じている。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・今後2～3か月の状況は、新型コロナウイルス収束次第というところが大きい。緊急事態宣言解除後も第2波の状況が続いており、今後、一気に景気後退する可能性も大きいと考えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言解除後は、以前のような消費行動には戻らず、人々の消費に対する考え方に変化が出ている。
		美容室（経営者）	・本市では、新型コロナウイルスの感染者がまだ発生していない。特別定額給付金が給付されているため、それなりの来店がある。しかし、9月には第2波が発生する可能性もあるため、再度の補償等も検討してほしい。
		設計事務所（所長）	・設計案件が少なく、2～3か月先の結果は、余り良くない。
	×	商店街（代表者）	・客の多くは、新型コロナウイルス感染を警戒しており、消費者の来街が激減している。年内は、このような商況が続くと覚悟している。
	×	一般小売店〔青果〕（店長）	・野菜の相場は、台風による影響や学校給食のベースになるかぼちゃ、にんじん、たまねぎ、じゃがいもが、外国人労働者を受け入れることができないため、生産が間に合わず、高騰している。このことが、販売量にも影響してくる。
	×	スーパー（総務担当）	・新型コロナウイルスの影響による巣籠り需要等により、食品スーパーマーケットはこの数か月間に、客単価や買上点数が上昇し、前年比110～120%の売上で推移してきたが、ここに来て自粛ムードも和らぎ、徐々に以前の日常へと戻りつつある。今後は、客単価や点数の減少が懸念される場所であるが、また、キャッシュレス・消費者還元事業の終了も、少なからず消費マインドの低迷への影響を及ぼすものと考えられる。
	×	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの終息後も、消費マインドの冷え込みが継続するのではないかと懸念される。現在、損益の分岐点を切るような状況であるが、回復しても元の状況に戻るのには、非常に難しいと危機感を抱いている。
	×	コンビニ（店長）	・回復してきたように見えても、この数か月の借金と今後の見通しを考えれば、企業として持ちこたえることができるか、ひっ迫している状況である。
	×	衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルス感染者がほとんどいない地方もあるが、首都圏では、まだ感染者が発生しているため、出足が少なくない。1～2年は、景気の上向きは考えられない。
	×	家電量販店（店員）	・前月末からの調子の良さは、特別定額給付金による影響が大きい。しかし、3か月後の売上は、かなり減少すると予想している。
	×	乗用車販売店（代表）	・新型コロナウイルスの影響が、ますます出てくると考えられ、今後を注視している。
	×	高級レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスが終息しても、状況が良くなる保証はない。外出も減少し、海外や県外、県内からさえも動きが全くない状態であり、第2波の発生を警戒し動いている。
	×	高級レストラン（従業員）	・新型コロナウイルスの影響により、先がまだみえず、停滞している。
	×	居酒屋（経営者）	・現在、新型コロナウイルス感染者が増加しており、県境をまたいだ移動により、地方の感染者も増えると予想している。
	×	観光型ホテル（専務）	・補助金支給が終わった先が不透明で、懸念される。
	×	都市型ホテル（販売担当）	・先行きが全くみえず、今後は懸念される。
	×	観光名所（従業員）	・7月は4連休等があるが、例年のにぎわいには戻らない。問合せ等は、非常に多くなっているが、感染したときの対処や保証ができない。
	×	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	・新型コロナウイルスの影響による、利用減少や利用停止が響き、低迷は継続する。
	×	設計事務所（所長）	・現在は、手持ち物件で何とかなっているが、これまでの政府の新型コロナウイルス対策では、消費者は手持ち現金を確保することになり、住宅取得や住宅改修は、当面見合わせる状況になると考える。
	×	設計事務所（代表）	・新型コロナウイルスの影響が、どの程度継続するか不安である。
企業動向関連		経営コンサルタント（代表取締役）	・新型コロナウイルスが終息したわけではないが、経済は少し回り始めており、来月は良くなると予想され、100%戻らないとしても、8～9月に新型コロナウイルス感染状況が拡大しなければ、かなり上向いていく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(九州)		化学工業（総務担当）	・需要が落ち込んでいた製品が、持ち直しており、先行き若干明るい。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・産地への来訪者は、徐々に増えている。また、インターネット販売は良好で、7月は6月よりも伸びると期待をしている。
		電気機械器具製造業（取締役）	・下半期に向け受注状況は改善しつつあるが、新型コロナウイルスの第2波、第3波により悪化する可能性も予想される。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・現時点より生産台数は、当初の計画に対して9割レベルで緩やかに回復している。また、客により、台数の回復にばらつきがあるため、生産体制等は、引き続き調整している。
		建設業（従業員）	・新しい会計年度に入り、受注することができ、幸先の良いスタートが切れた。見積案件もそこそこあるため、有力物件を受注できれば景気も良くなる。
		金融業（営業）	・当面は自粛ムードによる横ばいが続くが、緊急事態宣言から続いた制限の解除により、徐々にサービスの供給が開始され、緩やかながら回復してくると考える。今が一番底である。
		広告代理店（役員）	・新型コロナウイルスが一段落し、客のコミュニケーション活動が徐々に回復することが期待できる。
		農林水産業（経営者）	・今月に至っては、前年比90%までに戻っており、徐々に元の状態に回復している。しかし、外食部門は、まだまだ厳しい状態で、完全に戻るまでには、1～2年掛かると予想される。したがって、外食部門に代わる新しい流通システムを構築する必要があり、厳しい1年になるが、いかに効率化や費用削減等を図り、今の状況を回避できるか模索しているところである。
		食料品製造業（経営者）	・荷動きが悪く、商品在庫も予定より残っている状況から、回復までは時間が掛かる。
		家具製造業（従業員）	・内需はやや戻りつつあるものの、宿泊客が大幅に増えている状況ではない。ワクチン開発による安心感が出ることで、多少上向いてくる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・この不安定な状態が、いつ爆発するか計り知れない。客からの情報で対策を立てなければならないが、今の状態では、現状がしばらく継続すると考えられる。
		精密機械器具製造業（従業員）	・依然として、受注生産が低減したままで悪化している。まだまだ先行きが見えない状況にある。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・基本的な需要はあるため、今後の増産に期待したいところではあるが、新型コロナウイルスの終息が見えない限りは、まだまだ景気の回復はないと予想している。
		輸送業（従業員）	・以前よりは受注量も回復傾向ではあるが、前年同期と比較しても大きく落ち込んでおり、荷主から、営業ができず回復まで数か月以上時間を要すと連絡がある。
		通信業（職員）	・新型コロナウイルスの影響を危惧していたが、情報通信関連の案件に対しては、追い風になっている側面もある。
		金融業（調査担当）	・日本において緊急事態宣言は解除されたものの、世界中で新型コロナウイルス第2波の流行等もあり、まだまだ人々の警戒心は高い。今後3か月後も、景気浮上は期待できないと考える。
		金融業（営業担当）	・緊急事態宣言後、一部の取引先の売上は、元の状態に戻りつつあるが、全体的には、1月頃の売上には大きく達していない。3か月後も動きとしては変わらず、また、売上の低下は、資金繰り融資のセーフティーネットで購入しているが、その資金が尽きる可能性もあり、非常に不安定である。
		金融業（調査担当）	・経済活動は、徐々に再開されているが、新型コロナウイルスの終息が見通せず、第2波、第3波に対する懸念が完全に払拭されない限り、景気回復の足取りは鈍いものとなる。
		不動産業（従業員）	・ホテル部門の稼働率の低迷が、継続している。
		経営コンサルタント（社員）	・当分は現在の新型コロナウイルス対策が続き、まずは通常ペースに帰るのが急務である。
	経営コンサルタント（社員）	・店頭購入より、宅配利用が増加している。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先は、新型コロナウイルスの影響により、引き続き厳しい状況が続く。	
	その他サービス業〔物リース〕（職員）	・投資抑制は継続しており、来月良くなるとは考えにくい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		食料品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの経済への影響は、まだまだ続く。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・今月の状況は、国勢調査開始に向けた購入が主な要因であり、調査開始予定月より逆算した場合、6月末で購入は落ち着く。
		金属製品製造業（事業統括）	・ホテルや老健施設、病院、学校等、全て新型コロナウイルスの影響を大きく受け、特にメンテナンスサービスの受注では、訪問ができない状態が続いている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・今後、数か月発注計画であった装置が延期になっており、見通しが悪い状況である。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・新型コロナウイルスの影響による打撃は、すぐには回復しない。
		建設業（社員）	・今年度前半で国体関連の発注が完了する予定であったが、国体が中止となったことによる地元企業に及ぼす影響は大きく、今後の懸念される。
		通信業（経理担当）	・新型コロナウイルスの影響で先行きが不透明である。
		金融業（従業員）	・緊急事態宣言が全面的に解除されたとはいえ、新型コロナウイルスに対する懸念は解消されていない。国内外の観光客数や百貨店、ホテル、飲食店等の売上もおおむね底は打ったとみられるが、回復力は弱く、政府の大型景気対策に多くが期待している。
	×	農林水産業（従業者）	・当地では、一部企業を始め、今後は自動車業界等の閉鎖や解雇が想定される。これは第一次産業にも影響を与える可能性があり、消費者動向を見据えた産地戦略が重要である。
	×	繊維工業（営業担当）	・大きな工場はまだ閉鎖していきと予想される。小さな工場だと、マスクや防護服でも生産していけるが、今、百貨店の生産をしているところである。オーダー商品を生産している工場もあるが、大きな工場になるほど難しい状態である。
	×	一般機械器具製造業（経営者）	・現在の社会構造では、取引先を含め、この先の景気が回復する時期が遅くなると悲観的な声も多い。
	×	輸送業（総務担当）	・人の往来が解除された途端、新型コロナウイルスの感染者が増えている。感染拡大の第2波がくることが確実視され、再度経済は落ち込むことは必須である。この状況では、生き残ることを第1優先として模索していかなければならず、設備投資や業務拡大を控えれば、ますます景気は悪化する。
	×	新聞社〔広告〕（担当者）	・好材料が見当たらない。
	×	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・新型コロナウイルスの感染防止に市町村が追われており、調査や計画策定の委託業務の発注が滞っている。また、他県では、当県にある事務所が県境を越えないように、県内の業者へ調査や委託業務を発注する市町村もみられるため、当県に事務所がある事業所は、受注量が減少することが見込まれる。
雇用関連		-	-
(九州)		人材派遣会社（社員）	・with新型コロナウイルスを打ち出し、披露宴・パーティ宴席が少数ながら復活している。
		人材派遣会社（社員）	・緊急事態宣言解除以降、タクシー利用者数が増加しているが、まだ50%程度である。繁華街に人が戻ってこない限り厳しいが、新型コロナウイルスの影響が現状のままであれば、2～3か月後には客足が戻ると見通している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・夏休み、秋の行楽シーズンに向けて、地元企業も積極的に動き始めることを期待している。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	・新聞の近距離国内旅行や宿泊施設広告も復活し、人の動きが活発になっている。しかし、回復のペースは緩やかであり、まだ、海外旅行の広告は動きなく、新型コロナウイルス発生前に戻るのには、まだまだ時間が必要である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・地元では、新型コロナウイルスの感染も落ち着き、夏には人が戻り、消費行動も盛んになる。観光支援策のスタートもあいまって、景気は上向いてくると考える。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの影響により、現在、経済や生活が変わりつつある状況にあり、2～3か月の短期間で、景気の好況を感じることはない。
		人材派遣会社（社員）	・今後の新型コロナウイルス感染状況次第の企業が多い。休業手当を支給せずに済む状況になっており、徐々に以前と同じような企業活動に戻ってきている。ハローワーク等の求人も若干ではあるが増えている。
		人材派遣会社（社員）	・良くなる兆しがないので、現状のままである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
x		職業安定所（職員）	・政府から様々な支援策が取られているものの、利用できるものが限定的であるため、その効果に実感がない。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス感染対策が、今の急激な景気状況の変化の発端であるが、以前から求人数が前年比より減少しており、有効求人倍率も前年比で低下している。新型コロナウイルスの影響がなくなったとしても、その傾向は変わらないと予想される。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・新型コロナウイルスの影響による企業の経済活動は、徐々に回復してくると予想されるが、2021年卒業の新卒採用が再開するとは考えにくい。
		職業安定所（職員）	・求職者数は微増程度であるが、イベント関係や宿泊、旅客運送業の求人の動きは鈍く、求人の総量は減少したままであり、職業紹介件数が伸びない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルスの影響による、公的な休業補償等もあり、経営再開が先決でスタートしているが、消費低迷が続いており、次第に広告会社では会社の解散、従業員の解雇も出ている。年内には、その影響が出るのではないかと危惧している。

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)		百貨店（店舗企画）	・社会的にも新型コロナウイルス感染症に対し学習を重ね、うまく付き合う方向への転換がみえているため、徐々にではあるが、明るい兆しがうかがえる。
		観光型ホテル（マーケティング担当）	・今月は半分以上の日程でホテル営業を休業していたので、今月と比べれば今後2～3か月先の客室稼働率は良くなっていくと考えられる。ただし、前年同月比で考えると、どの月も前年実績を下回る見込みである。まだまだ新型コロナウイルスによる影響は大きく、厳しい状況が続く。政府のGo Toキャンペーンの具体的な助成内容の決定、早急な開始を期待している。
		コンビニ（副店長）	・今月19日に移動自粛が解除され、前月より人の流れが良くなったとみられる。特に深夜の来店客数が若干だが戻ってきている。
		乗用車販売店（経理担当）	・国内観光客が少しずつ増えてきている。底は脱している。
		その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・予約状況は、前年比でのマイナス幅が月を追うごとに改善傾向にある。ただ飽くまでも今の最低状態と比べてなので、厳しい状況には変わりはない。
		スーパー（企画担当）	・引き続き新型コロナウイルス禍により先行きが不透明である。
		コンビニ（経営者）	・観光客が増えてこない、来客数の減少で売上高が減少する。
		コンビニ（経営者）	・他府県への移動自粛の解除が行われるなかでも、首都圏での新型コロナウイルス感染者数は多く、来県者による新型コロナウイルス感染の恐怖感払拭できない。自然と場所、時間帯により行動自粛を行う可能性が大きいと、店舗への来店頻度及び来店客の減少は否めないと考える。
		衣料品専門店（経営者）	・今月は、前半から中盤に掛けてまだまだ自粛モードがあつて客が少ない状態であったが、後半に掛けては客の出も良くなった感がある。しかしまだ購買にはつながっていない感じがしない。景気としてはまだまだ良くなる感じがしない。これからどうなるか、予断を許さない状態である。
		衣料品専門店（経営者）	・分からないため、変わらないと答えている。新型コロナウイルス感染の拡大か、終息か、先の読めない状況は変わらない。
		観光型ホテル（代表取締役）	・先々の予約もまだ増えていない。現在の状況とほぼ変わらない。
		旅行代理店（マネージャー）	・新型コロナウイルスが終息しないとどうしようもない。
		通信会社（営業担当）	・今月は5月までの反動でやや良くなるはなったが、今後しばらくは新型コロナウイルスへの警戒のため大きな回復はみられないのではないかとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（代表取締役）	・新型コロナウイルスの影響で収入が落ち込んでいる客も多 いと考えられ、当面建築意欲は弱含みで推移するとみられ る。
		スーパー（販売企画）	・新型コロナウイルス禍による社会経済の厳しい状況は、将 来の景気を悪くすることは否めない。
		通信会社（サービス担 当）	・新型コロナウイルスの影響がまだあり、来客が少ない。
	x	商店街（代表者）	・現状では新型コロナウイルスがまん延ではなくとも、ワク チンができ上がっていないので、県民も危惧している。ワク チンができれば対応が変わってくるのではないかとみている 。現在は飲食店等の店舗が大変な状況に陥っているので、 景気の回復はまだ難しいとみている。
	x	その他飲食〔居酒屋〕 （経営者）	・飲食客の新型コロナウイルスに対する意識が薄れているの と旅行者の増加で、感染者の増加が懸念される。第2波、第 3波が来て、また外出自粛となると耐え忍んで営業を続けら れるだけの資金を準備できない。今回で緊急融資、対象補助 金を使い果たしている。
	x	観光名所（職員）	・新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波を心配してい る状況である。
企業 動向 関連 (沖縄)		-	-
		食料品製造業（総務）	・新型コロナウイルスの感染が拡大しなければ安心感が広が り、経済活動に活気が出てくる。
		窯業・土石製品製造業 （経営者）	・今後も現状と変わらない見通しである。
		建設業（経営者）	・住宅の相談に客が来ても、新型コロナウイルスの先がみえ ないからということで一方向に進まない。
		輸送業（代表者）	・宮古島、石垣島の建設関連は、官需部門においては依然好 調に推移する見込みだが、民需では一部のホテルやアパート 等で落ちている。
		輸送業（経営企画室）	・自粛が全面解除されたことにより観光客も増えてきてい るとみられる。一方で前年比では引き続き悪い状況であるとみ られる。
		広告代理店（営業担 当）	・県内企業は、基幹産業の観光市場が回復して県内景気が上 昇していくことを期待しているものの、新型コロナウイルス 発生以前の活況が戻ってくることは難しいとの認識もあり、 引き続き販促活動は縮小均衡のままだとみられる。
		x	会計事務所（所長）
雇用 関連 (沖縄)		-	-
		求人情報誌製作会社 （営業担当）	・県をまたぐ移動の自粛が解除されて、観光客が増える。
		求人情報誌製作会社 （編集室）	・6月は求人件数の前年同月比減少幅が4～5月より大分良 くなっている。特に居酒屋等は、新型コロナウイルスの影響 を余り受けていなかった2月の求人は週平均30～40件あつた のが、4月は数件まで減少していた。6月は20件前後まで回 復している。
		職業安定所（職員）	・観光関連業種も含め幅広い業種で新規求人募集がはじめて いる。
		学校〔大学〕（就職支 援担当）	・新型コロナウイルスの終息がみえないため、不安が広がっ ている。
		学校〔専門学校〕（就 職担当）	・緊急事態宣言は解除されたが、社会活動は明らかに変化し ており前年と比較することはできない。この先も予断を許さ ない状況が続くと懸念される。ワクチン開発や予防策が完成 しない限り終息とはいえない。不安は増す一方である。
	x	-	-